

平成 26 年度
東北農業研究センター一年報

Annual Report
of
NARO Tohoku Agricultural Research Center
2014

平成27年10月



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

(岩手県盛岡市下厨川)

* 農研機構は、国立研究開発法人農業・食品産業技術
総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）
です。

* 本誌から転載・複製する場合は、当センターの許可
を得てください。

平成26年度 東北農業研究センター年報

目 次

I 総 説	1
1. 沿革	1
2. 機構	2
3. 平成 26 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み	3
1) 研究業務の推進	3
2) 地域・行政との研究連携・協力	3
3) 産学官連携のための活動	3
4) 研究成果の広報・普及	3
5) 所内における研究活性化等	4
4. 研究業務の概要	5
II 研究情報活動	13
1. 研究成果の発表（原著論文・学会発表等・著書等）	13
2. 特許・品種登録等	56
1) 特許・実用新案の出願及び登録	56
2) 種苗法による品種登録	57
3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数	59
1) 育成品種（平成 26 年度出願）	59
2) 育成品種一覧（平成 27 年 3 月現在）	60
3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数	68
4. 広報活動	70
1) 所刊行物	70
2) 視察者・見学者の受入（一般公開は除く）	71
3) 催事（一般公開、イベント、体験学習等）及び協力	71
4) シンポジウム・セミナー（主催又は共催）	74
5. 図書資料収集・文献提供等	77
III 連携・研修・技術協力	79
1. 産学官の連携・協力	79
1) 産学官連携支援活動	79

2) 行政との連携・協力	79
3) 大学との連携・協力	80
4) 共同研究・協定研究等の実施状況	80
5) 依頼分析等の実施状況	81
6) 開放型研究施設の利用状況	82
2. 研究者の受入れ等	83
1) 交流	83
2) 留学	83
3) 研修・講習等	83
4) 外部研究者	84
5) その他	85
3. 研究者の派遣等	85
1) 交流	85
2) 留学	85
3) その他	86
4. 技術協力・指導	86
1) 研修会等への講師派遣	86
2) 海外出張	90
3) 講習会等の開催	90
5. 国際会議・研究集会（参加）	91
IV 諸会議一覧	93
V 表彰・学会賞等	99
VI 各種委員会	101
VII 平成 26 年半旬別気象表（平成 26 年 1 月～ 12 月）	105
VIII 東北農業研究センターの所在地等	113

I 総 説

I 総説

1. 沿革

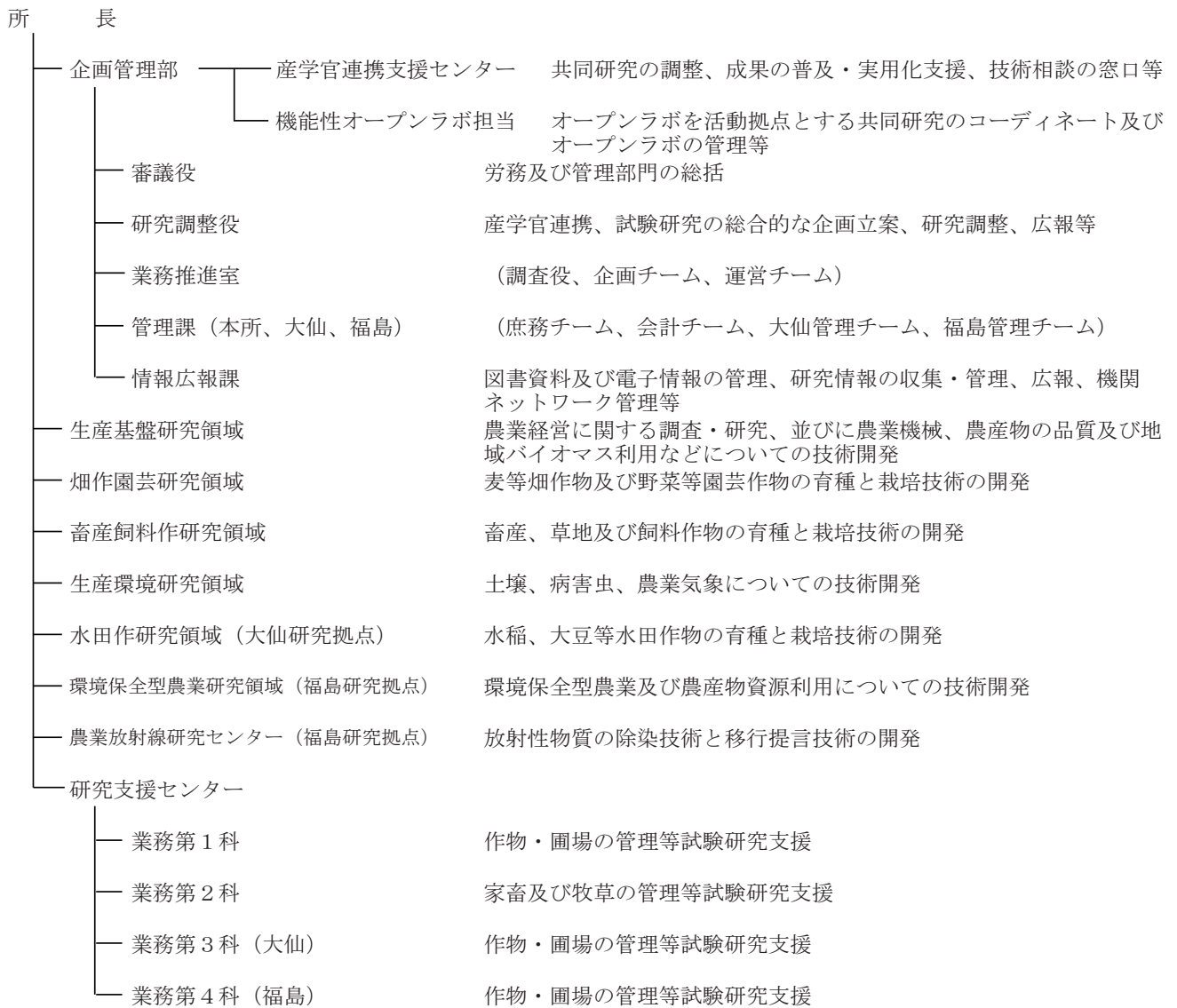
- 昭和25年(1950年) 4月 東北農業試験場が岩手県盛岡市下厨川字赤平の岩手種畜牧場厨川分厩跡(旧岩手種馬所、明治40年(1907年)創設)に設立。(これは、当時全国的に実施された農業関係試験研究機関の整備総合計画の一環として、3支場・1支所・3試験地(農事試験場東北支場、同三本木原営農支場、園芸試験場東北支場、開拓研究所、農事試験場東北支場刈和野試験地、同東北支場盛岡試験地、同三本木原営農支場厨川試験地)を統合して、栽培第一部、栽培第二部、刈和野試験地、園芸部、畜産部、農業経営部、土地利用部の組織からなる国立の地域農業試験場の一つとして発足したものである。)
- 昭和38年(1963年) 4月 農業技術部を新設(6研究室)。
- 昭和42年(1967年) 6月 環境部(5研究室)を新設。
- 昭和46年(1971年) 4月 草地部を新設(2研究室)。
- 昭和53年(1983年) 12月 蚕糸試験場東北支所を編入し、畑地利用部(5研究室)を新設。
- 昭和60年(1985年) 4月 企画連絡室にヤマセ対策官を新設。
- 昭和63年(1988年) 10月 地域農業試験場の組織再編が行われ、東北農業試験場の研究体制は、企画連絡室(企画科、連絡科、1研究技術情報官、情報資料課、3総合研究チーム、3業務科)、地域基盤研究部(6研究室)、農村計画部(7研究室)、生産工学部(3研究室)、作物開発部(6研究室)、水田利用部(6研究室、1科)、畑地利用部(5研究室)、畜産部(4研究室)、草地部(4研究室)となる。
- 平成3年(1991年) 10月 生産工学部を廃止し、企画連絡室に研究技術情報科を新設。
- 平成5年(1993年) 10月 農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームを統合し、作物開発部に遺伝資源利用研究室を新設。
- 平成8年(1996年) 10月 農村計画部を改組し、総合研究部を新設。
作物開発部遺伝資源利用研究室を改組し、畑地利用部畑作物栽培生理研究室を新設。
- 平成13年(2001年) 4月 農業技術研究を担っていた12の国立研究機関(農業研究センター、果樹試験場、野菜茶業試験場、家畜衛生試験場、畜産試験場、草地試験場、北海道農業試験場、東北農業試験場、北陸農業試験場、中国農業試験場、四国農業試験場、九州農業試験場)を統合・再編した「独立行政法人農業技術研究機構」が設立。
同機構内に、東北農業試験場と野菜・茶業試験場(盛岡)の業務を継承する機関として東北農業研究センターが設立。これに伴い、畜産部と草地部の統合、野菜花き部の新設、連携研究チームの新設、企画調整部及び作物機能開発部を設置。
- 平成15年(2003年) 10月 独立行政法人農業技術研究機構は、特別認可法人生物系特定産業技術研究推進機構と統合し、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構となる。
- 平成18年(2006年) 4月 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構は、独立行政法人農業工学研究所、独立行政法人食品総合研究所及び独立行政法人農業者大学校(平成23年度末に終了)と統合し、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。研究組織は、研究部・研究室制からチーム制へ移行。
東北農業研究センターの組織は、企画管理部、研究管理監、14のチーム、8のサブチーム、4名の特命チーム員及び研究支援センターで構成。
- 平成19年(2007年) 4月 研究調整役を長とする産学官連携支援センターを設置。
- 平成20年(2008年) 4月 病害抵抗性研究東北サブチームを大仙研究拠点に設置。サブチームの数が9となる。

平成23年(2011年) 4月 研究組織は、チーム制からプログラム・プロジェクト制へ移行。企画管理部、6の研究領域及び研究支援センターからなる。

平成24年(2012年) 4月 福島研究拠点に農業放射線研究センターを新設。

平成27年(2015年) 4月 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構は、独立行政法人制度の見直しにより、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。

2. 機 構



3. 平成 26 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み

1) 研究業務の推進

平成 26 年度は、第 3 期中期目標期間の 4 年目として中期計画に沿った研究推進を図り、後述の研究業務の概要に示した内容で実施し、研究成果情報 31 課題（うち普及成果 9 課題）のほか、多くの論文、品種、特許等の研究成果を得た。

東日本大震災に対応した研究課題については、平成 25 年度に放射性物質分析棟が開所した農業放射線センターを中心に、中課題「高濃度汚染土壌等の汚染技術の開発と農地土壌からの放射性物質の流出実態の解明」及び「農作物等における放射性物質の移行動態の解明と移行制御技術の開発」を行った。

かねてより東北各県及び東北農政局から、鳥獣害に関する試験研究機関としての対応を要望されていたことから、東北各県の担当部局の出席を得て、「東北地域における予防的イノシシ・ニホンジカ被害対策に向けた研究会」及び「東北地域における鳥獣害問題対応課題立案に向けた研究会」を開催した。

その他の研究課題としては、次項「Ⅱ 平成 26 年度小課題（大課題研究費）・外部資金等実施課題一覧」に詳述した。

2) 地域・行政との研究連携・協力

東北農政局主催の「東北地域研究・普及連絡会議」（26 年 10 月、福島農業総合センターほか）では、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2015 候補の選定を行ったほか、200X の追跡調査結果（今回は主に 2010 技術）に基づいて、普及事例の紹介（各県）及び普及課題の克服のための意見交換を行うとともに、東北農政局から鳥獣被害対策に向け、各県研究機関等へ協力をお願い、情報提供などが行われた。また、福島県いわき市、川俣町にある先端技術展開事業の現地実施施設などを見学し、同事業の内容と進捗についての説明を受けた。

東北農業試験研究推進会議における推進部会は、稲、畑作物、農業生産基盤、生産環境、畜産

飼料作、野菜花き、果樹の 7 部会に分かれ、夏期研究会（26 年 7～10 月）、推進部会（26 年 1～2 月）等を実施した。推進会議「研究戦略会議」（26 年 10 月）では、戦略目標として「現地実証研究を地域農業の振興に結びつけるための連携」を掲げ、東北地域の県・独法機関で取り組んでいる主な現地実証試験の各概要及び研究・普及推進上の問題点の紹介が行われ、情報共有を行うとともに、分野間・県間などの連携、推進会議が果たすべき役割などについて、各推進部会及び各県から上げられた内容を元に議論が行われた。また、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2015 候補の検討も行った。推進会議「本会議」（27 年 2 月）では、重点検討事項「東北地域の水田農業における技術・経営的課題と研究の推進」についての検討を行った。

3) 産学官連携のための活動

いわて産学連携推進協議会の主催するリエゾン－I マッチングフェア 2014（11 月、出展団体数 10、出店課題数 10、参加者数約 80 名）に出展し、最近育成された 2 品種（「銀河のちから」、「シュウリュウ」）、3 技術（リン酸減肥技術、牛行動姿勢プログラム、土壌病害抑制育苗法）を展示パネルとショートプレゼンテーションで紹介した。また、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会の中で、農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化推進を目的とした産学官連携共同研究検討会議が 3 回開催され、積極的な参加を促した。一方、当所幹部による連携普及現場 10 カ所へ訪問し、東北農研開発品種や技術の普及状況に関して、実需者との意見交換を行った。

他機関との研究連携として、26 年度は、継続を含めて共同研究を 29 件（相手機関数 42）、協定研究を 35 件（相手機関数 40）実施した。大学との連携については、岩手大学との間で「連携大学院協定」（18 年 4 月）を締結しており、26 年度は、当所職員 15 名が客員教授として専門的立場から学生に指導助言を行った。

4) 研究成果の広報・普及

「平成 26 年度東北地域マッチングフォーラム」

(11月、盛岡市)は、「飼料用米給与が畜産物生産に与えるメリット」をテーマに、生産者、農業団体、各県の行政・普及・研究機関などから211名の参加者を集めて開催した。第57回東北農業試験研究発表会(7月、仙台市)では、東北地域内の農業関係試験研究機関から77課題の研究発表が行われ、研究・普及関係等245名が参加した。

一般公開については、本所の菜の花公開(5月)と一般公開(9月)、大仙研究拠点の一般公開(8月)を開催し、当所の研究成果を積極的にアピールした。また、科学技術振興機構が主催するサマー・サイエンスキャンプ2014「バイオマスエネルギーを体験してみよう」をテーマとして8月に全国から9名の高校生の参加を得て実施するとともに、同じく科学技術振興機構からの委託により「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENHI」を開催し、岩手県内から17名の高校生の参加を得て実施した。その他、小学5年生を対象とした「田んぼの科学教室」(7月、大仙研究拠点)の開催や小中学生の自然観察や体験学習、大学生の施設見学などを積極的に受け入れ、科学技術離れ対策に協力した。

外部への広報活動としては、ベーカリー素材EXPO(6月、東京)、アグリフェア2014inふくしま(7月、郡山)、オーガニックフェスタinいわて2014(9月、岩手)、岩手県全国農業機械実演展示会(8月、岩手)、アグリビジネス創出フェア2014(11月、東京)、大仙市秋の稔りフェア(10月、大仙市)、第137回秋田県種苗交換会(10・11月)、ビジネスマッチ東北2014(11月、仙台市)、食のブランド・ニッポンフェア2014農研機構 食のセミナーin丸の内タニタ食堂(9月、東京)、第9回JAグループ国産農畜産物商談会(27年3月、東京)等への出展・協力を行った。

報道機関に対しては、4月に「田畑輪換により大豆を作付けた水田の地力低下の実態と維持改善法」、7月に「高純度セラミドを工業的に連続生産する技術」、10月に「稲発酵粗飼料に適する水稻新品種「べこげんき」を育成」、「多収で直播栽培向きの良食味水稻新品種(ちほみのり)」、「倒れにくく、いもち病に強い水稻モチ新品種(ときめきもち)」等の発表を行った。

また、当所が開発した新技術について、現地での技術指導等を通じて広範な普及を図る「出前技

術指導制度」を推進した。26年度は、飼料米専用品種の栽培技術、四季成り性品種「なつあかり」の栽培技術、ウリ科野菜ホモプシス根腐れ病の総合防除技術、水稻の直播技術、小麦「ゆきちから」の多収栽培技術、「萌えみのり」「ときめきもち」「朝紫」の栽培講習、加熱調理用トマト等について、19件の現地技術指導、実演、技術相談、講演会などを実施した。

5) 所内における研究活性化等

本年度は、特に次世代の人材育成、シーズ開発の促進に重点を置くことを当所の研究活動強化計画の実施方針とし、同実施方針に基づき、4月1日付け新規採用者2名が速やかに研究環境を整えるための「人材育成スタートアップ経費」を配分するとともに、所内研究活性化経費を用いて、人材育成、専門分野の深化、シーズ開発に資する研究計画を募り、優れた16課題に対して予算配分を行った。また、「地域営農モデルの実現に資する研究開発」、「マーケット・イン型の作物品種開発」、「農地の放射能除染や作物への放射能移行低減技術開発の強化」を三本柱と定め、重点化して研究推進するにあたり、所内の若手・中堅研究者(独法採用10年以内)を中心に研究計画を募り、優れた8課題に対して予算配分を行った。

各研究分野においては、各種発表等の予行演習会や独自開催のセミナーを随時開催した。東北農業研究センターセミナーは、講師を外部から招くなどして4回開催した。また、農業放射線研究センターに所属する4名の研究員が日露農業技術交流に基づく訪露農業技術交流として訪露し、ロシア農業科学アカデミー、トゥーラ農業科学研究所、全ロシア農業放射線・生態学研究所、全ロシアウィリアムズ飼料研究所において意見交換を行ってきたことについて、特別セミナーを開催して得られた知見の紹介を行った。

4. 研究業務の概要

生産基盤研究領域

生産基盤研究領域は、農業経営に関する調査・研究を行う農業経営グループ、農業機械や作業システム、地域バイオマスに関する技術開発を行う農業機械グループ、作物生理や品質・機能性に関する研究や技術開発を行う生理機能グループで構成されている。

農業経営グループでは、新技術の経営的評価、ビジネスモデルの策定、食農連携などの研究課題を担当している。

新技術の経営的評価については、大規模リング作の成立構造について調査し、摘花剤、無袋栽培などの省力技術体系を導入することにより、労働生産性等を低下させずに規模拡大が可能となることを研究成果情報として公表した。東北地域の耕畜連携について、最近の水稻部門の収益性の低下は耕畜連携の存立を困難にしており、中山間のような規模拡大が困難な地域においては、集落営農型の耕畜連携システムが有望であることを提案した。その他、東北地域の農業経営の動向解析を進め、2005～2010の間は「稲単作経営」面積の減少、「稲・大豆経営」が増大し、増大部分は組織経営体によるものであることを解析した。また、宮城県の大規模法人経営の作業日誌の解析を進め、主要作業の作業時間について生産費調査と比較した。今後は、新技術の導入効果について検討していく。

ビジネスモデルの策定では、新たなマーケティング手法としての贈答用リングの「おすそわけ袋」について、新規顧客拡大に効果的であることを普及成果情報として公表した。また、観光客をターゲットにした直売所のビジネスモデルについて、岩手県A直売所の自前の「土産品」の製造・販売についてトレースするとともに、その地域経済効果を試算した。陸前高田市の直売所を例に、加工品の販売戦略を策定するために、直売所の実態や加工品販売元の意向等を明らかにし、2商品の商品化候補として選定した。

食農連携については、有機農業・有機農産物販売を対象に、生産者と消費者間の提携活動について、販売方法、機能分担等についての定量的解析

を試みた。また、農産物購買・消費行動について明らかにするために、これまでのモニター調査データを解析し、購入理由やメニュー選択理由の頻出語の抽出を行った。

農業機械グループは、主に高生産性水田輪作システムの確立と地域資源を活用したバイオマス循環利用システムの開発に取り組んでいる。

高生産性水田輪作システムについては、宮城県津波被災地域を対象にプラウ耕グレーンドリル播種体系を基軸とした稲-麦-大豆2年3作水田輪作体系を現地（名取市）の合筆した3.4haと2.2ha大区画水田、また今年新たに合筆した1.5ha、1.6ha、0.9ha大区画水田に導入し、省力機械化技術と安定多収技術の現地実証試験を行った。水稻品種「ひとめぼれ」を用いたプラウ耕・グレーンドリル播種方式（4月10日播種）による乾田直播の全刈収量は552kg/10aを得ることができた。また、麦については、水稻収穫後に同体系で2013年11月1日に播種した小麦「シラネコムギ」の収量は344kg/10a（篩目2.5mm）を得た。大豆については、「あきみやび」を同体系で7月3日に播種し最大301kg/10aが得られた。なお、プラウ耕グレーンドリル播種体系の試験は、東松島市においてもほぼ同様の試験を実施している。

水田輪作システムに係る土壌水分制御技術については、水稻乾田直播の適用地域を拡大するため、多様な土壌条件と減水深の関係を調査し、下層土にグライ土がある場合には減水深が低く、下層土の透水性が高い場合は地表面の鎮圧が重要であることを明らかにした。また、営農排水技術については、暗渠管と疎水材の同時埋設が可能な暗渠施工器を開発して現地適用性を確認し、研究成果情報として公表した。この他、合筆水田のGPSレベラーの作業性と地カムラの検出方法、雑草の発生と防除技術等について検討した。また、水田輪作作物の一つとして、子実用トウモロコシについての試験を開始し、収量性や収穫方法等について検討した。

地域資源を活用したバイオマス循環利用システムについては、燃焼装置トラブルの原因となる灰の溶解温度について調査し、草本系バイオマスとして有望なジャイアントミスカンサスでは下部の溶解温度が高く、燃料としては上部の収穫により溶解温度が低くなる可能性が示された。これら未

利用バイオマスについて、エネルギー自給システムのモデル化を進めるために、核となる要素技術であるナタネ油の SVO 仕様発電機の連用試験や薪ボイラー熱源穀物乾燥機との組合せ等の試験を実施した。地域バイオマスの利用については、廃食用油を直接燃料として発電機を運転し、米の乾燥機、粳すり機を駆動させる実証試験を実施した。

生理機能グループの研究内容は、作物生理に関する研究と機能性評価に関する研究とに分けられる。

作物生理に関する研究では、機能性成分であるビタミン E について、新規のビタミン E 合成遺伝子の全長配列と発現様式を明らかにし、その遺伝子発現抑制イネを解析することで、新規遺伝子はビタミン E 合成だけでなく、クロロフィル合成にも関与していることを明らかにした。

水稻の低温障害について、幼穂形成前に 18℃の低水温に 2 週間遭遇すると穎花の耐冷性が低下することを明らかにし、これには熱ショックタンパク質が関与し、その制御遺伝子の発現が高まることを研究成果情報で公表した。

種子におけるアクアポリン（水分制御に関わる膜タンパク質）の発現特性について調べ、2 種のアクアポリンが大部分であるが、高温登熟に対しての両者の応答や局在性等は異なっていることから作用性は各々異なるものと推測した。また、水分制御に関わる根のアクアポリンの mRNA 発現量の変化等も調査した。

イネの放射性セシウム吸収抑制技術のために、コシヒカリとセシウム吸収能が高いインド型品種タカナリを用い、セシウム吸収の抑制条件であるカリウムの濃度の異なる栽培条件下において、セシウム吸収・分配に関する試験を開始した。

機能性評価については、ハウレンソウの抗酸化能（H-ORAC 値）とルテイン含量について、業務加工用を想定した栽培条件において両者が減少しないことや、施肥などの栽培条件や品種間差について調査した。また、ハウレンソウの寒締め栽培によりフラボノイドが増加することとその組成変化、また H-ORAC 値が増加することを明らかにし研究成果情報として公表した。

畑作園芸研究領域

畑作園芸研究領域は、畑作物育種グループと野菜花きグループで構成されている。

畑作物育種グループでは、麦類（大麦、小麦）並びに特産作物（ナタネ、ハトムギ、ソバ）の新品種育成と育種法の開発を行っている。小麦の育成では寒冷地向け、パン中華麵用超強力小麦「東北 225 号」を「こしちから」として品種登録出願を行った。また製パン性に優れ、縞萎縮病に強く、難穂発芽性で「ゆきちから」より容積重が大きく外観形質に優れる東北 233 号を育成した。有望系統「東北 228 号」の刈り遅れに伴う穂軸折れについて調査を行った結果、対象の「ゆきちから」に比較すると穂軸が早期に折れやすいことが明らかになり、品種登録出願に関しては、再検討とした。マーカー基盤では、マーカーが不足している D ゲノム上に 304 個のマーカーを開発した。これらのマーカーを我が国の主要品種や交配母本に利用したところ、海外で作成された既存の一塩基多型マーカーよりも解析に適していることが明らかになった。製粉性に関係する 21 個の QTL のうち 8 個について、近傍の一塩基多型を検出可能なマーカーを開発した。甘味種コムギに関連する課題では、GBSSI と SSIIa 酵素を欠く D-74 は GBSS-B1, D1 の欠失による影響（低アミロース、RVA 粘度高、老化耐性向上）と、SSIIa-B1, D1 の欠失による影響（低温糊化、老化耐性向上）の両者を併せ持ったデンプン特性を有することが明らかになった。4 種類の赤さび病抵抗性遺伝子を集積した準同質遺伝子系統の育成では、DNA マーカー選抜により F₅ 世代まで進めた。大麦品種の育成では、プロアントシアニンジンフリー遺伝子を導入し、多収で容積重が大きく搗精白度と炊飯麦の白度が高い寒冷地向け大麦「東北皮 46 号」を育成し、各県の奨決に配付することとした。

ナタネの品種育成では、収油量が高く、菜種ミールの多目的利用可能なダブルロー品質のナタネ「東北 99 号」の品種登録出願を行うこととした。新たに「キザキノナタネ」より多収の寒冷地向きダブルロー系統を複数見いだした。根こぶ病抵抗性素材の開発では、2 つの根こぶ病抵抗性遺伝子を有する「はくさい中間母本農 9 号」とキャベツとの種間交配により作出された合成ナプスに

ナバナを1回交配した後、「キザキノナタネ」を2回戻し交配して得られた個体の自殖種子(BC₂Si)は、キザキノナタネと比較して成熟期が3日早く子実重は少なかったが、他の生育特性や含油率は同程度であった。寒地、寒冷地向きのナタネ「東北101号」を新配付系統とした。高品質安定多収なソバの品種育成では、「東北2号」、「東北3号」の夏ソバの収量を標準品種である「階上早生」と比較した結果、いずれも多収であった。またハトムギ「東北5号」は、「はとじろう」に比較して18%多収であり、「はときらら」並みの8日早熟であった。ジュズダマ遺伝資源には、早生、短茎、倒伏の少ない素材が見いだされた。

野菜花きグループでは、野菜の新品種育成と野菜花きの栽培技術開発を行っている。寒冷地におけるタマネギ等の新たな作型の開発では、育苗方法及び施肥法等について検討した。育苗時に288穴と448穴セルトレイを用いて、早生から晩生品種まで用いて、初期生育や収量を比較した。228穴セルトレイで育苗を行った場合、448穴セルトレイに較べて定植時の苗は供試したすべての品種で大きかったが、収量時の生育や収量はその差は小さく、早生品種よりも晩生品種でその傾向は強かった。448穴セルトレイではメガ培地の利用が有効で、288穴セルトレイと同等の収量が得られると考えられた。また育苗時の肥効調節型肥料(リニア型)の施用により、生育が促進され、収量が増加する傾向が見られた。さらに東北地方の冬春まき栽培に適した品種を検索するため、29品種・系統を用いて比較栽培を行った。その結果、供試系統はいずれも「もみじ3号」より晩生であった。苗貯蔵によるネギの初夏どり作型の開発では、活着を安定して高めるために0℃前後・低湿条件での貯蔵が有望であり、セル苗に較べて葉鞘長を確保しやすい貯蔵苗では、慣行より10cm程度低い被覆での軟白処理が可能であり、この処理によって増収効果が認められた。ニンニク周年供給のためには、テンパリング乾燥、-2℃貯蔵、高温処理からなる収穫処理を行うことにより低コストで貯蔵後の障害の発生が少ないことを示した。アスパラガスの伏せ込み栽培での育苗には48穴トレイ、畝立て機には2軸ロータリの畝立て機、株間隔を50cmにして、面積あたりの本数を多くしたい場合には畝間隔を140cm、圃場での作業性を良

くしたい場合には畝間隔を160cmにすると良いことが明らかになった。キャベツとニンジンが無間引きの直播栽培において、FOEAS施工の転換畑で畑地とそれぞれ同等の6t/10a、10t/10aの収穫が可能であることが明らかになった。業務加工用キャベツの砂地圃場における施肥方法を検討した結果、基肥を高く設定すると、初期生育の遅延が問題となりやすいことから、追肥重視若しくは、基肥への即効性肥料と肥効調節型肥料の併用により業務加工用として十分な結球重が得られると考えられた。また機械化収穫で問題となる結球部の傾きを軽減する方法として、キャベツセル成型苗の培地表面が地表面から2cm程度になるよう深く定植することを明らかにした。クッキングトマトの長期間の安定集荷のため、5回播種したところ、6月中旬から11月中旬まで収穫することが可能であった。津波被災地域では塩類集積により土耕栽培が困難であるため、トマト生産のためには隔離床栽培の導入が必須であり、今年度は春定植の中段及び夏定植の長段栽培における施肥制御について検討した。春定植の6段栽培において肥効調節型肥料を施用する場合、硫酸カリと硫酸マグを成分とする肥料を減らしS施肥量を抑えることにより、KやMgの施用量減による養分欠乏等の影響を出さずに尻腐れ果を減らすことができた。S減肥条件では、N施肥量が9gN/株での果実収量は高かった。

寒冷地の春どりに向く極晩抽性ハクサイ品種の育成では、試交F₁は既存品種が早期中だいでいる早春播き作型において特に優れた結球性を示した。晩抽性に寄与する遺伝子座の解析では、第5連鎖群上のBRMS-163の近傍のQTLは、露地越冬の冬栽培において寄与率が相対的に高いことが明らかになった。QTL近傍には光質や日長経路を介して開花期に影響するSPA遺伝子が存在することから候補遺伝子の一つと考えられた。周年安定生産のためのイチゴ品種・系統の開発では、一季成り性イチゴ系統「TK5」、やや早生性で収量がばらつき食味が標準品種並みであるものの、大果で果形が乱れず揃いに優れることから、東北イチゴ育種の各試験地での評価○～△であった。共同研究によりうどんこ病抵抗性と四季成り性に連鎖するDNAマーカーを開発した。表現型とマーカー遺伝子型が一致したそれぞれの割合は97.8%と

96.8%であった。2つの四季成り性品種の花成に及ぼす長日処理の影響を試験した結果、「なつあかり」は8月以外の長日処理で花房数が増加したが、「すずあかね」はいずれの時期の長日処理でもその影響が不明であった。四季成り性イチゴの連続開花性が弱い品種は長日処理に対する花成反応が敏感で、強い品種は不明瞭であった。四季成り性と一季成り品種の夏秋栽培におけるクラウン温度制御による増収について検討したところ、四季成り品種での増収効果は不明瞭であったが、一季成り性品種では花房数の増加による増収効果がみられた。

花きの生産性向上技術の開発では、加温用燃油消費量節減のための日没後加温と品質向上維持のための二酸化炭素施用を検討したところ、二酸化炭素施用によってスプレーギクの品質向上効果が認められ、寡日照期における品質改善、高栽植密度による生産性向上の可能性が示された。また栽培室温を10℃としてガーベラを栽培する際、温水チューブやステンレステープヒーターの発熱部をガーベラのクラウン部分に密着するように設置し、クラウン部分を20℃以上に加温すると、切り花収量が大幅に増加し、切り花長も長くなることを明らかにした。

畜産飼料作研究領域

畜産飼料作研究領域は寒冷地における飼料作物の栽培、収穫調製及び放牧に関する研究を行う飼料グループ、牧草の育種に関する研究を行う牧草育種グループ、牛の飼養及び肉質評価に関する研究を行う畜産グループ及び肉用牛の生理と繁殖に関する研究を行う家畜繁殖グループで構成されている。

飼料グループは飼料用トウモロコシ栽培において、ヘアリーベッチを緑肥利用した場合のリン酸供給効果を明らかにした。また、イタリアンライグラスまたはヘアリーベッチをリビングマルチとする大豆栽培体系のホールクロップサイレージ用大豆の収量を明らかにし、栄養価の高い大豆のサイレージが調製可能なことを示した。造成後3年目のペレニアルライグラスとケンタッキーブルーグラス放牧地の施肥量の放牧生産性への影響を調査している。さらに、ネムノキの樹冠を利用した

草地の生産性向上効果について研究を進めている。

牧草育種グループは、草地の高度利用を促進するために、イネ科牧草の品種開発を行っており、イタリアンライグラスについては、越冬性に優れた「東北5号」を育成し、品種登録出願にむけ地域適応性試験を行っている。ペレニアルライグラスについては、新たに育成した越夏性に優れる系統「東北7号PR」の地域適応性試験を開始した。また、フェストロリウムの育種素材開発のため、選抜マーカーの開発を進めている。

畜産グループは2シーズン放牧肥育において肥育中期の増体を十分確保すれば肥育後期の代償性発育が期待でき、枝肉成績も遜色ないことを明らかにした。ミンチ貯蔵牛肉はスライス貯蔵牛肉よりも顕著に脂質酸化が進行すること、赤肉の評価では重要な脂質酸化が市販のTBARS試験紙によって簡便に評価できことを示した。また、飼料米利用を進めるため透湿防水性シートによる籾米の低コスト保管技術の検討を始めた。

生理繁殖グループは冬期屋外飼養のこれまでの成果をまとめた普及用のパンフレットを作成した。また、赤外線センサ等を使用して、牛の発情、横臥、静止、起立などの動作・移動を記録する装置を開発した。稲わらを活用するため、透湿防水性シートを用いた稲わら保管効果、圧砕稲わらの通常の稲わらと比較した給与効果を示した。ウシの妊娠モニタリング指標の開発を進め、オキシシン感受性は分娩後の子宮機能回復指標として有効なことを認めた。

生産環境研究領域

生産環境研究領域は、病害・虫害に関する技術開発研究を行う病害虫グループ、土壌分析・施肥管理に関する技術開発研究を行う土壌肥料グループ、気象環境に起因する高・低温障害の発生予測や被害回避に関する技術開発研究を行う農業気象グループで構成される。

病害虫グループでは、稲、大豆、野菜の病害及び害虫などの研究課題を担当している。稲の病害虫に関しては、現地圃場試験の結果、GoogleMap版BLASTAMを活用した適期防除によりいもち病の発生が効果的に抑制され、本病発生による収

量等の減少を抑えられることを示した。また、低温燃焼によって可溶性ケイ酸含量を高めた籾がら焼却灰の施用によるイネいもち病発病抑制効果は、品種や施用方法等によって変動することを示した。斑点米カメムシの広域発生予察技術に関しては、カシカメムシ2種の水田への侵入量に影響する大規模発生源と斑点米被害の関係を定量的に評価し、斑点米リスク要因としてアカスジカシカメ雄成虫の誘殺数と半径300m以内の牧草地面積、地域、調査年が重要であることを明らかにした。総合的害虫管理技術については、捕食性ゴミムシ類各種の選好性を生理・生態学的に調査し、アオゴミムシは明度だけでなく色調も認識していることを明らかにした。大豆害虫のウコンノメイガについては、その寄生者の多くはコマユバチ科であるが、ダイズではコマユバチ科の寄生率は低く、逆に蛹期に脱出するヒメバチ類の寄生率が相対的に高いことを明らかにした。果菜類の土壤病害については、転炉スラグによる土壌pH矯正は土壌伝染性のフザリウム病に対して被害軽減効果を有し、細菌病のトマト青枯病についても発生抑制効果があること、またその発病抑制効果は殺菌性によるものではないことを明らかにした。このほか、メロンつる割病（フザリウム病）について、非病原性菌株、土壌pH矯正資材、植物病害抵抗性誘導剤を適切に組み合わせると育苗時に処理すると定植後に発病軽減効果があること、同様にトマト青枯病に対しても発病軽減効果があること等を明らかにした。

土壌肥料グループでは、大豆や野菜のカドミウム吸収抑制技術及び人工湿地を用いた有機性排水の浄化技術等の研究課題を担当している。大豆のカドミウム吸収抑制に関しては、畑転換2～3年目の現地試験の解析から、カドミウム低吸収性品種・系統を導入し、苦土石灰の部分施用を用いて土壌pHを上げると、東北の主力品種と比べて子実カドミウム濃度を3～4割低減できることを明らかにした。野菜のカドミウム吸収抑制に関しては、ハウレンソウのポット栽培試験により、カドミウム濃度が異なる6種類の土壌にアパタイト系資材を1%施用すると、アロフェン質黒ボク土を除き収量が減少することなく水溶・交換態カドミウム濃度が低下し、可食部カドミウム濃度はpH6.0で4～5割低減することを明らかにした。

ハウレンソウについては、夏作ポット栽培試験により、そのカドミウム濃度はアパタイト系資材施用に加えて収穫前2週間の根圏冷却を併用すると低減効果が高まること、また冬作ハウレンソウのカドミウム濃度は品種間差が大きく、低吸収性品種を用いれば4割程度低減できることを示した。現地圃場ハウスにおけるセル成型苗移植栽培試験では、根系発達を抑制すると冬作ハウレンソウの可食部カドミウム濃度が2割程度低減することを実証し、可食部カドミウム濃度は収穫時期の地温の影響を受けることを確認した。有機性排水の浄化技術に関しては、酪農排水等を浄化する11か所の伏流式人工湿地ろ過システムの3～9年間の水質・水量及び浄化効果データを基に、原水の水質と量及び平均気温から処理水質の変動を予測するモデルを開発し、養豚尿液処理施設（千歳）と酪農雑排水処理施設（滝上）の処理水質について実測値と推定値が季節変動も含めて概ね適合することを確認した。

農業気象グループでは、高・低温障害や病害の発生予測、地球温暖化による作物栽培への影響評価などの研究課題を担当している。広域気象予測データの利用技術に関しては、病害発生予測モデルへの適用を視野に、宮城県鹿島台でイネの葉面結露を観測し、植生熱収支モデルでの計算結果と概ね一致することを確認し、葉面結露予測への熱収支モデルの適用は可能と結論した。また、病害発生予測モデル等への植生熱収支モデルの適用については、アメダスデータを1kmメッシュへ高解像度化した気象データをBLASTAMに適用し、感染好適条件の出現頻度は実際の葉いもち発生傾向とよく一致すること、葉いもち予察の多い年の大規模気象場との関連を確認した。アンサンブル気象予測データのダウンスケールと葉いもち予察モデルへの適用については、気象データのダウンスケール計算が最も計算負荷が高く、空間解像度を高めるにはメンバー選択や統計的ダウンスケールの併用等の工夫が必要であることを示した。岩手県と宮城県の太平洋沿岸地域における気象データ利用については、引き続き現地観測値、アメダス観測値、1kmメッシュ気象データの比較検討を行った。放射冷却による夜間の気温低下量については、これを支配する気象要素を検証し、気温低下量を見積もる際の風の強弱の指標としては、これまで

用いられてきた平均風速よりも無風及び弱風の継続時間を用いることが望ましいことを明らかにした。このほか、気象データと水稻の作物統計値及び水稻の発育予測モデルから、出穂期の早晚等を予測できる数値モデルの作成等を行った。大豆生産に関しては、ダイズの作期決定過程に必要な手法となる開花期予測モデルを、東北地方の実用品種や普及が見込まれる品種に適用した。また、栽培リスクとして、東北地方全域において8月の平均気温やポテンシャル蒸発量が高く、気候湿潤度が低いと百粒重が低下する傾向にあることを明らかにした。また、ダイズの子実重の高CO₂応答性における品種間差には、シンク（莢や子実）形成能が密接に関与していることを示した。水田における温室効果ガス排出削減技術に関しては、試験圃場におけるメタン放出量の調査と連携試験地を含めた観測データの解析により、秋浅耕化による翌夏のメタン削減効果は東北農研内圃場では認められなかったが、浅耕化による秋冬季の有機物分解に対する温度等の影響の緩和が示唆され、それらの条件が分解阻害要因となる地域ではメタン削減効果が期待できることを示した。

水田作研究領域

水田作研究領域は、水田作物の栽培と雑草管理に関する研究を行う水田作グループ、水稻の品種育成とそれに係わる研究を行う稲育種グループ、水田作物の土壌管理と病害防除に関する研究を行う水田環境グループ及び大豆の品種育成とそれに係わる研究を行う大豆育種グループで構成されている。

水田作グループでは、水稻・飼料用米等の低投入・高能率湛水直播栽培技術の開発を目指し、水稻無コーティング種子の代かき同時播種の現地実証試験を実施し、昨年度に続いて安定した苗立と収量が得られた。本播種法に適した除草剤を選定した。普及が進んでいる鉄コーティング湛水直播栽培についても、さらなる苗立安定化を目指して、種子コーティング時のモリブデン加用の効果を検討したが、苗立への影響は認められなかった。飼料用イネ品種の普及上の問題とされる漏生イネ対策については、石灰窒素を利用した発生防止技術の実用化に向けて、施用時期や施用後の耕起時期

の絞り込みを行った。地下水位制御等土壌水分制御技術を活用した持続的生産技術の開発を目指した試験では、3年間の結果から地下水位制御により、大豆の子実収量が場内試験で約5%、現地実証試験で約16%の増収が認められた。

稲育種グループでは、気象変動に対応して、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種、低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稻品種、低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種及び高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成を目指し、直播適性、いもち耐病性、耐冷性の強化を目的とした交配及び集団養成と直播適性、いもち耐病性、耐冷性、高温耐性等を備えた系統の選抜を行った。その結果、直播適正に優れ早生でいもち病抵抗性を有する多収・良食味の「ちほみのり」、耐倒伏性でいもち病に優れる「ときめきもち」、稲発酵粗飼料用品種「べこげんき」の品種登録を出願した。さらに、茎葉重割合が高いWCS向きの系統選抜を進めた。有望系統として、耐冷性でいもち病に強く多収の奥羽424号を得た。生産力検定試験では「いわいだわら」が栽培地域、栽培法によらず安定して多収であった。

水田環境グループでは、田畑輪換における大豆の多収を目指し、多様な土壌における地下かんがいによる給水特性とこれを最適化する耕耘・整地技術を検討したところ、大豆播種時に深さ20cmのスリットを形成した区では、主根が土壌深部に発達することにより最大繁茂時の気孔コンダクタンスが高く維持された。アメダスと土壌特性データを用いた土壌水分予測モデルを開発し、これを用いて栽培条件と乾燥ストレスの関係を検討した結果、早蒔きにより乾燥ストレスのリスクは高まった。大規模経営に対応した作物の栄養診断技術を開発するために、スマートフォンのデジタルカメラ機能を利用した水稻「あきたこまち」の葉色判定を試み、スマホ装着用の接触型接写レンズを用いることによりデジタル写真の画像データからSPAD値の推定が可能であった。安価なハンドヘルドNDVI測定器を用いた水稻の生育診断を試み、草丈×茎数等の生育診断指標値が簡易に測定できる可能性を見出した。大瀧村の有機栽培現地圃場において、チェーン除草と生育診断に基づく

追肥により3年連続で560kg/10a以上の水稲収量を実証した。いもち病発生を低減させる飼料米栽培法を構築するため、後期追肥による発病抑制効果を検討し、普通期追肥よりも葉いもち及び穂いもちの発生が抑制される傾向が認められ、薬剤散布回数を削減できる可能性が示唆された。いもち病の量的抵抗性遺伝子の解析を進め、量的抵抗性品種上でGFP標識したいもち病菌が形成する病斑では、質的抵抗性や感受性品種と異なり、菌糸伸展の抑制が見られ、量的抵抗性はいもち病菌侵入後の菌糸伸展阻害が起こることが明らかになった。DNAマーカーを用いていもち病菌の動態を解析した結果、種粒上での生存頻度は圃場での生存頻度に反映された。一般圃場ではいもち病菌の飛散は100m程度の範囲に収まった。

大豆育種グループでは、寒冷地向けの安定多収・高品質大豆品種の育成を目指し、「おおすず」にダイズモザイクウイルスC、D系統抵抗性を導入した「東北169号」、ダイズモザイクウイルスC、D系統・ダイズわい化病抵抗性を導入した「東北174号」及び「リュウホウ」にダイズモザイクウイルスC、D・ダイズシストセンチュウレース1抵抗性を導入した「東北173号」について、奨励品種決定調査等の結果から、いずれも品種化を継続検討することとした。新たな草型による多収系統の開発を目指し、無限伸育型を導入した「東北175号」について、生産力検定試験等の結果から、品種化を継続検討することとした。安定多収でダイズモザイクウイルス抵抗性強の「シュウリュウ」とコンバイン収穫に適しダイズモザイクウイルス抵抗性強の「あきみやび」が岩手県、山形県及び宮城県で普及が見込まれていることから、いずれも農林認定申請候補品種として承認されたほか、早生系統で麦後作栽培向けの「東北178号」を新配付とした。寒冷地向けの特殊用途品種の育成を目指し、煮豆加工に適し、同熟期の黒豆の中では倒伏が少なく機械化栽培に適する黒大豆系統の「東北161号」が権利保護のための品種登録出願候補系統として承認されたほか、リポキシゲナーゼ欠失・サポニン改良系統の「東北179号」及び青大豆系統「東北180号」を生産力検定試験等の結果から新配付とした。

環境保全型農業研究領域

環境保全型農業研究領域は地域条件に対応した環境保全型農業生産システムの開発に向けて、カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換、定植前苗施肥、耐病性台木の利用等の耕種的技術を活用し、省化学資材・環境保全と生産性を両立させる生産性の高い畑作物・野菜栽培体系の開発を進めている。

カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換に関しては、リビングマルチ大豆栽培についての成果は「麦類をリビングマルチに用いる大豆栽培技術マニュアル」の増補改訂版として農研機構のホームページ上に公開され、これを元に現地での普及に努めた。また、規格外大豆を緑肥として用いる小麦栽培体系について、その実用的な展開可能性を明らかにするために農協の協力を仰ぎつつ規格外大豆の緑肥利用に際してのリスクと使用可能なランクを明らかにした。

耐病性台木の利用等の耕種的技術の活用に関しては、転炉スラグの活用技術の展開に合わせて、潜在的な発病リスクの調査や現場での技術指導を通じて技術の普及に努めた。

農業放射線研究センター

農業放射線研究センターは、平成23年3月11日の震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって広範な地域に飛散した放射性物質の農地からの除染と除染廃棄物の減容化、農作物への移行の要因解明と低減技術の確立を担当している。

土壌からの除染に関しては、水による土壌攪拌・除去の技術開発を、農村工学研究所や農業環境技術研究所と共同で複数の現地圃場での実証試験を行いつつ、改良を進めその成果はマニュアルとして公表された。また、中央農業総合研究センター等と共同して、避難区域における営農再開後を想定し、作物残渣や家畜糞尿などの有機系資源を用いた乾式メタン発酵と、稲わらや木質チップの固形燃料化によるエネルギー生産及び施設園芸への供給等によるエネルギー・資源循環システムの構築を目指した研究開発を行っている。

農作物への移行低減に関しては、水稲、ソバ、

大豆に加えて畦畔草においても土壌中の交換性カリ含量を十分に高めることが肝要であることを明らかにした。これらの作物に関する要因解析調査と試験栽培等の成果の一部は、それぞれの対策技術として取りまとめられ、農林水産省 HP にて公開された。

表土剥ぎ取り除染後に客土をされた圃場は、直ちに営農に利用されるわけではなく、実際には営農再開をされずに放置されている圃場が多く存在する。このような農地では雑草の繁茂や土壌流亡が問題であることが明らかとなり、省力的に管理する技術開発に取り組んでいる。

Ⅱ 研究情報活動

II 研究情報活動

1. 研究成果の発表

注. 1) 収録対象は、平成 26 年度に公表したものである。編集に当たっては、平成 26 年 4 月現在の組織構成により配列してある。

2) 各研究領域の成果は、職員が所属する研究領域ごとに記載した。

研究課題の分担等により他の研究領域に属する課題の実施により得られた成果は、本人が所属する研究領域に収録した。

なお、複数の研究領域による成果については、記載されている所内の著者のうち、配列順序が一番前の著者の所属する研究領域に収録した。

3) リストは研究領域ごとに以下の項目で分類し、各項目の中は職員の氏名順（五十音順）、同一職員の中は発表年月（発表又は発行、掲載、印刷された年月）順に記載した。

原 著 論 文 : 原著性の高い学術論文、研究所報告、叢書等

学会発表等 : 口頭、ポスターによる学会発表（講演要旨集、本誌に掲載された要旨、シンポジウム講演を含む）、国際研究集会での発表

著 書 等 : 上記以外の印刷物、Web 掲載及びマスコミ報道

《所 長》

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石黒潔	イネいもち病の発生予察と防除の研究における東北地域の貢献	平成 26 年度(第 50 回)日本植物病理学会東北部会(50 周年記念)プログラム・講演要旨集	*、6	2014.09
石黒潔	病理と育種のありかた～これまでと今後を私なりに総括してみる～	生態と防除研究会(植物病害カンファレス)ニュースレター	6、2	2015.01

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石黒潔	新年をむかえて	植物防疫	69、2	2015.01
石黒潔	オリゼメートのあゆみ 40 周年記念誌 「イノベーションとしてのオリゼメート」	Meiji Seika ファルマ	*、74-80	2014.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
石黒潔	地域営農モデル現地実証試験の方法論	日本農学アカデミー会報	22、25-38	2014.12

《企画管理部》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
佐藤百合香	地域農業をめぐる子供の知識・経験および農業継承に関わる意識の変化－稲作地域における経年調査結果による－	農村経済研究	32(2)、32-38	2014.08

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
森山真久	タマネギ品種の夏どり作型における生育と収量におよぼす圃場条件・定植期・苗質の影響	日本作物学会第238回講演会要旨集	*、39	2014.09
大黒正道	津波被災農地における水田農業の復旧・復興に向けた取り組み	第30回日本農業工学会記念シンポジウム	*、*	2014.05

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
河本英憲	輸送と長期保管技術	稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第6版(一般社団法人日本草地畜産種子協会)	*、83-85	2014.12
森山真久、大久保さゆり、菅野洋光、南野謙一(岩手県立大学ソフトウェア情報学部)	寒締め菜っ葉情報ひろば	農研機構東北農業研究センターホームページコンテンツ	*、*	2014.11

《生産基盤研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡辺満、大久保さゆり、菅野洋光、持田秀之	冷涼気候で栽培した有色素米のフェノール性抗酸化化合物含量及び抗酸化能	日本食品科学工学会誌	61 (1)、528-535	2014.11
長谷川啓哉	リンゴ作における生産力の階層性の現局面と今後の担い手ー青森県相馬村農協管内における階層抽出調査によるー	農業問題研究	46 (1)、30-39	2014.12
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸、千葉克己 (宮城大学)	農業用トラクタで利用できる浅層暗渠施工器の開発と排水効果	農業農村工学会論文集	29、93-101	2014.08
磯島昭代、長谷川啓哉	リンゴ直販農家における販売管理と顧客獲得の実態	農村経済研究	32 (2)、39-46	2014.08
藤森英樹、伊藤和子 (宮城県農業・園芸総合研究所)、関野幸二	稲発酵粗飼料の広域流通とその成立要因ー主に畜産経営調査からー	日本草地学会誌	60 (4)、256-263	2015.01
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	ナタネ油のディーゼルエンジン利用経過と燃料噴射ノズル汚損状況	農業施設	46 (1)、9-17	2015.03
伊藤和子 (宮城県農業・園芸総合研究所)、藤森英樹、関野幸二、石川志保 (宮城県農業・園芸総合研究所)、大森裕俊 (宮城県亘理農業改良普及センター)	稲発酵粗飼料 (イネWC S) の広域流通システムモデルとその成立条件ー宮城県農業公社を事例としてー	農村経済研究	32 (2)、55-60	2014.08
泉谷眞実 (弘前大学)、野中章久、金井源太、小野洋 (日本大学)	バイオディーゼル燃料事業における原料調達過程と製品利用・販売過程間の調整に関する考察	農業市場研究	23 (4)、53-59	2015.03
堀川彰	営農類型からみた東北農業の動向分析	東北農業研究	67、153-154	2014.12
高橋太一	有機稲作技術導入に関する労働力利用制約の留意点	東北農業研究	67、151-152	2015.01
大鷲高志 (宮城農業・園芸総研)、加藤春男 (美里農業改良普及セ)、高野岩雄 (宮城農業・園芸総研)、渡辺満	ハウレンソウの品種・栽培条件の違いがルテイン含有量に及ぼす影響	東北農業研究	67、121-122	2014.12
小野洋 (日本大学)、大谷隆二、白土宏之	費用合計による水稲直播の技術評価の課題ー東北地域における事例からー	日本農業経済学会論文集	*, 31-36	2014.12
三浦恒子 (秋田県農業試験場)、松本眞一 (秋田県農業試験場)、松波寿典、佐野広伸 (秋田県農業試験場)、佐藤雄幸 (秋田県農業試験場)	水稲新品種「つぶぞろい」の収量および生育量の目標値の策定	東北農業研究	67、7-8	2014.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
三浦恒子(秋田県農業試験場)、 松本眞一(秋田県農業試験場)、 松波寿典、佐野広伸(秋田県農 業試験場)、佐藤雄幸(秋田県 農業試験場)	水稻新品種「秋のきらめき」の収量 および生育量の目標値の策定	東北農業研究	67、5-6	2014.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
M Matsunami(日本学術振興 会特別研究員)、松波寿典、M Kokubun(東北大学大学院農学 研究科)	Shoot development and nitrogen uptake of rice cultivars with adaptation to aerobic soil conditions	The 8th Asian Crop Science Association Conference 23-25 September、 2014 Vietnam National University of Agriculture Program book	*、134-135	2014.09
磯島昭代、長谷川啓哉	消費者のおすそわけ意識と「おすそ わけ袋」の導入効果—大規模リンゴ 作経営における配布実験による—	第 50 回東北農 業経済学会岩手 大会報告要旨	*、59	2014.08
冠秀昭	乾田直播を支える播種技術—プラウ 耕鎮圧体系乾田直播	日本土壌肥料学 会大会講演要旨 集	60、223	2014.09
冠秀昭、関矢博幸、大谷隆二	トラクタで利用できる暗渠施工器に よる水田排水機能の改善	農業食料工学会 東北支部大会講 演要旨集	31-32	2014.08
冠秀昭、関矢博幸、大谷隆二、 平直人(古川農業試験場)、千 葉克己(宮城大学)	海水浸水塩害農地における簡易暗渠 施工に伴う土壌塩分の変動	土壌物理学会大 会講演要旨集	*、87-88	2014.10
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸、 中山壮一、齋藤秀文	水稻乾田直播栽培における鎮圧作業 による縦浸透低減	農業農村工学会 大会講演会講演 要旨集	*、488-489	2014.08
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸、 齋藤秀文、中山壮一	巨大区画水田におけるプラウ耕鎮圧 体系乾田直播栽培での圃場管理技術	農業農村工学会 東北支部研究発 表会講演要旨集	*、24-25	2014.10
関矢博幸	乾田直播のシテン 乾田直播がもた らす土壌環境・圃場サイズの変化に 対応した肥培管理技術	日本土壌肥料学 会全国大会講演 要旨集	60222	2014.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
関矢博幸	レベラー均平作業による合筆大区画 水田圃場の地カムラ	日本土壌肥科学 会全国大会講演 要旨集	60、97	2014.09
関矢博幸、西田瑞彦、高橋智紀、 齋藤秀文、冠秀昭、篠遠善哉、 松波寿典、中山壮一、大谷隆二	麦用レーザー式生育センサーを用い た水稻の生育診断	日本農作業学会 2015年春季大会 講演要旨集	50、*	2015.03
久保田亜希(筑波大)、篠遠善哉、 Yosri I. Atta (NWRC, Egypt)、 A. M. Abd El-Fattah (NWRC、 Egypt)、丸山幸夫(筑波大)	エジプトナイルデルタのトウモロコ シ圃場の土壌水分と収量に及ぼす細 溝灌漑の影響	日本作物学会関 東支部会報	29、50-51	2014.12
金井源太、小綿寿志	バイオマス資源の収穫条件と燃焼灰 溶融温度	第73回農業食 料工学会年次大 会講演要旨	*, 286	2014.05
金井源太、小綿寿志	循環式乾燥機によるエネルギー独立 型乾燥試験	農業食料工学会 東北支部平成26 年度支部大会講 演要旨	*, 29-30	2014.08
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	低品質ナタネの燃料品質改善の可能 性	2014年度農業施 設学会大会講演 要旨	*, 117-118	2014.08
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	ナタネ油燃料利用と噴射ノズルの汚 損	2014年度農業施 設学会大会講演 要旨	*, 39-40	2014.08
桑形恒男(農業環境技術研究所)、 村井麻理、林秀洋、石川淳子、 森山真久、岡田益己(岩手大学 農学部)	Influence of daily weather conditions on aquaporin expressions in the rice roots	Proceedings of the International Symposium of Agricultural Meteorology 2015	*, 198	2015.03
三浦恒子(秋田県農業試験場)、 進藤勇人(秋田県農業試験場)、 薄井雄太(秋田県農業試験場)、 松波寿典、松本眞一(秋田県農 業試験場)	水稻移植栽培のあきたこまちにおけ る省力技術を活用した高品質米安定 生産	日本作物学会紀 事	84(別1)、*	2015.03
三浦恒子(秋田県農業試験場)、 進藤勇人(秋田県農業試験場)、 薄井雄太(秋田県農業試験場)、 松波寿典、松本眞一(秋田県農 業試験場)	水稻移植栽培のあきたこまちにおけ る省力技術を活用した高品質米安定 生産	日本作物学会第 239回講演会要 旨集	10	2015.03
篠遠善哉、松波寿典、大谷隆二	水田転換畑におけるプラウ耕がトウ モロコシの生育および収量に及ぼす 影響	日本作物学会第 239回講演会要 旨集	164	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小綿寿志、金井源太、小原勝久 (株オーテック)、野口和利 (株 オーテック)、藤尾利幸 (株オー テック)	木質バイオマスと廃菌床再生燃料を 熱源とする菌床殺菌システムの 3E 評価	2014 年度農業施 設学会大会講演 要旨	*、119-120	2014.08
小野洋 (日本大学生物資源科学 部食品ビジネス学科)、松田祐 子 (三重大学社会連携研究セン ター)、野中章久、金井源太	ドイツにおけるバイオ燃料生産の現 状と課題	平成 26 年度日 本農業経営学会 報告要旨集	*、208-209	2014.09
松波寿典	国産ジャポニカ米の食味官能評価に 差をもたらす要因について	「世界のジャポ ニカ米と日本産 米の競争力」一 科研費研究：外 国産ジャポニカ 米の官能食味試 験評価および国 産米競争力分析 に関する学際研 究中間報告資料 一	*、21-26	2015.02
松波寿典、進藤勇人 (秋田県農 業試験場)、佐藤敬亮 (秋田県 農業試験場)、佐藤雄幸 (秋田 県農林水産部)	グライ土壌の水田転換畑において前 作水稲無代かき栽培後に狭畦密植栽 培した大豆の生育、収量	日本作物学会第 239 回講演会要 旨集	*、51	2015.03
松波麻耶 (日本学術振興会特別 研究員 RPD)、村井麻理、林秀 洋、石川淳子	間断灌漑水田における水稲根のアク アポリン遺伝子発現と品種間差異	根の研究	23 (4)、118	2014.09
松波麻耶 (日本学術振興会特別 研究員 RPD)、村井麻理、林秀 洋、石川淳子	栄養成長期における土壌水分ストレ ス下での水稲根の発達とアクアポリ ン遺伝子の発現	日本作物学会第 239 回講演会 講演要旨	*、91	2015.03
清水恒	エゴマの加工食品と葉のラジカル消 去活性能	東北農業研究	67、45-46	2014.12
千葉克己 (宮城大学)、加藤徹 (宮 城大学)、富樫千之 (宮城大学)、 加藤幸 (弘前大学)、冠秀昭	宮城県沿岸平野部の津波被災農地に おける地下水モニタリング	農業農村工学会 大会講演要旨集	*、506-507	2014.08
泉谷眞実 (弘前大学)、野中章久、 金井源太、小野洋 (日本大学)	バイオディーゼル燃料製造事業にお ける原料調達と製品販売間の調整に 関する考察	日本農業市場学 会 2014 年度大 会報告要旨	*、72	2014.07
泉谷眞実 (弘前大学)、野中章久、 金井源太、小野洋 (日本大学)	廃食用油バイオディーゼル燃料事業に おける需給バランスと地域調整の課 題	第 25 回廃棄物 資源循環学会研 究発表会講演原 稿集	*、289-290	2014.09
大谷隆二	ブラウ耕鎮圧体系による乾田直播 一技術体系とそこで臨まれる雑草防 除技術一	東北雑草研究会 特別講演	*、*	2014.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大谷隆二、齋藤秀文、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、松波寿典、篠遠善哉、谷口義則、池永幸子、片山勝之	仙台平野津波被災地におけるブラウ耕乾田直播を核とした2年3作水田輪作実証試験	農業食料工学会 東北支部会平成 26年度東北支部 発表会講演要旨 集	*、3-4	2014.08
大谷隆二、齋藤秀文、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、松波寿典、篠遠善哉、池永幸子、氷見英子、谷口義則、片山勝之	仙台平野津波被災地における乾田直播による輪作実証試験	農作業研究	50(1)、81-82	2015.03
大鷲高志(宮城農園研)、鹿野弘(宮城農園研)、高野岩雄(宮城農園研)、渡辺満	ハウレンソウの品種及び播種時期の違いがルテイン含有量に及ぼす影響	園芸学研究	14(別1)、 174	2015.03
長谷川啓哉、磯島昭代	加工原料用リンゴ生産による大規模リンゴ作経営の成立条件ー青森県鱈ヶ沢町K経営の事例分析ー	平成26年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*、156-157	2014.09
湯川智行、大黒正道、大谷隆二、齋藤秀文、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、松波寿典、篠遠善哉、池永幸子、氷見英子、齋藤保(スガノ農機)、白土宏之、牧原邦充(クボタ)、佐々木哲(小泉商事)、宮路広武、磯島昭代、菅野博英(宮城県古川農試)、長坂善禎、渡邊寛明、大川茂範(宮城県古川農試)、大江高穂(宮城県古川農試)、小竹一男(ヤンマー)、佐々木次郎(宮城県古川農試)、平直人(宮城県古川農試)、星信幸(宮城県古川農試)、猪野亮(宮城県古川農試)、相花絵里(宮城県古川農試)、大江敏夫(井関農機)、林和信、中村隆三(クボタ)、森本英嗣(石川県農総研)、高木敏彰(ヤンマーヘリ&アグリ)、渡邊朋也、関野幸二、平藤雅之、吉田智一、高津戸史朗(NEC)、山崎富弘(富士通)、渡邊浩司(富士通)、島村博(イーラボエクスぺリエンス)	東日本大震災津波被災地における土地利用型営農技術の実践	日本作物学会紀事	84(別1)、*	2015.03
藤尾利幸(㈱オーテック)、小原勝久(㈱オーテック)、野口和利(㈱オーテック)、小綿寿志、金井源太	木質ボイラー排熱利用による廃菌床の燃料化と菌床殺菌熱源への再利用	2014年度農業施設学会大会講演要旨	*、119-120	2014.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
平直人(宮城県古川農業試験場)、鈴木辰也(宮城県古川農業試験場)、冠秀昭、関矢博幸	除塩後転換畑の土壌塩分上昇と排水対策	農業農村工学会 大会講演会講演要旨集	*、508-509	2014.08
野中章久	福島県避難指示解除準備区域における就業構造と地域農業再編の方向	2015 年度 日本農業経済学会大会報告要旨	*、K38	2015.03
林秀洋、村井麻理、石川淳子、松波麻耶(日本学術振興会特別研究員 RPD)、中田好見、上村松生(岩手大学農学部)	イネ登熟種子中における OsPIP2;1 および OsTIP3;1 の解析	日本作物学会第 239 回講演会講演要旨	*、184	2015.03
鈴木健策	イネ幼苗の低気温障害と硝酸蓄積：地温順化との関係	日本植物学会第 78 回大会研究発表記録	*、162	2014.09
鈴木健策、青木直大(東京大院農生)、松村尚和、大杉立(東京大院農生)、下野裕之(岩手大農)	低温不稔発生機構：幼穂形成前の冷水温によるイネ穎花の耐冷性喪失と、葉の冷水温応答との関係	第 56 回日本植物生理学会年会要旨集	*、192	2015.03
齋藤秀文、大谷隆二、冠秀昭、関矢博幸、中山壮一、齋藤保(スガノ農機)、増淵直之(スガノ農機)、川野浩一(スガノ農機)、下村剛(スガノ農機)	GPS レベラーを用いた水稻乾田直播における圃場の均平化技術の開発・実証—大規模合筆圃場の均平度変化—	農業食料工学会 東北支部平成 26 年度支部大会講演要旨集	*、1-2	2014.08
齋藤秀文、片山勝之、大谷隆二、関矢博幸、松波寿典、中山壮一、冠秀昭、篠遠善哉	チゼルプラウシーダによる大豆狭畝密植播種技術の開発	農作業研究	50(別 1)、*	2015.03
高橋太一	座長解題	東北農業経済学会 2014 年大会シンポジウム資料	*、70-71	2014.08
高橋太一	有機農業における経営活動転換の問題と課題	日本有機農業学会 2014 年大会報告資料集	*、109	2014.12
著書等				
著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	贈答用リンゴの顧客拡大にむけた「おすそわけ袋」の消費者評価	農業経営通信	262、6-7	2015.01
磯島昭代	リンゴの顧客獲得に向けた取り組み「おすそわけ袋」の活用	農業日誌 平成 27 年(農林統計協会)	*、324-325	2014.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	贈答用リンゴの顧客拡大にむけた「おすそわけ袋」の消費者評価	技術の窓(日本政策金融公庫)	2038、*	2015.01
磯島昭代、長谷川啓哉	リンゴ直接販売における顧客獲得のための「おすそわけ袋」活用ビジネスモデル	平成26年度普及成果情報		2015.03
家子秀都(㈲ピース)、野中章久	循環をキーワードとした水稻経営法人	農業経営通信	No262、12	2015.01
冠秀昭	スニーカーでできる米作り	土壌の物理性	126、77-78	2014.04
冠秀昭	ののちゃんのDO科学 田の水はなぜしみ込まない?	朝日新聞	e6	2014.05
冠秀昭、関矢博幸、大谷隆二	トラクタで利用できる浅層暗渠施工器	平成26年度研究成果情報		2015.03
関矢博幸	大きな区画でも確実に コンテナ流入施肥器	現代農業	2014年10月号、274-277	2014.10
関矢博幸	2. 低コスト栽培 (1)栽培管理	稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第6版	22-28	2014.12
関矢博幸	2 飼料用稲麦体系の留意点と経済性 (4)安定的な栽培・収穫調製のための条件と長期保存技術 ①東北地方における飼料用稲麦二毛作の適応地域	ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル<2014年度版>	*、未定	2015.03
関矢博幸	イ 疎植栽培	飼料用米の生産・給与技術マニュアル<2014年度版>	*、未定	2015.03
関矢博幸	簡単追肥法を考案	日本農業新聞	14面	2014.05
金井源太	ディーゼル発電機は簡単な改造でタネ油を燃料にできる	東北農業研究センターたより	45、7	2015.02
小野洋(日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科)、松田祐子(三重大学社会連携研究センター)、野中章久、金井源太	ドイツにおける再生可能エネルギー生産をとりまく課題	食品経済研究(日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科)	43、56-57	2015.03
千葉克己(宮城大学)、郷古雅春(宮城大学)、冠秀昭、加藤幸(弘前大学)、加藤徹(宮城大学)	津波被災農地における縦浸透除塩の効果検証および地下水モニタリング	水利科学	340、121-142	2014.12
大浦裕二(退職)、磯島昭代	スマート農業 農業・農村のイノベーションとサステナビリティ:スマート技術のマーケティングへの活用	農林統計出版	356-359	2014.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大谷隆二	プラウ耕鎮圧体系の乾田直播と水田農業の今後	日本土壌肥科学雑誌	86(1)、42-47	2015.02
大谷隆二	仙台平野津波被災水田における乾田直播を核とした2年3作実証試験	機械化農業	2015(1)、12-16	2015.01
大谷隆二	広がる水稲直播栽培	農業共済新聞	14面	2015.01
大谷隆二	仙台平野における乾田直播による大規模輪作営農	農業共済新聞(茨城版)	10面	2015.02
中山壮一	アメリカセンダングサ	農文協	*、畑26、畑41-42	2014.06
中山壮一	寒冷地水稲有機栽培技術体系の構築—「寒冷地水稲有機栽培の手引き(暫定版)」の紹介—	技術と普及(全国農業改良普及支援協会)	51(6)、63	2014.06
中山壮一	アメリカセンダングサ	あおもり農業(青森県農業改良普及会)	65(11)、38-39	2014.11
中山壮一	アメリカセンダングサ	ながの農業と生活(長野県農業改良協会)	608、48-49	2014.12
中山壮一	専門委員になったらやりたかったこと	植調	48335	2014.12
中山壮一	アメリカセンダングサ	月刊農業くまもと「アグリ」(熊本県得業界量普及事業協議会)	27(9)、32-33	2014.09
中山壮一	アメリカセンダングサ	農業かごしま(鹿児島県農業改良普及研究会)	66(9/10)、76-77	2014.09
中山壮一	第16回東北雑草研究会の開催	日本植物調節剤研究協会東北支部会報	50、38-39	2015.03
長谷川啓哉	省力技術体系導入による大規模リンゴ作経営の成立条件	平成26年度研究成果情報		2015.03
長谷川啓哉	小売との互恵的關係構築により有利販売を実現する産地のビジネスモデル	果実日本(日本園芸農業協同組合連合会)	68、76-78	2014.10
長谷川啓哉	リンゴ移出商および産地市場にみる新たなビジネスモデルの模索	果実日本(日本園芸農業協同組合連合会)	69、67-69	2014.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川啓哉	大規模リンゴ作経営成立のための省力技術・販売一体型ビジネスモデル	果実日本(日本園芸協同組合連合会)	69、86-88	2014.09
長谷川啓哉	青森県りんご協会の3綱領と公益性	りんごニュース(青森県りんご協会)	2978、11	2015.01
渡辺満	寒締め栽培によりハウレンソウのフラボノイドと抗酸化能は増加する	平成26年度研究成果情報		2015.03
湯川智行	先端プロ「土地利用型営農技術の実証研究」現地検討会	東北農業研究センターたより	44、8	2014.11
湯川智行	田植機以来	東北農業研究センターたより	45、1	2015.02
藤森英樹	稲発酵粗飼料の広域流通に求められる機能と技術	農業経営通信	260、10	2014.07
鈴木健策	ひらめき☆ときめきサイエンス	東北農業研究センターたより	44、9	2014.11
鈴木健策	水稻幼苗の低気温障害に先立ち硝酸と亜硝酸が葉に蓄積する	東北農業研究センターたより	43、3	2014.07
鈴木健策、青木直大(東京大院農生)、松村尚和、岡村昌樹(東京大院農生)、大杉立(東京大院農生)、下野裕之(岩手大農)	幼穂形成前の低水温が穂ばらみ期の水稻穎花の耐冷性を低下させる分子機構			2015.03
齋藤秀文	立毛間播種機によるソバーナタネ二毛作体系の構築	特産種苗	18、22-24	2014.09

《畑作園芸研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
S Somyong (BIOTEC、Thailand)、石川吾郎、JD Munkvold (Dow AgroSciences LLC)、J Tanaka (Cornell Univ.)、D Benscher (Cornell Univ.)、Y-G Cho (Chungbuk Natl. Univ.)、ME Sorrells (Cornell Univ.)	Fine mapping of a preharvest sprouting QTL interval on chromosome 2B in white wheat	Theoretical and Applied Genetics	127(8)、1843-1855	2014.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
稲本勝彦、長菅香織、矢野孝喜、山崎博子、西本登志(奈良県農業研究開発センター)、仲照史(奈良県農業研究開発センター)、吉川正晃(関西電力株)、岸本章(関西電力株)、喜多村克宏(日本軽金属株)、鈴木正哉((独)産総研)	灯油燃焼式加温機排気から回収貯留した二酸化炭素のガーベラおよびアルストロメリアに対する施用効果	東北農業研究	67、123-124	2014.12
山崎浩道	材質、形状の異なるイチゴ高設栽培槽における培地温度変化の特性	東北農業研究	67、103-104	2014.12
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター)、伊藤篤史(青森県産業技術センター)、上町達也(滋賀県立大学)、石田信昭(石川県立大学)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	くぼみ症の発生を助長するニンニクの収穫後処理条件	園芸学研究	13、169-176	2014.04
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦、山崎篤	氷点下貯蔵後のニンニクの根、芽の伸長を抑制する高温処理条件の探索	園芸学研究	13、371-378	2014.10
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	キャベツの機械化一貫栽培体系における苗の移植深度が収量、結球部の傾きおよび根系分布へ及ぼす影響	根の研究	24(1)、3-10	2015.03
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、齊藤美香、佐藤三佳子(道総研中央農試)、神野裕信(道総研北見農試)、吉村康弘(道総研北見農試)、西村努(道総研上川農試)、前島秀和(長野農試)、上原泰(長野農試)、小林史典(生物研)、中村俊樹	Association mapping and validation of QTLs for flour yield in the soft winter wheat variety Kitahonami	PLoS ONE	9(10)、e111337	2014.10
木下貴文、矢野孝喜、杉浦誠、長崎裕司	Effects of Controlled-Release Fertilizer on Leaf Area Index and Fruit Yield in High-Density Soilless Tomato Culture Using Low Node-Order Pinching	PLoS ONE	9(11)、e113074	2014.11
濱野恵、加藤一幾(岩手大学)、本多和茂(弘前大学)、前田智雄(弘前大学)、森下昌三	Promotion of flowering by photoperiod treatment in six strawberry (Fragaria x ananassa Duch.) cultivars with different everbearing patterns	Journal of Horticultural Science & Biotechnology	90(2)、157-163	2015.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
稲本勝彦	バラ切り花の生産性・日持ち性を左右する環境要因	園芸学研究	13 (別2)、68-69	2014.09
山崎浩道	涼しい夏を活かして東北産夏秋イチゴの生産拡大へ!	園芸学会東北支部30回記念大会公開シンポジウム「東北地方の農産物の販売・生産拡大戦略」	*	2014.08
山崎篤、松尾健太郎、山本岳彦、近藤始彦	アスパラガス伏せ込み促成栽培における根株養成時窒素追肥の寄与	園芸学研究	13 (別2)、462	2014.09
山崎博子、木下貴文、稲本勝彦	ネギの花芽分化に必要な条件	園芸学研究	14 (別1)、371	2015.03
山崎博子、木下貴文、稲本勝彦	貯蔵苗の利用がネギの夏どりハウス栽培における収穫時期および収量に及ぼす影響	園芸学研究	13 (別2)、466	2014.09
小石原弘明 (トヨタ自動車)、本城正憲、榎宏征 (トヨタ自動車)、由比進、西村哲 (トヨタ自動車)、村松正善 (トヨタ自動車)	アレイマーカー技術を利用した栽培イチゴうどんこ病抵抗性、四季成り性連鎖マーカーの開発	育種学研究	17 (別1)、247	2015.03
松尾健太郎、屋代幹雄、山本岳彦、山崎篤	DEVELOPMENT OF PRECISION BELT SEEDER TO EASE THINNING	Proceedings of the 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB)	*, 1051-1056	2014.05
川崎光代	収穫時期の違いによるセイヨウナタネ子実の成分特性の変動	日本作物学会第239回講演会要旨集	*, 227	2015.03
田中裕之 (鳥取大)、黒柿美咲 (鳥取大)、齊藤美香、石川吾郎、中村俊樹、辻本壽 (鳥取大)	小麦粉生地を強くする Thinopyrum elongatum 由来高分子量グルテニンサブユニット遺伝子をもつ 1E 染色体に特異的なコムギ PLUG マーカー	育種学研究	17 (別1)、246	2015.03
氷見英子、伊藤裕之、池永幸子、平将人、中村和弘、谷口義則	寒冷地栽培に適した薄力小麦系統の育成	育種学研究	17 (別1)、64	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
北本尚子(岩手大学農学部)、 由比進、西川和裕(柵サカタの タネ)、高畑義人(岩手大学農 学部)、横井修司(岩手大学農 学部)	長日要求性素材つな中間母本農 2 号(Brassica rapa)における極晩 抽性と BrSPA4 との関連性	育種学研究	17(別1)、 229	2015.03
本城正憲、由比進、森下昌三、 濱野恵、山崎浩道	イチゴにおける四季成り性遺伝子型 (ホモヘテロ)と開花特性および 増殖性との関係(第2報)	育種学研究	17(別1)、 159	2015.03
本田裕	普通ソバの Sh 遺伝子は他殖性であ る	育種学研究	17(別1)、 121	2015.03
木下貴文、船附稚子、稲本勝彦、 山崎博子	培養液の NO ₃ /NH ₄ 比がナス台木ト マトの生育、果実生産性ならびに果 実品質に及ぼす影響	園芸学研究	13(別2)、 429	2014.09
木村文彦(北海道花・野菜技術 センター)、濱野恵、福川英司(北 海道花・野菜技術センター)	育苗方法および長日処理が夏秋ど り作型におけるイチゴ種子繁殖型品 種‘よつぼし’の頂花房出蕾と収量 に及ぼす影響	園芸学研究	14(別1)、 157	2015.03
濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜、 本城正憲、森下昌三	Effect of photoperiod on flowering in first-year runner plant of everbearing strawberry ‘Natsuakari’	Abstract of 29th International Horticultural Congress	*, *	2014.08
濱野恵、木村文彦(北海道花・ 野菜技術センター)	イチゴ種子繁殖型品種‘よつぼ し’の夏秋どり栽培における出蕾 に及ぼす長日処理の影響	園芸学研究	14(別1)、 322	2015.03
齊藤美香、平将人、青木恵美子、 柳澤貴司、石川吾郎、中村俊樹	オオムギ破碎澱粉粒変異 fra 選抜の ためのマーカー開発	育種学研究	17(別1)、 208	2015.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
伊藤裕之、池永幸子、中村和弘、 谷口義則	ジーンバンク植物部門データベー ス(農業生物資源研究所)(小麦 SUWEON42 他 98 系統、大麦 OLD CROMARTY 他 50 系統)	来歴・特性情報 検索システム	http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html	2014.04
稲本勝彦	花の園芸事典 13.19 その他切り 花 球根類	朝倉書店	316-322	2014.09
山崎浩道	涼しい夏を活かす! 国産夏秋イチ ゴ安定多収技術の開発・実証	農食事業研究紹 介 2014(農林水 産省)	*, 41-42	2014.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山崎博子	養分吸収特性と施肥(新訂ネギの生理生態と生産事例)	誠文堂新光社	79-86	2014.06
山崎博子	本圃での生育特性(新訂ネギの生理生態と生産事例)	誠文堂新光社	60-70	2014.06
山崎博子	農産物流通技術 2014(ニンニクの周年出荷技術とその開発例)	農産物流通技術研究会	61-66	2014.09
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター)、伊藤篤史(青森県産業技術センター)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦、山崎篤	ニンニク周年供給のための収穫後処理技術	平成 26 年度普及成果情報		2015.03
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	セル苗の深植え定植による収穫期のキャベツ結球部の傾き抑制	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、齊藤美香、中村俊樹、佐藤三佳子(道総研中央農試)、神野裕信(道総研北見農試)、吉村康弘(道総研北見農試)、西村努(道総研上川農試)、前島秀和(長野農試)、上原泰(長野農試)、小林史典(生物研)	コムギ品種「きたほなみ」の優れた製粉性を支配する遺伝要因	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
川崎光代	成熟期が早く暖地に適したナタネ品種「ななはるか」	農業日誌平成 27 年日誌のしおり(農林統計協会)		2015.01
川崎光代	暖地向きナタネ「ななはるか」地域に適した品種育成	農業共済新聞	9 面	2014.05
本城正憲	北国で遅く出すイチゴ「豊雪姫」	平成 27 年版農業日誌(農林統計協会)	*, *	2014.10
本城正憲	夏秋イチゴ生産拡大へ 農業関係者ら 50 人八戸で勉強会	東奥日報	4 面	2014.06
本田裕	夏ソバの里「羽後町」で「東北ソバフォーラム」を開催	東北農業研究センターたより	44、7	2014.11
本田裕	秋田県及び新潟県(佐渡)における Coix 属植物探索・収集	植物遺伝資源探索導入調査報告書	30、71-79	2015.02
本田裕	東北のソバ栽培を考える	秋田魁新報	25	2014.06
本田裕	夏ソバ導入を進めよう	日本農業新聞	11	2014.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本田裕、川崎光代、山守誠、加藤晶子、由比真美子	収油量が高く、ミールの多角的利用が可能なダブルローなたね新品種候補「東北 99 号」	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
由比進	DNA マーカーによる極晩抽性品種の育成ー世界一のハクサイをめざすー	東北農業研究センターたより	44、2	2014.11
由比進	表紙写真および解説 (津波被災地に導入が進むクッキングトマト品種「すずこま」)	東北農業研究センターたより	43、表紙及び表紙裏	2014.07
由比進	農家日誌 2015 年版 農家便利帳 ベルト 1 本で悪路もへっちゃら 改造ー輪車「楽押し」	農山漁村文化協会	24-25	2014.10
由比進、本城正憲	岩手の気候生かし夏イチゴ	盛岡タイムス	1 面	2015.01
齊藤美香、中村俊樹、石川吾郎	低硝子化に有効な破砕デンプン粒遺伝子のマーカー開発	研究成果シリーズ 水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発ー冬期の水田活用を促進する高品質な冬作物品種の開発ー	531、83-85	2015.02

《畜産飼料作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
R Sakumoto (生物研)、 K Hayashi (生物研)、 M Hosoe (生物研)、 伊賀浩輔、K Kizaki (岩手大学)、 K Okuda (岡山大学)	Gene expression profiles in the bovine corpus luteum (CL) during the estrous cycles and pregnancy: possible roles of chemokines in regulating CL function during pregnancy	Journal of Reproduction and Development	61 (1)、42-48	2015.02
久保田明人、秋山征夫、上山泰史	Variability of genomic constitutions of festulolium (Festuca × Lolium) within and among cultivars	Grassland Science	61、15-23	2014.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
今成麻衣、柴伸弥、米内美晴、渡邊彰	油脂TBA試験紙を用いた牛肉脂質過酸化度の測定と脂質安定性の予測	日本畜産学会報	85(4)、549-552	2014.11
出口新、魚住順、金子真、嶮野英子、俵谷圭太郎(山形大学農学部)	White clover living mulch controlled only by mowing supplies nitrogen to corn	Soil Science and Plant Nutrition	60(2)、183-187	2014.04
小松篤司、東山由美、深澤充、加藤和雄(東北大学農学部)、押部明德	Physiological changes during feeding and rumination in cows	Animal Science Journal	85、271-276	2014.04
田中治、出口新、内野宙、魚住順、北村亨(雪印種苗)、中西載慶(東京農大)	乳酸菌 <i>Lactobacillus coryniformis</i> およびグリセロールの実験室規模トウモロコシホールクロップサイレージへの接種効果	日本草地学会誌	60(4)、235-239	2015.01
東山由美、小松篤司、深澤充、東山雅一、池田堅太郎、上田靖子、秋山典昭、朝隈貞樹	Comparison of urinary cortisol levels in Holstein and Japanese Shorthorn cows in response to breeding system and heat stress	Journal of Animal Science Advances	4(8)、1009-1016	2014.08
福田栄紀	ネムノキ (<i>Albizia julibrissin</i> Durazz.) がオーチャードグラス (<i>Dactylis glomerata</i> L.) の生育と飼料成分特性に及ぼす影響	日本草地学会誌	60(1)、1-9	2014.04
木村健智(長岡技術科学大学)、上山泰史、久保田明人、藤森雅博、高原美規(長岡技術科学大学)、秋山征夫	蛍光 in situ ハイブリダイゼーション (FISH) 法による東北地方で収集されたリードカナリーグラスと外来リードカナリーグラスにおける rDNA の物理的マッピング	日本草地学会誌	60(1)、55-58	2014.04
嶮野英子、魚住順、出口新	北東北地域におけるフェストロリウム (<i>Festulolium Braunii</i>) 品種「東北1号」の耕作放棄水田跡地への導入適性	日本草地学会誌	60、217-221	2014.10

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
伊賀浩輔、窪友瑛(岐阜大学大学院連合獣医学研究科)、麻植香菜子(岩手大学)、福重直輝、志水学	分娩後の卵巣周期の再開、子宮修復の進行および機能回復との関係	Journal of Reproduction and Development	60、j159	2014.08
伊賀浩輔、福重直輝、志水学	オキシトシン感受性を利用した受胎性評価の簡便化に向けた試み(市販のELISAキットを用いた血漿直接測定)の検討	第30回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会要旨集	*、78-79	2015.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
久保田明人、藤森雅博、田村健一、秋山征夫	DNA マーカーを利用したエンドファイト感染フェストロリウム系統の育成(2)	日本草地学会誌	61 (別)、82	2015.03
魚住順、嶺野英子、出口新、内野宙	トウモロコシのかび毒蓄積特性における品種間差	日本草地学会誌	60 (別)、41	2014.04
金森香樹(岩手大学)、伊賀浩輔、志水学、小泉和生(家畜改良センター)、吉田宗史(葛巻牧場)、平田統一(岩手大学)、松原和衛(岩手大学)	ロゼット抑制試験と ELISA 法によるウシ超早期妊娠因子の測定	Journal of Reproduction and Development	60、j138	2014.08
窪友瑛(岐阜大学大学院連合獣医学研究科)、麻植香菜子(岩手大学)、伊賀浩輔、福重直輝、志水学、高橋透(岩手大学)、居在家義昭(岩手大学)	オキシトシン負荷試験による血中 PGFM 動態を指標としたウシ胚早期生存判定法	Journal of Reproduction and Development	60、j98	2014.08
堺久弥(熊本県農業研究センター畜産研究所)、渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、柴伸弥、家入誠二(熊本県農業研究センター畜産研究所)	飼料用玄米の給与が褐毛和種放牧肥育牛の肉質特性に及ぼす影響	日本暖地畜産学会報	57 (2)、230	2014.09
作本亮介(生物研)、林憲悟(生物研)、細江実佐(生物研)、伊賀浩輔、木崎景一郎(岩手大学)、奥田潔(岡山大学)	妊娠初期におけるウシ黄体の網羅的遺伝子発現解析：ホメオボックス遺伝子と妊娠との関連	Journal of Reproduction and Development	60、j121	2014.08
山口学	親子放牧する日本短角種子牛の発育に対する出生時期および場所の影響	日本畜産学会第 119 回大会講演要旨	*, 131	2015.03
山口学、渡邊彰、鈴木裕之(弘前大学)、松崎正敏(弘前大学)	Improved growth performance of embryo-transferred Japanese Black calves born to and nursed by Japanese Shorthorn cows in cow-calf grazing system	Proceedings of the 30th Biennial Conference of the Australian Society of Animal Production	30381	2014.09
秋山征夫、山田-秋山仁美(岩手大学)、JA Conner(ジョージア大学)、WW Hanna(ジョージア大学)、P Ozias-Akins(ジョージア大学)、蝦名真澄	ギニアグラスとチカラシバ属アポミクシス植物における apospory-specific genomic region (ASGR) の相似性	日本草地学会誌	60 (別)、135	2014.04
出口新、魚住順、内野宙、嶺野英子	マメ科緑肥作物へアリーベッチの導入が後作トウモロコシの収量およびリン栄養に与える影響	日本草地学会誌	61 (別)、93	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
深澤充、小松篤司、東山由美、佐藤繁 (岩手大学)	冬季の屋外飼育移行による黒毛和種繁殖雌牛の血中の免疫、抗酸化能および代謝関連成分の変化	東北畜産学会報	64、20	2014.09
池田堅太郎	放牧と採食忌避野菜ズッキーニの栽培を組み合わせた有畜複合生産	日本草地学会誌 2014年度日本草地学会信州大会講演要旨集	61(別)、47	2015.03
渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、柴伸弥、嶺野英子	HS-SPME 採取による牛肉酸化臭の同定	日本畜産学会第119回大会	*, 234	2015.03
東山雅一	放牧草地の家畜生産に及ぼす草種と施肥量の影響 (利用3年目)	日本草地学会誌	61(別)、129	2015.03
東山雅一	放牧草地の草地生産量と播種草被度に及ぼす草種と施肥量の影響 (利用3年目)	日本草地学会誌	61(別)、128	2015.03
東山雅一	Grassland-associated culture created and maintained by a summer mountain grazing-winter housing system of Japanese Shorthorn cattle in northern Japan	Proceedings of the fifth China-Japan-Korea Grassland Conference	*, 163-164	2014.08
東山由美、小松篤司、深澤充	冬季屋外飼養下における黒毛和種妊娠牛の心拍変動と維持行動	日本畜産学会第119回大会講演要旨	*, 208	2015.03
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	ペレニアルライグラス「東北7号PR」の盛岡での生産力検定	日本草地学会誌	61(別)、79	2015.03
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	新規ペレニアルライグラス系統の盛岡での生産力検定	日本草地学会誌	61(別)、79	2014.04
福田栄紀	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹としてのネムノキの特性評価. 樹冠内外での3年間の牧草と雑草の生育の推移	日本草地学会誌	61(別)、23	2015.03
麻植香菜子 (岩手大学)、窪友瑛 (岐阜大学大学院連合獣医学研究科)、伊賀浩輔、福重直輝、志水学、高橋透 (岩手大学)、居在家義昭 (岩手大学)	内腔を有する黄体が黒毛和種牛の受胎性に及ぼす影響	Journal of Reproduction and Development	60、j158	2014.08
嶺野英子、内野宙、魚住順、河本英憲、出口新、大下友子、根本英子	飼料用大豆のサイレージ化に伴うリボキシゲナーゼ活性の消長把握	日本草地学会誌	61(別)、71	2015.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
魚住順	水田転換畑等の過湿地における耐湿性飼料作物の利用	農業および園芸	9月号、935-942	2014.08
今成麻衣	文献紹介	食肉の科学	55(2)、192、200、201、205、222	2014.11
今成麻衣	文献紹介	食肉の科学	55(1)、59、74、88、89、99、117	2014.06
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学(日本食肉研究会)	55(2)、193、197、205、211、219	2014.11
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学(日本食肉研究会)	55(1)、56-57、68-69、80、95、113、120	2014.06
池田堅太郎	草地雑草ファイル エゾノギシギシ	デーリィマン	64(11)、58	2014.11
池田堅太郎	草地雑草ファイル メヒシバ	デーリィマン	64(4)、58	2014.04
渡邊彰	給与飼料と牛肉のフレーバー	食肉の科学	55(1)、138-141	2014.06
渡邊彰	文献抄録	食肉の科学	55(1)、63、91、92、101	2014.06
渡邊彰	文献抄録	食肉の科学	55(2)、193、197、198、206、211、219、220	2014.11
福田栄紀	草地雑草の全て 草地雑草ファイル File No.11 フキ	デーリィマン	64(7)、68	2014.07
魚住順	トウモロコシ不耕起栽培のメリットを生かすー収量の低下なく作業効率は向上する	デーリィマン	64、38-39	2014.04
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	岩手県におけるオギ自生株の探索と収集	植物遺伝資源探索導入調査報告書	30、93-99	2015.02
魚住順	耐湿性と栄養価に優れた新型牧草東北1号;栽培技術	日本草地畜産種子協会パンフレット	*, *	2014.08
嶺野英子	耐湿性と栄養価に優れた新型牧草東北1号;調製技術	日本草地畜産種子協会パンフレット	*, *	2014.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山口学	日本短角種に出産、哺育される黒毛和種子牛は発育が良い	東北農業研究センターたより	45、6	2015.02
深澤充	新パンフレット紹介「寒くても牛イキイキ・屋外飼養でラクラク増頭！！」	東北農業研究センターたより	45、12	2015.02
高橋利清(秋田県畜産試験場)、西宮弘(秋田県畜産試験場)、千田惣浩(秋田県畜産試験場)、伊賀浩輔、酒出淳一(秋田県畜産試験場)	牛の暑熱ストレス軽減対策による繁殖機能改善の検討(第1報)	秋田県畜産試験場研究報告	29、23-27	2015.03
柴伸弥、樋口幹人、今成麻衣、米内美晴、東山雅一、渡邊彰	日本短角種去勢牛の2シーズン放牧肥育における放牧中の適正な増体量	東北農業研究センター研究報告	117、51-58	2015.03
小松篤司、深澤充、東山由美、関矢博幸、木村俊之、木村映一、大谷隆二、押部明徳	日本短角種肥育牛への圧砕稲わら給与が血液成分および産肉性に及ぼす影響	東北農業研究センター研究報告	117、45-50	2015.03
深澤充、小松篤司、東山由美、佐藤繁(岩手大学)	冬季屋外飼育への移行時における血中免疫、抗酸化能および代謝関連成分の推移	東北農業研究センター研究報告	117、35-43	2015.03
東山雅一、高橋繁男(退職)、近藤恒夫(退職)、出口新、村本隆行(岩手大学)	北東北のオーチャードグラスとイタリアンライグラス優占の採草地を利用した冬季放牧が翌年収量と栄養価に及ぼす影響	東北農業研究センター研究報告	117、29-33	2015.03
魚住順	草地管理指標—飼料作物生産利用技術編—; 1.2 作付体系	日本草地畜産種子協会	42200	2014.11
田中治	飼料特性を理解して上手に設計に活かす—防カビ剤	デーリージャパン社	415-420	2014.12
渡邊彰	肉用牛の科学 第10章 肉量・肉質の評価と制御 5.肉質の制御 3) 給与飼料が牛肉のにおいに及ぼす影響	養賢堂	285-288	2015.01
東山雅一	ヒユ類. 草地雑草ファイル.	デーリイマン	65(1)、80	2015.01
東山雅一	アザミ類. 草地雑草ファイル.	デーリイマン	64(6)、66	2014.06
久保田明人、秋山征夫、上山泰史、藤森雅博	フェストロリウムのフェスクゲノム構成率推定に必要なサンプルサイズ	平成26年度研究成果情報		2015.03
今成麻衣、柴伸弥、米内美晴、渡邊彰	油脂TBA試験紙を用いた牛肉脂質過酸化度の測定と脂質安定性の予測	平成26年度研究成果情報		2015.03
出口新、魚住順、金子真、嶺野英子	シロクローバのリビングマルチを用いた飼料作物の有機栽培輪作体系	平成26年度研究成果情報		2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
東山由美、小松篤司、深澤充、東山雅一、池田堅太郎、上田靖子、秋山典昭、朝隈貞樹	飼育環境の違いによるストレス反応はウシの品種間で異なる	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
福田栄紀	火入れはクズの埋土種子を出芽させ、放牧は出芽個体を消滅させる	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
福田栄紀	寒地型牧草はネムノキの樹冠下で収量と栄養価が高まる	平成 26 年度研究成果情報		2015.03
魚住順、嶺野英子、河本英憲、内野宙、金子真、出口新	若刈牧草とホールクロップサイレージ大豆の連続栽培による高タンパク質飼料生産	平成 26 年度普及成果情報		2015.03
深澤充、佐々木正俊(岩手畜研)、小松篤司、東山由美、福重直輝、池田堅太郎、及川修(岩手県中央農業改良普及セ)、須藤知生(岩手県中央農業改良普及セ)、佐藤真(岩手県中央農業改良普及セ)、高畑博志(岩手県宮古農業改良普及セ)	寒冷地の冬季屋外飼養は黒毛和種繁殖雌牛の生産性や健康に影響を与えない	平成 26 年度普及成果情報		2015.03
嶺野英子、齋藤浩和(岩手農研)、越川志津(岩手農研)、魚住順、河本英憲、内野宙、出口新	くず大豆および大豆ホールクロップサイレージは発酵 TMR 原料として有用である	平成 26 年度普及成果情報		2015.03

《生産環境研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
下野裕之(岩手大学)、小崎洋平(岩手大学)、Jagadish KS(IRRI)、酒井英光(農環研)、臼井靖浩(農環研)、長谷川利拡(農環研)、熊谷悦史、中野洋、吉永悟志	Planting geometry as a pre-screening technique for identifying CO2 responsive rice genotypes: a case study of panicle number	Physiologia Plantarum	152、520-528	2014.11
岩間俊太(青森県産業技術センター農林総合研究所)、倉内賢一(青森県産業技術センター農林総合研究所)、門田育生	転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正と品種耐病性の併用によるレタス根腐病の被害軽減効果	北日本病害虫研究会報	65、85-92	2014.12
熊谷悦史、鮫島良次(北海道大学農学部)	Genotypic differences in soybean yield responses to increasing temperature in a cool climate are related to maturity group	Agricultural and Forest Meteorology	198-199、265-272	2014.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
原田純(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、浦家奈々(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)	Performance evaluation of hybrid treatment wetland for six years of operation in cold climate	Environmental Science and Pollution Research	未定、未定	2015.01
戸上和樹、三浦憲蔵	土壌抽出カドミウム濃度による野菜可食部カドミウム濃度の品目間差異の推定	日本土壌肥料学雑誌	85(4)、333-340	2014.08
紺野祥平、大久保さゆり、菅野洋光	夜間冷却量と気象要素の日々の関係とその季節性について—気象観測データを用いた検証—	天気	62(2)、97-103	2015.02
大久保さゆり、菅野洋光、小林隆(山形大学農学部)	高解像度気象データを用いた東北地方におけるイネ葉いもち発生予察モデル(BLASTAM)の検証	天気	62(1)、5-16	2015.01
滝久智(森林総研)、田淵研、飯島勇人(山梨森林研)、岡部貴美子(森林総研)、外山晶敏	Spatial and temporal influences of conifer planted forests on the orchard pest <i>Plautia stali</i> (Hemiptera: Pentatomidae)	Applied Entomology and Zoology	49(2)、241-247	2014.05
田淵研、滝久智(森林総研)、岩井秀樹(中央農研)、水谷信夫、長坂幸吉、守屋成一、佐々木力也(富士フレイバー)	Abundances of a bean bug and its natural enemy in seminatural and arable habitats in agricultural landscapes	Environmental Entomology	43(2)、312-319	2014.04

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
奥寺繁(東北研 生産環境研究領域 病害虫グループ)、田淵研	秋田県能代市における土地利用情報に基づいた斑点米被害の発生リスク評価	第59回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*、182	2015.03
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、岡紀邦、青木和彦、戸上和樹、工藤一晃、三浦憲蔵	有機性汚水を浄化する伏流式人工湿地ろ過システムの処理効果と経済性の評価	日本土壌肥料学会東北支部大会、平成26年度仙台大会、講演要旨	*、8	2014.08
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、北川勝治(㈱たすく)、青木和彦、三浦憲蔵	有機性汚水を浄化する伏流式人工湿地ろ過システムの処理水質変動予測手法の検討	日本土壌肥料学会講演要旨集第60集、2014年度東京大会	60150	2014.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、原田純(北海道大学)、北川勝治(㈱たすく)、佐々木仁(㈱中山組)、櫻木宏明(北海道大学)、青木和彦、三浦憲蔵	Performance and cost evaluation of hybrid wetland systems for organic wastewater treatment in Hokkaido, northern Japan	14th International Conference, Wetland Systems for Water Pollution Control, ICWS2014, Shanghai China, Book of Abstracts	*, 78	2014.10
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英、辻盛生(岩手県立大学)、和木美代子	酪農・畜産・食品工場などの有機性汚水を省エネルギーに浄化処理する伏流式人工湿地ろ過システム—仕組み、効果、設計、コストについて—	第 17 回日本水環境学会シンポジウム講演集	17、33-34	2014.09
吉田めぐみ	かび毒汚染を防ぎ食の安全を確保(食の安全と植物病害)	日本植物病理学会創立 100 周年記念シンポジウム	*, *	2015.03
熊谷悦史	生産力検定試験データを用いた東北地方の過去の気候変動がダイズ生育に及ぼした影響	日本農業気象学会 2014 年東北支部大会	*, 23-24	2014.11
熊谷悦史	寒冷地における温度上昇および土壌乾燥がダイズ生育・収量に及ぼす影響	日本作物学会第 238 回講演会要旨集	*, 91	2014.09
熊谷悦史、下野裕之(岩手大学)	早晩性や伸育型が異なるダイズ品種の大気 CO ₂ 濃度上昇に対する生育応答の比較	日本農業気象学会 2015 年全国大会	*, 94	2015.03
熊谷悦史、鮫島良次(北海道大学)	Responses of soybean cultivars in different maturity groups to increasing temperature in a cool climate	8th Asian crop science association conference	*, 98-99	2014.09
熊谷悦史、持田秀之	寒冷地における早期栽培が日米ダイズ品種の生育収量に及ぼす影響	日本作物学会第 239 回講演会要旨集	*, 43	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
原田純(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、泉本隼人(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、家次秀浩(株たすく)、菅原保英	Long term nitrogen compound removal trend of a hybrid subsurface constructed wetland treating milking parlour wastewater throughout its seven years of operation	9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries、AGRO2014、Proceedings Volume I	*、367-374	2014.11
原田純(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、張曉萌(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、家次秀浩(株たすく)、菅原保英	ハイブリッド伏流式人工湿地における溶存態窒素の浄化メカニズム	農業農村工学会北海道支部第63回研究発表会	*、26-31	2014.10
戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	各種無機質資材と苦土石灰の施用によるコマツナのカドミウム吸収抑制効果	日本土壌肥料学会講演要旨集	60160	2014.09
戸上和樹、三浦憲蔵、伊藤久美子(東北大・農)、菅野均志(東北大・農)、高橋正(東北大・農)、南條正巳(東北大・農)	水田土壌のグライ層で見出されたシデライトに対する元素の親和性	日本土壌肥料学会東北支部大会平成26年度仙台大会講演要旨	*、11	2014.07
工藤一晃、戸上和樹、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	石灰資材の多量施用がハウレンソウのカドミウム濃度と土壌化学性に与える影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	60139	2014.09
今崎伊織、門田育生	メロンつる割病の発病抑制および生長促進効果を同時に発現する育苗方法	日本植物病理学会報	80(4)、284-285	2014.11
三浦憲蔵	稲わら連用水田の土壌pH低下によるカドミウムのリスク	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、83	2014.09
神谷信孝(名古屋大学)、今崎伊織、西掘由記(名古屋大学)、島岡舞衣(名古屋大学)、藤晋一(秋田県立大学)、小嶋美紀子(理化学研究所)、榊原均(理化学研究所)、北野英己(名古屋大学)、柘植尚志(名古屋大学)	トマトから分離された <i>Fusarium fujikuroi</i> のジベレリン生産性と病原性	平成27年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨集	*、67	2015.03
菅原幸哉、小林隆(山形大学農学部)、関矢博幸、兼松誠司、中山壮一	低温焼成初殻灰の施用によるイネのケイ酸含量の変化といもち病発病程度への影響	日本植物病理学会報	80(4)、261	2014.11
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	冬作ハウレンソウの収穫前低温処理および品種によるカドミウム濃度の変動	日本土壌肥料学会講演要旨集	60155	2014.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	冬作ハウレンソウのセル成型苗移植によるカドミウム濃度の変動	日本土壌肥科学会東北支部大会平成 26 年度仙台大会講演要旨	*、7	2014.07
川方俊和	東北地方の水稻の出穂期を面的に予測する数値モデルの開発	日本農業気象学会 2015 年全国大会	*、125	2015.03
泉本隼人(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英	ハイブリッド伏流式人工湿地におけるリンの除去特性	農業農村工学会北海道支部第 63 回研究発表会	*、38-41	2014.10
張曉萌(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英	Pollutant Removal in Hybrid Constructed Wetland for Piggery Wastewater Treatment in Cold Climate Region	農業農村工学会北海道支部第 63 回研究発表会	*、32-37	2014.10
張曉萌(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、菅原保英	Performance of hybrid constructed wetland system for piggery wastewater treatment	9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries、AGRO'2014 in KOCHI、Proceedings Volume II	*、157-163	2014.11
田淵研、市田忠夫(青森農林総研)、大友令史(岩手農研)、加進丈二(宮城古川農試)、高城拓未(宮城防除所)、新山徳光(秋田防除所)、高橋良知(秋田農試)、永峯淳一(山形農総研セ)、草野憲二(福島農総セ)、榊原充隆	東北地域における斑点米カメムシ類: 2003-2013 年の発生動向と被害実態	第 59 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	*、86	2015.03
田淵研、土田浩治(岐阜大)、滝久智(森林総研)、諏訪順子(茨城農研農総セ)、横須賀知之(茨城農研農総セ)、水谷信夫	Abundances of an egg parasitoid and its host alydid bug in seminatural and arable habitats in agricultural landscapes	Netherlands-Japan seminar on Parastoid Biology	*、*	2014.08
南條正巳(東北大・農)、戸上和樹、三浦憲蔵、伊東久美子(東北大・農)、菅野均志(東北大・農)、高橋正(東北大・農)	グライ低地土水田下層におけるシデライトの状態とビビアナイトとの共存事例	日本土壌肥科学会東北支部大会平成 26 年度仙台大会	*、6	2014.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
門田育生、今崎伊織	転炉スラグを原料とした石灰肥料の 土壌施用によるトマト青枯病の発病 抑制	平成 26 年度 (第 50 回) 日本植物 病理学会東北部 会 (50 周年記念) プログラム・講 演要旨集	*、10	2014.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤邦彦	伏流式人工湿地、省スペースで水ろ 過、コストも大幅削減	化学工業日報	4 面	2015.02
加藤邦彦	技術、アグリビジネス創出展から、 低コスト汚水浄化	農経しんぼう (農経新報社)	5 面	2014.12
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)	高濃度有機性汚水を低コストで浄 化、ハイブリッド伏流式人工湿地ろ 過システム	養鶏の友	626、26-29	2014.04
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)	高濃度有機性汚水を低コストで浄 化、ハイブリッド伏流式人工湿地ろ 過システム	養豚の友	541、27-30	2014.04
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)	高濃度有機性汚水を低コストで浄 化、ハイブリッド伏流式人工湿地ろ 過システム	養牛の友	457、32-35	2014.04
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、 家次秀浩 (㈱たすく)、北川勝 治 (㈱たすく)、佐々木仁 (環 境エンジニアリング㈱)	高濃度有機性汚水を低コストで浄化 処理できるハイブリッド伏流式人工 湿地ろ過システム	畜産技術	709、17-20	2014.06
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、 家次秀浩 (㈱たすく)、北川勝 治 (㈱たすく)、佐々木仁 (環 境エンジニアリング㈱)、菅原 保英	人工湿地の能力をさらに強化、高濃 度有機性汚水を低コストで浄化でき るハイブリッド伏流式人工湿地ろ過 システム	農家の友 (北海 道農業改良普及 協会)	776、95-97	2014.04
熊谷悦史	温暖化によって東北地方の中生ダイ ズ品種は増収する	平成 26 年度研 究成果情報		2015.03
戸上和樹、三浦憲蔵	塩化カルシウム土壌抽出法による野 菜可食部カドミウム濃度の品目間差 異の推定	平成 26 年度研 究成果情報		2015.03
今崎伊織	土壌病害 育苗で防ぐ	日本農業新聞	16 面	2014.12
三浦憲蔵、櫻井克年 (高知大)	土壌分類とインベントリー (日本土 壌肥料学会編)	博友社	1-4 (全体の 編集も担当)	2014.04

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
田中佑(京都大学農学部)、熊谷悦史、田副雄士(東北大学農学部)、安達俊輔(農業生物資源研究所)、本間香貴(京都大学農学部)	Leaf Photosynthesis and Its Genetic Improvement from the Perspective of Energy Flow and CO ₂ Diffusion	Plant Production Science	17、111-123	2014.04
田淵研	アカスジカスミカメ性フェロモン製剤と試作製剤によるデータの変換方法	東北農業研究センターたより	44、3	2014.11
田淵研、市田忠夫(青森農林総研)、大友令史(岩手農研)、加進丈二(宮城古川農試)、高城拓末(宮城防除所)、新山徳光(秋田防除所)、高橋良知(秋田農試)、永峯淳一(山形農総研セ)、草野憲二(福島農総セ)、榊原充隆	東北地域における斑点米カメムシ類: 2003-2013 年の発生動向と被害実態.	東北農業研究センター研究報告	117、63-115	2015.03
門田育生、森本晶、永坂厚、今崎伊織	転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正による土壌伝染性フザリウム病の被害軽減	平成 26 年度普及成果情報		2015.03

《水田作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
D Liu(名古屋大)、H Ishikawa(名古屋大)、西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、M Kimura(農林水産消費安全技術センター)、S Asakawa(名古屋大)	Effect of paddy-upland rotation on methanogenic archaeal community structure in paddy fields soil	Microbial Ecology	69、160-168	2015.01
K Yamashita(名古屋大)、H Honjo(愛知農総試)、西田瑞彦、M Kimura(農林水産消費安全技術センター)、S Asakawa(名古屋大)	Estimation of microbial biomass potassium in paddy field soil	Soil Science and Plant Nutrition	60、512-519	2014.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤信、菊池彰夫、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、佐山貴司(農業生物資源研究所)、石本政男(農業生物資源研究所)、藤井健一郎(農業生物資源研究所)、白岩立彦(京都大学)、田中佑(京都大学)、Tae-Young Hwang(国立動物科学研究所、韓国)	A major and stable QTL associated with seed weight in soybean across multiple environments and genetic backgrounds	Theoretical and Applied Genetics	127、1365-1374	2014.04
加藤信、菊池彰夫、湯本節三、石本政男(農業生物資源研究所)、藤井健一郎(農業生物資源研究所)、佐山貴司(農業生物資源研究所)、西尾剛(東北大学農学部)、白岩立彦(京都大学農学部)	Seed yield and its components of indeterminate and determinate lines in recombinant inbred lines of soybean	Breeding Science	65、154-160	2015.03
加藤信、平田香里、菊池彰夫、島村聡	DNA マーカーの活用によるモザイクウイルス、ダイズシストセンチュウ及びわい化病抵抗性の強化	東北農業研究	67、29-30	2014.12
鬼頭英樹、善林薫、中島敏彦	後期追肥によるイネのいもち病感受性を助長させない飼料米生産	北日本病害虫研究会報	65、13-18	2014.12
菊池彰夫、島村聡、加藤信、平田香里	大豆新品種「東北 171 号」の特性	東北農業研究	67、31-32	2014.12
佐藤秀樹(榊自然科学調査事務所)、中込弘二、津田直人、福嶋陽、梶亮太、太田久稔	水稻中間母本系統「奥羽 PL6」の玄米低カドミウム濃度に関する QTL 解析	育種学研究	17(1)、16-24	2015.03
坂園聡美/CA(九大院農学研究院)、永田貴文(九大院農学研究院)、松尾理華(九大院農学研究院)、梶原さゆり(九大農学部)、渡辺正夫(東北大院生命科学研究所)、石本政男(農業生物資源研究所)、島村聡、原田久也(農業生物資源研究所)、高橋良二、望月俊宏(九大院農学研究院)	Variation in root development response to flooding among 92 soybean lines during early growth stages	Plant Production Science	17(3)、228-236	2014.07
西田瑞彦、吉田光二(ジェイカムアグリ株)、土屋一成、高橋智紀、中山壮一	気温データを用いた肥効調節型肥料の溶出推定精度の改善	東北農業研究	67、1-2	2014.12
善林薫、鬼頭英樹、鈴木文彦	SSR マーカーによるいもち病菌圃場分離集団の遺伝的分化の解析	日本植物病理学会報	80(2)、81-87	2014.06
大平陽一、白土宏之、山口弘道、福田あかり	東北日本海側地域における水稻収穫後の圃場への石灰窒素散布が漏生イネの出芽・苗立ちに及ぼす影響	日本作物学会紀事	84、22-33	2015.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大平陽一、白土宏之、山口弘道、 福田あかり	水稲種子の休眠性と発芽能力に及ぼす石灰窒素に含まれるシアナミドの影響	日本作物学会紀事	83(3)、223-231	2014.07
島村聡、吉岡俊人(福井県立大学)、 山本亮、平賀勸、中村卓司、 島田信二、上野(小松)節子	Role of abscisic acid in flood-induced secondary aerenchyma formation in soybean (<i>Glycine max</i>) hypocotyls	Plant Production Science	17(2)、131-137	2014.04
白土宏之、大平陽一	イネ黄化萎縮病発生圃場に認められた水稲の奇形穂の形態と圃場内分布	日本作物学会紀事	83(2)、165-172	2014.04
福嶋陽、唐亮(瀋陽農業大学)、 太田久稔、梶亮太、津田直人、 徐正進(瀋陽農業大学)	良食味および大粒の直立穂水稲系統の作出および評価	日本作物学会東北支部会報	57、47-48.	2014.12
平田香里、増田亮一、山田哲也、 高橋浩司、永谷妙子(特別研究員等)、 佐山貴司(農業生物資源研究所)、 石本政男(農業生物資源研究所)、 羽鹿牧太、坪倉康隆(雪印種苗)、 安井健	Identification of quantitative trait loci associated with boild seed hardness in soybean	Breeding Science	64(4)、362-370	2014.12
片山勝之、山崎篤	早播およびマルチ被覆が水田転換畑での春播き作型におけるタマネギの生育・収量に及ぼす影響	東北農業研究	67、111-112	2014.12
片山勝之、齋藤秀文	転換畑ダイズ作におけるチゼル有芯部分耕を活用した狭畦栽培が生育・収量および雑草抑制に及ぼす影響	日本作物学会東北支部会報	57、63-64	2014.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
D Liu(名古屋大)、H Ishikawa(名古屋大)、 西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、 M Kimura(農林水産消費安全技術センター)、 Susumu Asakawa(名古屋大)	Effects of winter-flooding、Face and paddy-upland rotation on methanogenic archaeal community structures in paddy field soil	20th World Congress of Soil Science、Proceedings	*、P2-533	2014.06
D Liu(名古屋大)、H Ishikawa(名古屋大)、 西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、 S Asakawa(名古屋大)	Survivability of methanogenic archaeal communities in paddy-upland rotational field as determined by DNA and RNA analyses	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、29	2014.09
K Yamashita(名古屋大)、 H Honjo(愛知農総試)、 西田瑞彦、M Kimura(農林水産消費安全技術センター)、 S Asakawa(名古屋大)	Estimation of microbial biomass potassium in paddy field soil	20th World Congress of Soil Science、Proceedings	*、P2-533	2014.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤信	A major and stable QTL associated with seed weight in soybean across multiple environments and genetic backgrounds	Molecular and Cellular Biology of the Soybean 15th Biennial Conference	120	2014.08
加藤信、平田香里、島村聡、高田吉丈、菊池彰夫	DNA マーカーの活用によるモザイクウイルス、ダイズシストセンチュウ及びわい化病抵抗性系統の開発	育種学研究	17 (別 1)、32	2015.03
鬼頭英樹、善林薫	MOLECULAR CLONING OF RICE BLAST PARTIAL RESISTANCE GENE <i>Pi34</i>	XVI International Congress on Molecular Plant-Microbe Interactions	*、*	2014.07
鬼頭英樹、善林薫、中島敏彦	飼料米生産における後期追肥によるいもち病発病抑制	日本植物病理学会報	80 (4)、285	2014.11
鋸屋沙季(秋田県大)、西田瑞彦、保田謙太郎(秋田県大)、佐藤孝(秋田県大)、金田吉弘(秋田県大)、高階史章(秋田県大)	寒冷地の田畑輪換体系における有機質資材由来窒素の動態 – (第2報) 作付体系別の2年間の窒素動態 –	2014年度日本土壌肥料学会東北支部会仙台大会講演要旨集	*、7	2014.07
鋸屋沙季(秋田県大)、西田瑞彦、保田謙太郎(秋田県大)、白土耕史(秋田県大)、金田吉弘(秋田県大)、佐藤孝(秋田県大)、高階史章(秋田県大)	排水不良転換畑における緑肥植物と籾殻暗渠による大豆・エダマメ多収技術 – (5) ダイズ作付時に施用したヘアリーベッチの当該年及び次年のイネ作での窒素動態 –	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、95	2014.09
西田瑞彦	Reinforcing agro-material industries to maintain soil fertility and crop production	20th World Congress of Soil Science, Proceedings	*、014-7	2014.06
西田瑞彦、吉田光二(ジェイカムアグリ株)、関矢博幸	Decrease in nitrogen fertility of paddy soils induced by paddy rice and upland soybean rotation	20th World Congress of Soil Science, Proceedings	*、039-4	2014.06
西田瑞彦、鋸屋沙季(秋田県大)、近藤始彦、高階史章(秋田県大)、佐藤孝(秋田県大)、金田吉弘(秋田県大)、高橋智紀	灰色低地土水田の田畑輪換における有機質資材由来窒素の2年間の動態	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、93	2014.09
白土宏之、大平陽一	水稲鉄コーティング直播における種子露出高が種子流去に与える影響	日本作物学会第238回講演要旨集	*、2	2014.09
白土宏之、大平陽一、山口弘道、福田あかり	寒冷地の水稲無コーティング種子代かき同時播種における代かき回数と播種様式が苗立と収量に与える影響	日本作物学会第239回講演要旨集	*、15	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
片山勝之、齋藤秀文	水田転換畑ダイズ作におけるチゼル有芯部分耕を活用した狭畝栽培が生育・収量に及ぼす影響	日本作物学会第 239 回講演会要旨集	*、157	2015.03
片山勝之、齋藤秀文	転換畑における栽培法の違いがソバの生育・収量に及ぼす影響	日本作物学会第 238 回講演会要旨集	*、99	2014.09
鈴木文彦、善林薫、芦澤武人、光永貴之、石原岳明、池田彰弘(愛知農総試)、吉田朋史(愛知農総試)、中村充(愛知農総試)、早野由里子	抵抗性遺伝子導入品種がいもち病菌集団に及ぼす影響解析	日本植物病理学会報	80(4)、269	2014.11
高橋智紀、持田秀之、西田瑞彦	東北地域における 2012 年産ダイズの収量と土壌管理に関する実態調査	日本土壌肥料学会東北支部大会	*、8	2014.07
高橋智紀、片山勝之、持田秀之、西田瑞彦	転換畑大豆栽培圃場における土壌水分の推定と水ストレス予察の可能性	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、92	2014.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
梶亮太	いもち病に強い直播向き良食味水稻品種「えみのあき」の育成	米麦改良	2015年3月号、14-17	2015.03
鬼頭英樹	飼料用米の生産・給与技術マニュアル< 2014 年度版 >	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構	*、*	2015.03
鬼頭英樹	イネの極多肥栽培において栽培後期の追肥はいもち病を助長しない	平成26年度研究成果情報		2015.03
菊池彰夫、島村聡、加藤信、平田香里、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文	大粒で豆腐加工に適する中生の早の大豆品種「シュウリュウ」	平成26年度普及成果情報		2015.03
菊池彰夫、島村聡、加藤信、平田香里、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文、島田尚典(道総研十勝農試)、高橋浩司、足立大山(国際農研(退職者))、田淵公清(中央農研(退職者))	ダイズモザイク病と倒伏に強い中生の大豆品種「あきみやび」	平成26年度普及成果情報		2015.03
西田瑞彦	積雪寒冷地水田における田畑輪換に伴う土壌肥沃度の変化とその対策	グリーンレポート (JA 全農)	542、8-9	2014.08
西田瑞彦	田畑輪換で生じる地力の変化と対策	再生と利用	144、43-45	2014.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦	水稲品質向上に対応する肥培管理技術<春・基肥編>	農業共済新聞	9 面	2015.02
西田瑞彦	水稲品質向上に対応する肥培管理<夏秋・穂肥編>	農業共済新聞	42225	2014.05
西田瑞彦	地力の改善法提案	秋田魁新報	12 面	2014.04
西田瑞彦	田畑輪換で地力低下 改善法まとめる	日本農業新聞	14 面	2014.04
太田久稔	北東北地域での直播栽培に向く「ちほみのり」	グリーンレポート	548、8	2015.02
太田久稔	パン用水稲新品種「ゆめふわり」の米粉および米粉混合パンの特徴	JATAFF ジャーナル	2 (8)、43	2014.08
太田久稔、山口誠之、福寛陽、梶亮太、津田直人、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司(古川農業試験場)、横上晴郁、田村泰章	パンに適した微細で低損傷デンプンの米粉ができる水稲新品種「ゆめふわり」の育成	東北農業研究センター研究報告	117、15-27	2015.03
大平陽一	水稲種子貯蔵タンパク質の組成、含有率に及ぼす栽培・環境条件の影響ならびに米粒内分布特性に関する研究	近畿中国四国農業研究センター研究報告	14、1-49	2015.03
大平陽一	漏生イネ対策のポイント	農業共済新聞	11 面	2014.04
大平陽一	漏生イネ対策のポイント	農業共済新聞	11 面	2014.04
大平陽一、白土宏之、山口弘道、福田あかり	石灰窒素散布により、飼料用イネ等多収品種由来の漏生イネの発生を低減できる	平成26年度研究成果情報		2015.03
津田直人	早生で直播栽培に適する良食味水稲品種「ちほみのり」について	米麦改良	(1)、10-13	2015.01
津田直人	パン用水稲新品種「ゆめふわり」	技術と普及	(5)、64	2014.05
津田直人	米粉パン用水稲新品種「ゆめふわり」について	米麦改良	(8)、16-19	2014.08
島村聡	湛水ダイズには通気組織ができる	現代農業	93 (10)、98-101	2014.10
島村聡、加藤信、菊池彰夫	東北地域における野生大豆(ツルマメ)の収集-青森県下北半島地域-	植物遺伝資源探索導入調査報告書	30、53-61	2015.02
白土宏之	自宅のできる 飼料米・飼料イネ多収品種の休眠打破法	現代農業(農文協)	2015年3月号	2015.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
福嶋陽	飼料用米に適する水稻新品種「いわいだわら」の育成	米麦改良	2014年11月、10-12	2014.11
福嶋陽	稲発酵粗飼料用の水稻新品種「べこげんき」	東北農業研究センターたより	45、5	2015.02
福嶋陽、浅野厚司（ファーマーズクラブ赤とんぼ）、石川洋（一関市北部農業技術開発センター）	多収性専用品種を用いた飼料用米生産の取り組み	農研機構：平成26年度 東北地域マッチングフォーラム「飼料用米給与が畜産物生産に与えるメリット」講演要旨集	*、33-41	2014.11
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司（宮城県古川農業試験場）	東北地域の稲発酵粗飼料の生産に適した水稻品種「べこげんき」の育成	東北農研研報	117、1-13	2015.03
平田香里	ダイズ子実への高カドミウム蓄積性を判別できる高精度 DNA マーカー	くろっぷニュース	49、*	2014.09
平田香里、増田亮一、安井健、山田哲也、高橋浩司、永谷妙子（特別研究員等）、佐山貴司（農業生物資源研究所）、石本政男（農業生物資源研究所）、羽鹿牧太、坪倉康隆（(現) 雪印種苗）	蒸煮大豆の硬さに関与する QTL の同定と DNA マーカーの開発	平成26年度研究成果情報		2015.03
片山勝之	早期直播栽培を導入したエダマメの作期拡大	農山漁村文化協会	農業技術大系 土壤施肥編 第5-②巻追録 26号、140の30-140の34	2015.02
高橋智紀	粘土質転換畑のダイズ増収を目的とした土壌特性および耕うんに対する生育反応の解明	中央農業総合研究センター研究報告	23、23-84	2015.03

《環境保全型農業研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
永坂厚	聞き取り調査によるホモブシス根腐病の潜在的汚染の予測と生物検定結果との違い	北日本病害虫研究会報	65、47-49	2014.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西村愛子、浅井元朗、黒川俊二、 澁谷知子、中村浩也 (㈱丸文製 作所)	蒸気処理機を用いた耕地雑草埋土種 子の死滅技術開発	雑草研究	59(3)、167-174	2014.09

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西村愛子、渡邊寛明、浅井元朗	津波被災後の農地復旧・作付過程が 埋土種子集団に与える影響	第62回日本生態 学会大会ポスタ ー発表	*, PA2-019	2015.03
内田智子、松波寿弥、小林浩幸	異なるカリ施肥条件下での土壌とダ イズ植物体の放射性セシウム濃度と カリ含量の推移	日本土壌肥料学 会講演要旨集	60、76	2014.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
永坂厚	ミニ特集：東北地方におけるキュウ リホモプシス根腐病の防除対策東北 地方のホモプシス根腐病研究と総合 防除	植物防疫	68(9)、512-516	2014.09
森田弘彦 (秋田県立大学)、 浅井元朗	原色 雑草診断・防除事典	農山漁村文化協 会	592pp.	2014.06
浅井元朗	芝生で問題となる雑草の芽生えハン ドブック 第2版	文一総合出版	112pp.	2014.11
浅井元朗	海外誌のコンテンツから	雑草研究	59(4)、215-219	2014.12
浅井元朗	地表面の雑草種子を死滅させる自走 式蒸気処理防除機の開発	中央農研ニュー ス	No.65、2	2014.07
浅井元朗	場内圃場における試験設計とデータ 解析の実態	ファーミングシ ステム研究	12、58-65	2015.02
浅井元朗	DVD 雑草管理の基本技術と実際 第3巻 畑の雑草【診断と除草のポ イント】	農山漁村文化協 会	*, *	2015.01
浅井元朗	植調 雑草大鑑	全国農村教育協 会	360pp.	2015.02
浅井元朗、西田智子 (農業環境 技術研究所)、奥野潤一 ((公財) 日本植物調節剤研究協会研究所)、 白倉伸一 (㈱バイエルクロップ サイエンス)、市原実 (静岡県 農林技術研究所)	海外誌のコンテンツから	雑草研究	60(1)、15-21	2015.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗、西田智子（農業環境技術研究所）、奥野潤一（（公財）日本植物調節剤研究協会研究所）、白倉伸一（㈱バイエルクロップサイエンス）、市原実（静岡県農林技術研究所）	海外誌のコンテンツから	雑草研究	59(3)、183-187	2014.09
浅井元朗、西田智子（農業環境技術研究所）、奥野潤一（（公財）日本植物調節剤研究協会研究所）、白倉伸一（㈱バイエルクロップサイエンス）、市原実（静岡県農林技術研究所）	海外誌のコンテンツから	雑草研究	59(2)、122-130	2014.06
内田智子、小林浩幸、豊田鮎（元契約研究員（香川大学農学部））、松波寿弥、三浦礼（契約職員）、好野奈美子	休閑期に大豆緑肥を用いる小麦栽培技術マニュアル	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農研機構東北農業研究センター	*、17	2015.03

《農業放射線研究センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
K Tawaraya（山形大学）、R Horie（山形大学）、信濃卓郎、T Wagatsuma（山形大学）、K Saito（理化学研究所）、A Oikawa（山形大学）	Metabolite profiling of soybean root exudates under phosphorus deficiency	Soil Science and Plant Nutrition	60(5)、679-694	2014.10
Q Chu（北海道大学）、T Watanabe（北海道大学）、Z Sha（上海交通大学）、M Osaki（北海道大学）、信濃卓郎	Interactions between Cs, Sr, and Other Nutrients and Trace Element Accumulation in <i>Amaranthus</i> Shoot in Response to Variety Effect	Journal of Agricultural and Food Chemistry	63(8)、2355-2363	2015.02
Y Suzuki（福島県農業総合センター）、T Yasutaka（産業技術総合研究所）、藤村恵人、T Yabuki（福島県農業総合センター）、M Sato（福島県農業総合センター）、K Yoshioka（福島県農業総合センター）、K Inubushi（千葉大学）	Effect of the concentration of radiocesium dissolved in irrigation water on the concentration of radiocesium in brown rice	Soil Science and Plant Nutrition	61、191-199	2015.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
T Minami (京都大学)、Y Tokuda (京都大学)、H Masai (京都大学)、Y Ueda (京都大学)、Y Ono (福島県農業総合センター)、藤村恵人、T Yoko (京都大学)	Structural analysis of alkali cations in mixed alkali silicate glasses by ^{23}Na and ^{133}Cs MAS NMR	Journal of Asian Ceramic Societies	2 (4)、333-338	2014.12
Y Unno (環境科学研究所)、信濃卓郎、K Minamisawa (東北大学)、池田成志	Bacterial community shifts associated with high abundance of <i>Rhizobium</i> sp. in potato roots under deficient conditions of macro fertilizer elements	Soil Biology & Biochemistry	80、232-236	2015.01
久保堅司、河田尚之、中島隆、平八重一之、藤田雅也	Field evaluation of resistance to kernel infection and mycotoxin accumulation caused by <i>Fusarium</i> head blight in western Japanese wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) cultivars	Euphytica	200 (1)、81-93	2014.11
久保堅司、根本和俊 (福島県農業総合センター)、小林浩幸、栗山泰 (農林水産省)、原田浩秀 (農林水産省)、松波寿弥、江口哲也、木方展治 (農業環境技術研究所)、太田健、慶徳庄司 (福島県農業総合センター)、木村武、信濃卓郎	Analyses and countermeasures for decreasing radioactive cesium in buckwheat in areas affected by the nuclear accident in 2011	Field Crops Research	170 (1)、40-46	2015.01
松波寿弥、小林真、安藤象太郎 (国際農研)、寺島義文 (国際農研)、霍田真一 (国際農研)	エريانサス (<i>Erianthus arundinaceus</i> (L.) Beauv.) に吸収された窒素の由来	日本草地学会誌	60 (2)、97-101	2014.07
信濃卓郎、T Watanabe (北海道大学)、Q Chu (北海道大学)、M Osaki (北海道大学)、D Kobayashi (福島医大)、T Okouchi (福島医大)、松波寿弥、永田修、岡崎圭毅、中村卓司	Varietal difference in radiocesium uptake and transfer from radiocesium deposited soils in the genus <i>Amaranthus</i>	Soil Science and Plant Nutrition	60 (6)、809-817	2014.12
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	農業用水の放射性 Cs のリアルタイム予測と水管理への展開	農業農村工学会誌	83 (1)、35-38	2015.01
石川哲也、草佳那子、鈴木保宏	イネの分けつ構造を図示する Logo プログラム	日本作物学会紀事	83 (3)、260-266	2014.07
藤村恵人、村松康行 (学習院大学)、大野剛 (学習院大学)、齋藤正明 (福島県農業総合センター)、鈴木安和 (福島県農業総合センター)、小林智之 (福島県農業総合センター)、吉岡邦雄 (福島県農業総合センター)、上田義勝 (京都大学)	Accumulation of ^{137}Cs by rice grown in four types of soil contaminated by the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant accident in 2011 and 2012	Journal of Environmental Radioactivity	140、59-64	2015.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
藤村恵人、佐久間祐樹(福島県農業総合センター)、佐藤睦人(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、吉岡邦雄(福島県農業総合センター)、山内敏美(福島県農業総合センター)、佐藤紀夫(猪苗代町)、江口定夫(農業環境技術研究所)	Difference in Cs-137 concentration of brown rice between the years of 2011 and 2012 in Fukushima Prefecture	Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry	303、1147-1150	2015.02
藤村恵人、石川淳子、佐久間祐樹(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、佐藤睦人(福島県農業総合センター)、吉岡邦雄(福島県農業総合センター)	Theoretical model of the effect of potassium on the uptake of radiocesium by rice	Journal of Environmental Radioactivity	138、122-131	2014.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
海野祐介(環境科学技術研究所)、信濃卓郎、南澤究(東北大農)、池田成志	ジャガイモ根圏では主要な施肥成分の制限により <i>Rhizobium</i> 属細菌が寡占化する	日本土壌肥料学会講演要旨集	60、34	2014.09
久保堅司	コムギにおけるセシウムの移行性の解析	岡山大学 共同利用・共同研究「植物資源・ストレス科学研究拠点」シンポジウム 植物による東日本大震災被災農地の修復	17-21	2014.04
久保堅司、小林浩幸、根本和俊(福島県農業総合センター)、栗山泰(農林水産省)、原田浩秀(農林水産省)、松波寿弥、江口哲也、木方展治(農業環境技術研究所)、太田健、慶徳庄司(福島県農業総合センター)、木村武、信濃卓郎	そばへの放射性セシウムの移行を低減するための解析および対策	日本作物学会第 239 回講演要旨集	*、170	2015.03
久保堅司、小林浩幸、松波寿弥、根本和俊(福島県農業総合センター)、太田健	そばの倒伏による子実への放射性セシウムの混入と収穫後の調製による低減対策	日本作物学会第 238 回講演要旨集	*、100	2014.09
久保堅司、小林浩幸、松波寿弥、太田健、信濃卓郎	秋そばへの蒸散抑制剤の散布がセシウムの移行に及ぼす影響の予備的検討	根の研究	23(2)、58	2014.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
江口哲也、太田健、好野奈美子、小林浩幸、村上敏文	黒ボク畑における表面流去にともなう放射性セシウムの流出モニタリング	日本土壌肥料学会講演要旨集	60146	2014.09
江口哲也、太田健、石川哲也、松波寿弥、山口紀子(農業環境技術研究所)、木方展治(農業環境技術研究所)、久保堅司、信濃卓郎	雲母層間の非交換性カリが水稻への放射性セシウム移行におよぼす影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	60158	2014.09
高雄淳英(北大農)、海野祐介(環境科学技術研究所)、渡部敏祐(北大農)、大崎満(北大農)、信濃卓郎	異なる施肥条件での長期連用による土壌の物理化学性の変化に起因した土壌中 Cs 動態及び植物体への Cs 移行量変化の解析	日本土壌肥料学会講演要旨集	60161	2014.09
佐藤誠(福島県農業総合センター)、鈴木幸雄(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、佐久間祐樹(福島県農業総合センター)、藤村恵人	福島県内の農地における放射性物質に関する研究(第16報)水稻における部位別放射性セシウムと N、P、K、Na、Mg、C の解析	日本土壌肥料学会講演要旨集	60141	2014.09
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	水質項目等による農業用水中の放射性セシウム濃度の予測可能性について	平成26年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	63、482-483	2014.08
申文浩、浜田康治、久保田富次郎、人見忠良、太田健	Quantitative analysis of radioactive cesium in decontaminated paddy fields	9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries, Kochi, Japan	Proceedings Volume II, 666-670	2014.11
竹倉憲弘	除染廃棄物の減容化および作物残渣の固形燃料化	農業施設学会シンポジウム「持続的な農業経営のための放射性物質対策技術」— “これまで” と “これから” の安全・信頼確保のために—	*, 15-19	2014.01
藤村恵人、木方展治(農業環境技術研究所)、石川淳子、鈴木幸雄(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、佐藤睦人(福島県農業総合センター)	Model-based estimation of inhibitory effect of potassium application on Cs-137 uptake by rice	20th World Congress of Soil Science	*, 78	2014.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
藤村恵人、久保堅司	蒸散が水稻によるセシウム吸収に及ぼす影響の予備的検討	日本農業気象学会東北支部会	59、16	2014.11
藤村恵人、石川哲也、久保堅司、太田健	放射性セシウムの体内分配における作目間比較	日本作物学会第239回講演要旨集	別2、35	2015.03
藤本竜輔	電気柵の設置において多くみられる失敗と普及指導の効果	日本農作業学会2015年度春季大会	50(別)、p99-100	2015.03
藤本竜輔	農業などの人間活動がイノシシに及ぼす影響	日本哺乳類学会2014年度大会企画シンポジウム	*、*	2014.09
牧野知之(農業環境技術研究所)、高野博幸(太平洋セメント)、神谷隆(太平洋セメント)、前島勇治(農業環境技術研究所)、赤羽幾子(農業環境技術研究所)、関谷直樹(農業環境技術研究所)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、太田健	Advanced Physico-chemical Method to Restore Agricultural Soils Contaminated with Cd and Radioactive Cesium	Proceeding of MARCO-FFTC Joint International Seminar on Manegement and Remediation Technologies of Rural Soils Contaminated by Heavy Metals and Radioactive Materirals	*、47-58	2014.09
鈴木安和(福島県農業総合センター)、塚田祥文(福島大学)、藤村恵人、佐久間祐樹(福島県農業総合センター)、矢吹隆夫(福島県農業総合センター)、吉岡邦雄(福島県農業総合センター)、犬伏和之(千葉大学)	福島県内の農地における放射性物質に関する研究(第18報) 灌漑水中の形態別放射性セシウム濃度が玄米中濃度に及ぼす影響の解明	日本土壌肥科学会講演要旨集	60141	2014.09
齋藤隆(福島県農業総合センター)、高橋和平(福島県農業総合センター)、牧野知之(農業環境技術研究所)、太田健	各種資材施用による玄米中放射性セシウム吸収抑制効果の検証	第16回環境放射能研究会	*、*	2015.03
齋藤隆(福島県農業総合センター)、高橋和平(福島県農業総合センター)、牧野知之(農業環境技術研究所)、太田健	福島県内の農地における放射性物質に関する研究(第17報) 一田植え前の水溶性カリウムイオン濃度に基づく玄米中放射性セシウム濃度の推定一	日本土壌肥料学会講演要旨集	60141	2014.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
信濃卓郎	Mitigation of Radioactive Contamination from Farmland Environment and Agricultural Products	Proceedings of MARCO-FFTC Joint International Seminar on Management and Remediation Technologies of Rural Soils Contaminated by Heavy Metals and Radioactive Materials.	79-88、 204pages	2014.09
齋藤隆（福島県農業総合センター）、高橋和平（福島県農業総合センター）、牧野知之（農業環境技術研究所）、太田健、吉岡邦雄（福島県農業総合センター）	Prediction of radiocesium concentration in brown rice based on the water-soluble potassium ion concentration in the soil and the potassium ion concentration in the soil solution	20th World Congress of Soil Science Proceedings	*、*	2014.06

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
久保堅司、小林浩幸、栗山泰（農林水産省）、原田浩秀（農林水産省）、松波寿弥、江口哲也、木方展治（農業環境技術研究所）、根本和俊（福島県農業総合センター）、安藤慎一郎（宮城県古川農業試験場）、星一好（栃木県農業試験場）、高橋守（岩手県）、太田健、木村武、信濃卓郎	カリ施用による玄そばの放射性セシウム濃度の低減			2015.03
信濃卓郎、久保堅司、藤村恵人、好野奈美子	Radioecological Chernobyl and Fukushima combined scientists from different countries	Obninsk Gazeta	1、5	2014.10
申文浩	飯舘村の農業用水中に含まれる放射性セシウムの動態について(1)－除染水田を対象とした実態調査より－	広報いいたて（福島県飯舘村広報誌）	別紙、2	2014.12
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	濁度観測による農業用水中の放射性セシウムの連続推定技術			2015.03
太田健	水稻の放射性セシウム吸収抑制対策	日本土壌肥科学雑誌	85(2)、90-93	2014.04

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齋藤隆(福島県農業総合センター)、高橋和平(福島県農業総合センター)、片桐優亮(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター浜地域研究所)、牧野知之(農業環境技術研究所)、太田健	生育期間中の水抽出カリ含量に基づく玄米放射性セシウム濃度の推定			2015.03

《研究支援センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
宮沢佳恵(東京大学)、武田容枝(福島県農業研究センター)、村上敏文、村山徹	Dual and triple intercropping: Potential benefits for annual green manure production	Plant Production Science	17、194-201	2014.04

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
岡田益己(岩手大学農学部)、福島美希(岩手大学農学部)、庄野浩資(岩手大学農学部)、松嶋卯月(岩手大学農学部)、由比進	トマト果実の日焼けに及ぼす日射と気温の影響	東北の農業気象	19、17-18	2015.03
村山徹	施肥量の削減が秋冬キャベツの収量と品質に及ぼす影響	園芸学研究	14(別1)、170	2015.03
村山徹	定植前リン酸苗施用によるネギのリン酸・カリ減肥栽培	日本土壌肥料学会講演要旨集	60123	2014.09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金田哲(農業環境技術研究所)、中嶋美幸、浦嶋泰文(異動)、村上敏文	Effectiveness of reduced tillage on the cast production of <i>Pheretima (Amyntas) carnosa</i> and yield of Chinese cabbage on volcanic-ash soil	Japan Agricultural Research Quarterly	48、147-153	2014.04

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村山徹	定植前リン酸苗施用によるネギの増収とリン酸減肥	技術と普及(全国農業改良普及支援協会)	52(2)、68	2015.02
村山徹	元肥のリン酸半分でも1割増収!定植前のネギ苗をリン酸カリ溶液に漬けるだけ	現代農業	3月号、120-123	2015.02
村山徹	ネギの苗をリン酸液肥に浸して植えると収量が増える	東北農業研究センターたより	43、2	2014.07
村山徹	農業技術体系「土壌施肥編」作物別施肥技術 野菜の施肥技術 野菜の肥料特性と施肥 定植前リン酸苗施用によるネギの生育促進とリン酸減肥	農山漁村文化協会	6-1、92の11の10-14	2015.02
村山徹	ネギの苗をリン酸液肥に浸して収量増	平成27年版農業日誌(農林統計協会)	*、*	2014.11
村山徹、宮沢佳恵(東京大学)	定植前リン酸苗施用による野菜のリン酸施用量の削減	省資源プロ成果シリーズ	*、119-124	2015.03
村上敏文	GPV 気象予報-田畑の気球空撮の強い味方-	現代農業(農山漁村文化協会)	2015年4月号、未定	2015.03
村上敏文	根っこになって土を診る③ECって?	現代農業(農山漁村文化協会)	2015年4月号、未定	2015.03
村上敏文	根っこになって土を診る②アルカリの害って?	現代農業(農山漁村文化協会)	2015年3月号、36-37	2015.02
村上敏文	根っこになって土を診る①酸性害って?	現代農業(農山漁村文化協会)	2015年1月号、32-33	2014.12
村上敏文	よくわかる土と肥料のハンドブック 肥料・施肥編	農山漁村文化協会	*、*	2014.07
村上敏文	よくわかる土と肥料のハンドブック 土壌改良編	農山漁村文化協会	*、*	2014.07
村上敏文	低高度からの空撮で作物の生育状況を把握する	農耕と園藝(誠文堂新光社)	2015年3月号、62-65	2015.02

2. 特許・品種登録等

1) 特許・実用新案の出願及び登録

(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
【特許】 (登録)			
○未熟コムギ種子を用いた食品の製造方法及び食品	中村 俊樹、日本製粉㈱		H26. 4. 4 第 5509420 号
○新規デンブンを有するコムギおよびその作成方法	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、齋藤 美香、 ヴリンティン パトリシア リン、 日本製粉㈱		H26. 8. 5 カナダ 第 2607344 号
○油脂からのトコトリエノールとバイオディーゼル燃料の同時生産方法	木村 俊之、 (国大) 東北大学		H27. 2. 27 第 5700188 号
(出願中)			
○下層土圧縮装置	大谷 隆二、関矢 博幸、 冠 秀昭、 ㈱パディ研究所、キャタ ピラー九州㈱	H24. 2. 16	
○植物ホルモン関連物質を処理した忌避植物と植物ウイルスを接種したおとり植物の植栽配置による微小害虫アザミウマ類制御技術	櫻井 民人、 中央農業総合研究セン ター、国立研究開発法人 理化学研究所	H24. 9. 20	
○体外発育卵母細胞をレシピエント卵子とするクローン動物個体の作成法	平尾 雄二、竹之内直樹、 伊賀 浩輔、成瀬 健司、 志水 学	H24. 11. 1	
○燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	稲本 勝彦、 国立研究開発法人産業総 合技術研究所、奈良県、 大阪瓦斯㈱、日本軽金属 ㈱	H25. 4. 25	
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉㈱	H25. 9. 26	
○高純度セレブロシドの製造方法	木村 俊之、 オルガノ㈱、日本製粉㈱	H26. 12. 4	

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用した品質劣化が抑制された食品	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27.2.19	
○少なくとも2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用した糖を添加しない食品の製造方法	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27.2.19	
○少なくとも2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用したマルトース高含有生地 of 製造方法	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27.2.19	
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用した冷凍食品	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27.2.19	
ほか7件			
【実用新案】 なし			

2) 種苗法による品種登録

(平成26年4月～平成27年3月)

植物の種類	品種の名称	登録年月日	登録番号	育 成 者
小麦	銀河のちから	H26.5.2	第23403号	吉川 亮、谷口 義則、中村 和弘、 伊藤 裕之、平 将人、八田 浩一、 前島 秀和、伊藤 美環子、中村 俊樹、 石川 吾郎、中村 洋、伊藤 誠治
小麦	ゆきはるか	H26.5.2	第23404号	谷口 義則、吉川 亮、中村 和弘、 伊藤 裕之、平 将人、前島 秀和、 八田 浩一、伊藤 美環子、中村 洋、 中村 俊樹、石川 吾郎、伊藤 誠治
フェストロリウム	イカロス	H26.7.25	第23479号	米丸 淳一、上山 泰史、久保田 明人、 秋山 征夫、雪印種苗(株)
なたね	キタノキラメ キ	H26.9.30	第23721号	本田 裕、川崎 光代、山守 誠、 加藤 晶子、由比 真美子、石田 正彦、 千葉 一美、遠山 知子

植物の種類	品種の名称	登録年月日	登録番号	育成者
いちご	豊雪姫	H26. 11. 18	第 23753 号	片岡 園、由比 進、本城 正憲、岡本 潔、森下 昌三、矢野 孝喜、濱野 恵
大豆	あきみやび	H27. 3. 20	第 24103 号	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、河野 雄飛、湯本 節三、高田 吉丈、島田 信二、境 哲文、島田 尚典、高橋 浩司、鈴木 真吾、田淵 公清
大豆	シュウリュウ	H27. 3. 20	第 24104 号	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、河野 雄飛、湯本 節三、高田 吉丈、島田 信二、境 哲文
稲	ゆめふわり	H27. 3. 26	第 24272 号	太田 久稔、山口 誠之、福鳶 陽、梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、片岡 知守、遠藤 貴司、横上 晴郁、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター
稲	えみのあき	H27. 3. 26	第 24271 号	太田 久稔、山口 誠之、福鳶 陽、梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、片岡 知守、遠藤 貴司、横上 晴郁

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育成者
ねぎ	TAM - 1	H24. 4. 10	山崎 篤、山崎 博子、野菜茶業研究所
稲	いわいだわら	H25. 6. 26	太田 久稔、山口 誠之、福鳶 陽、梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、片岡 知守、遠藤 貴司、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター
なたね	ななはるか	H25. 9. 27	川崎 光代、本田 裕、加藤 晶子、由比 真美子、山守 誠、遠山 知子、石田 正彦、手塚 隆久、千葉 一美
稲	べこげんき	H26. 4. 3	太田 久稔、山口 誠之、福鳶 陽、梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、片岡 知守、遠藤 貴司
小麦	こしちから	H26. 4. 18	谷口 義則、伊藤 裕之、池永 幸子、中村 俊樹、石川 吾郎、吉川 亮、中村 和弘、平 将人、八田 浩一、前島 秀和、伊藤 美環子、中村 洋、伊藤 誠治

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育成者
稲	ちほみのり	H26. 4. 18	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司
稲	ときめきもち	H26. 4. 22	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太 津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、国立研究開発法 人国際農林水産業研究センター
大豆	はたむすめ	H26. 5. 16	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、 平田 香里、河野 雄飛、湯本 節三、 高田 吉丈

3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数

1) 育成品種（平成 26 年度出願）

- ・稲「べこげんき」（奥羽飼 4 1 4 号）
- ・小麦「こしちから」（東北 2 2 5 号）
- ・稲「ちほみのり」（奥羽 4 1 6 号）
- ・稲「ときめきもち」（奥羽 4 1 3 号）
- ・大豆「はたむすめ」（東北糯 1 7 1 号）

2) 育成品種一覧 (平成 27 年 3 月現在)

水 稲

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	早 晩 性	耐 倒 伏 性	耐 冷 性	食 味	いもち病抵抗性	
			母	父						抵 抗 性 遺 伝 子 型	圃 場 抵 抗 性
1 ハツニシキ	農林 84 号	奥羽 224 号	農林 22 号	農林 1 号	1954	早	や	や	下上	+	中
2 ヤマセニシキ	農林 139 号	奥羽 225 号	農林 22 号	農林 1 号	1962	早	中	中	上下	+	中
3 ウゴニシキ	農林 143 号	奥羽 242 号	関東 51 号	ハツニシキ	1963	中	中	中	上下	Pik	中
4 フクニシキ	農林 152 号	奥羽 245 号	54BC-68	ハツニシキ	1964	中	中	中	上下	Pik	中
5 オトメモチ	農林 171 号	奥羽 赤糯 259 号	こがねもち	奥羽 225 号	1966	早	や	や	(良)	Pia	中
6 フツノハチ	農林 172 号	奥羽 249 号	ハツニシキ	東北 76 号	1966	中	中	中	-	Pia	中
7 イサリビノデ	農林 181 号	奥羽 260 号	ハツニシキ	十石	1967	晩	中	中	上上	Pia	中
8 ササミノリ	農林 182 号	奥羽 250 号	東北 78 号	奥羽 329 号	1967	中	中	中	中中	+	中
9 トヨニシキ	農林 198 号	奥羽 267 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	中	中	中	中中	Pia	中
10 キヨニシキ	農林 199 号	奥羽 269 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	中	中	中	中上	Pia	中
11 ヒメノモチ	農林 210 号	奥羽 268 号	大系 227	こがねもち	1970	早	や	や	(良)	Pik	中
12 ハヤニシキ	農林 222 号	奥羽 277 号	奥羽 239 号	フジミノリ	1972	極早	中	中	中上	+	中
13 ハヤヒカリ	農林 239 号	奥羽 278 号	ふ系 70 号	奥羽 269 号	1972	早	や	や	中上	Pia	中
14 アキユタカ	農林 253 号	奥羽 301 号	トヨニシキ	曲系 17	1976	早	中	中	中上	Pik,Pik	中
15 ヒデコモチ	農林 254 号	奥羽 糯 296 号	コチヒビキ	ふ系 72 号	1979	早	中	中	(良)	Pik,Pii	中
16 おおき	農林 320 号	奥羽 331 号	中部 47 号	奥羽 316 号	1979	中	中	中	中上	Pia,Pib	中
17 朝紫	農林 342 号	奥羽 346 号	東糯 396	奥羽 313 号	1993	中	中	中	中上	Pia,Pii	中
18 スノーパール	農林 356 号	奥羽 344 号	74wx2N-1	奥羽 331 号	1996	中	中	中	上下	Pia	中
19 おくのむらさき	農林 367 号	奥羽 368 号	東北糯 149 号	奥羽 331 号	1998	中	中	中	中上	+	中
20 シルキパール	農林 375 号	奥羽 354 号	探索 2019	ふ系 143 号	2000	中	中	中	中上	Pib	中
21 紅衣	農林 384 号	奥羽 赤 370 号	(奥羽 331 号 × A5) の F1	奥羽 331 号	2001	早	中	中	中上	+	中
22 ちゅらひかり	農林 390 号	奥羽 366 号	東北 143 号	奥羽 338 号	2003	中	中	中	中上	Pia,Pii	極強
23 恋あずさ	農林 407 号	奥羽 359 号	北海 269 号	奥羽 316 号	2005	早	中	中	中中	Pia,Pik	弱
24 ベこおおば	農林 408 号	奥羽 観 387 号	オオチカラ	西海 203 号	2005	中	中	中	中下	Pia-2,(Pia)	弱
25 奥羽観 383 号	—	奥羽 観 383 号	H-451	紫穂 No.1	2008	早	中	中	中中	+	弱
26 萌えみもち	農林 416 号	奥羽 赤糯 388 号	南海 128 号	はえぬき	2006	中	中	中	中上	Pia,Pii	中
27 夕やけのみ	農林 417 号	奥羽 赤糯 395 号	たつこもち	紅衣	2006	早	中	中	中上	+	中
28 ベこごのみ	農林 425 号	奥羽 観 389 号	ふくひびき	97UK-46	2007	早	中	中	中下	Pib,Pik	や
29 紫こぼし	—	奥羽 観 378 号	関東 195 号	朝紫	2011	早	中	中	中上	Pia	強
30 祝い茜	—	奥羽 観 379 号	紫穂 No.1	対馬在来	2011	早	中	中	中上	Pik	中
31 祝い紫	—	奥羽 411 号	おきにいり / あ	対馬在来	2011	晩	中	中	上下	Pia,Pii	中
32 きんのめぐみ	—	—	いそみのりの F1	おきにいり	2013	中	中	中	上中	—	中
33 ゆめふわり	—	奥羽 405 号	たきたて	放育 2 号	2015	早	中	中	中上	Pii	中
34 えみのあき	—	奥羽 407 号	中部 111 号	奥羽 382 号	2015	中	中	中	中上	Pia,Pii	極強
35 いわいだわら	—	奥羽 409 号	奥羽 観 394 号	奥羽 観 395 号	—	早	中	中	中上	Pik,Pib	不明
36 ベこげんき	—	奥羽 観 414 号	羽系 観 864	青系 観 116 号	—	極早	中	中	不明	Pia,Pib	不明
37 ちほみのり	—	奥羽 416 号	奥羽 382 号	青系 157 号	—	極早	中	中	中上	Pia,Pii	強
38 ときめきもち	—	奥羽 糯 413 号	奥羽 糯 391 号	奥羽 直 376 号	—	中	中	中	中上	Pia,Pii,Pik	強

小麦

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	主な用途	成熟期	芒の有無	穂の色	耐寒雪性	赤さび病抵抗性
			母	父							
1 スソノコムギ	農林77号	東北77号	農林10号	北関東5号	1950	めん用	中	有	白	やや弱	やや弱
2 ムツベンケイ	農林78号	東北84号	F5-1582	Egyptian Amber	1950	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
3 アオバコムギ	農林81号	東北79号	農林7号	Ardito	1951	パン用	早	無	白	強	やや弱
4 ナンブコムギ	農林82号	東北95号	農林33号	農林27号	1951	めん用	早	有	白	中	中
5 ヒツミコムギ	農林88号	東北103号	農林39号	東北56号	1953	めん用	晩	無	白	強	中
6 オクコムギ	農林90号	東北97号	農林39号	東北56号	1955	めん用	晩	無	白	強	中
7 サキユコムギ	農林91号	東北91号	農林33号	農林27号	1956	めん用	晩	有	白	強	弱
8 フルツマサリ	農林94号	東北105号	東北78号	農林39号	1956	めん用	晩	無	白	中	中
9 キタカミコムギ	農林97号	東北110号	東北101号	東北83号	1959	めん用	晩	有	白	やや弱	中
10 シモフサコムギ	農林101号	東北108号	東北79号 (アオバコムギ)	北関東44号	1963	めん用	中	無	白	やや弱	中
11 ミヤギノコムギ	農林102号	東北117号	東北106号	農林10号	1964	めん用	早	有	白	中	やや弱
12 ハチマンコムギ	農林113号	東北122号	東北108号	農林27号	1973	パン用	中	無	白	中	やや強
13 ハナガサコムギ	農林116号	東北126号	北陸46号	(HopexTimstein) ×農林58号	1974	めん用	中	無	白	中	強
14 ワカマツコムギ	農林127号	東北143号	キタカミコムギ	東北126号 (ハカガサコムギ)	1982	めん用	晩	有	白	中	強
15 コユキコムギ	農林133号	東北167号	東北126号 (ハカガサコムギ)	ユキチヤボ	1988	パン用	中	有	白	中	弱
16 あきたっこ	農林137号	東北183号	ワカマツコムギ	東北144号	1992	めん用	中	有	白	中	やや弱
17 はつもち	—	東北糯210号	関東107号	白火	1998	ブレンド	早	有	白	やや弱	中
18 もち乙女	—	東北糯211号	関東107号	白火	1998	ブレンド	極早	有	白	弱	やや弱
19 ネバリゴシ	農林152号	東北206号	関東107号	チホコムギ	2000	めん用	やや早	無	白	中	強
20 ハルイブキ	農林153号	東北205号	Stozher	東北195号	2001	パン用	中	有	白	中	強
21 ゆきちから	農林157号	東北214号	東北141号	さび系23号	2002	パン用	やや早	無	白	強	強
22 もち姫	農林糯166号	東北糯217号	はつもち	(もち盛系C-G1517 ×ハルイブキ)F1	2006	菓子・ ブレンド用	やや早	有	白	やや弱	やや強
23 銀河のちから	—	東北223号	東北209号	ハルイブキ	2014	パン用・め ん用	やや早	有	白	中	中
24 ゆきはるか	—	東北224号	キヌヒメ	きぬあずま	2014	菓子用	やや早	有	白	中	やや強
25 こしちから	—	東北225号	東北209号	ハルイブキ	—	パン用・め ん用	やや早	有	白	中	中

注 「はつもち」「もち乙女」の登録年次は、品種登録（種苗法）の年次である。

大豆

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	成熟期	花色	葉 形	病虫害抵抗性	
			母	父					センチュウ	SMV
1	ワセシロゲ	た系 16 号	白毛 9 号	た系 6 号	1956	早の晩	紫	円	弱	AB
2	ハツカリ	東北 1 号	大白 1 号	奥羽 13 号	1959	中の早	紫	円	弱	AB
3	ネマシラズ	東北 6 号	白蔬太	下田不知の純系分離	1961	晩	紫	円	強	AB
4	ムツメシロ	東北 16 号	白蔬太	本育 65 号	1965	早の晩	紫	円	弱	(A)(B)
5	ライデン	東北 27 号	農林 4 号	ネマシラズに γ 線照射	1966	中の早	紫	円	強	AB
6	ムツシラタマ	東北 13 号	白蔬太	白鶴の子	1967	中	白	円	弱	弱
7	ワセシロメ	東北 17 号	農林 4 号	本育 65 号	1967	早の晩	紫	円	弱	AB
8	ライシロメ	東北 28 号	農林 4 号	ネマシラズに γ 線照射	1969	中	紫	円	強	AB
9	オクシロメ	東北 35 号	東北 6 号	南郡竹館	1972	中の晩	紫	円	強	AB
10	カルマイ	東北 32 号	東北 6 号	山白玉	1973	中の早	紫	円	強	弱
11	ナンブシロメ	東北 40 号	ライデン	北見長葉 (白臍)	1977	中	紫	長	強	AB
12	デワムスメ	東北 45 号	ネマシラズ	Harosoy	1977	中	紫	円	強	ABCD
13	スズユタカ	東北 65 号	刈系 52 号	東北 35 号 (オクシロメ)	1982	中の晩	紫	円	強	ABCD
14	タチコガネ	東北 61 号	関東 53 号 (シロセンナリ)	東北 35 号 (オクシロメ)	1983	中の早	紫	円	強	AB
15	ワセズナリ	東北 70 号	コケシジロ	オクシロメに γ 線照射	1983	早	紫	円	強	AB
16	ワシロメ	東北 41 号	ユウヅル	刈系 36F7	1985	早の晩	紫	円	強	AB
17	スズカリ	東北 69 号	房成	オクシロメ	1985	中	紫	円	強	AB
18	タチユタカ	東北 80 号	納豆小粒に γ 線照射	刈系 92 号	1987	中の晩	紫	円	弱	ABCD
19	コスズ	東北 85 号	東北 52 号	刈系 102 号	1987	中	紫	円	弱	AB
20	トモユタカ	東北 92 号	スズユタカ	刈系 221 号 (コスズ)	1990	中の早	紫	円	強	ABC
21	リュウホウ	東北 113 号	刈系 244 号	刈系 343F7	1995	中の早	紫	円	強	AB
22	鈴の音	東北 115 号	刈系 296F6	刈系 237 号	1995	早の晩	紫	円	弱	AB
23	おおすず	東北 112 号	刈系 296F6	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
24	たまうらら	東北 118 号	スズユタカ	エンレイ	1999	中の早	紫	円	弱	AB
25	ハタユタカ	東北 128 号	スズユタカ	刈系 434 号に γ 線照射	1999	晩の早	紫	円	強	AB
26	ゆめみのり	東北 124 号	東北 96 号	デワムスメ	2001	中の晩	紫	円	強	ABCD
27	ふくいぶき	東北 126 号	赤青 D165	タチユタカ	2002	中の晩	紫	円	弱	ABCD
28	青丸くん	東北 141 号	スズユタカ	九交 335F2(γ)-M4	2002	中の早	紫	円	強	ABCD
29	すずさやか	東北 135 号	刈系 778F5	コスズ	2003	中の晩	紫	円	弱	CD
30	すずかおり	東北 148 号	刈系 508 号	刈系 0459F1	2004	中	紫	円	強	ABCD
31	きぬさやか	東北 151 号	刈系 778F5	コスズ	2005	晩の早	白	卵形	弱	ABCD
32	すずほのか	東北 146 号	東北 129 号	刈系 0264MYF6	2007	やや	白	三角形	弱	ABCD
33	里のほえみ	東北 160 号	フクシロメ	刈系 623 号	2009	晩	白	鋭先卵形	弱	ABCD
34	あきみやび	東北 164 号	東北 143 号	刈系 675 号	2015	中	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
35	シユウリュウ	東北 166 号	東北 156 号	ふくいぶき	2015	やや	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
36	はたむすめ	東北 171 号	東北 156 号	ふくいぶき	-	やや	紫	鋭先卵形	強	ABCD

注 1. 病虫害抵抗性: SMV はダイズモザイクウイルスであり、A、B、C、D はウイルスの系統別抵抗性を示す。

大麦 (皮麦)

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐寒雪性	精麦適性	病害抵抗性 うどんこ病
			母	父							
1 ミユキオオムギ	農林24号	東北皮14号	はがねむぎ	北陸皮26号	1975	精麦用	中	強	中	中	中
2 シンジュボシ	農林36号	東北皮34号	東北皮30号	シュンライ	2002	精麦用	やや早	やや強	大	中	中
3 小春二条	-	東北皮38号	(ニシノゴールド×ミユキオオムギ) F1	ミナルゴールド	2008	醸造用等	中	やや多	やや大	中	中

注 「小春二条」の登録年次は、品種登録の年次である。

そば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	用 途	育成日数	耐倒伏性	播種期	収量性	千粒重
1 にじゆたか	-	東北1号	葛生在来と戸隠在来(秋)を相互交配・集団採種し、個体別系統から選抜	2014	めん用	やや短	強～極強	夏播き用	中	大

はとむぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	成熟期	草 丈	収量性	粒 重	葉枯病
			母	父							
1 はとむすめ	農林1号	奥羽2号	「岡山在来」	「線照射突然変異」	1992	飲用等	中	中	多	中の軽	中
2 はとひかり	農林2号	奥羽3号	「岡山在来」	「線照射突然変異」	1995	飲用等	中の晩	中	中の多	中の重	中
3 はとじろう	農林3号	東北2号	「黒石在来」	より純系分離	1995	飲用等	早	短	中の少	中の重	中
4 はとゆたか	農林4号	東北3号	東北1号	奥羽4号	2004	飲用等	中の早	短	多	中の重	やや弱
5 はときさら	-	東北4号	東北1号	オホーツク1号	2013	飲用等	極早	極短	中	中	やや弱

な た ね

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐倒伏性	エルシンの有無	菌核病抵抗性
			母	父							
1 トワダナタネ	農林 44 号	東北 67 号	東北 41 号 (アサヒナタネ)	MR 1 号	1973	搾油用	中の晩	多	やや弱	有	やや弱
2 カミキタナタネ	農林 45 号	東北 77 号	東北 67 号 (アサヒナタネ)	ミホナタネ	1986	搾油用	中の晩	やや多	強	有	強
3 アサカノナタネ	農林 46 号	東北 82 号	チサヤナタネ	Z. E. N	1990	搾油用	中の早	やや多	やや弱	無	弱
4 キザキノナタネ	農林 47 号	東北 84 号	東北 72 号	Rapora	1990	搾油用	中の晩	多	強	無	強
5 キラリボシ	農林 48 号	東北 90 号	盛系 188	KARAT	2002	搾油用	中	多	やや強	無	やや強
6 ななしきぶ	農林 49 号	東北 91 号	盛脂 148	オオミナタネ	2002	搾油用	中の晩	多	強	無	やや強
7 菜々みどり	-	東北 89 号	キザキノナタネ	カミキタナタネ	2004	搾油・野菜用	中の晩	多	強	無	強
8 キタノキラメキ	-	東北 97 号	キザキノナタネ	Onyx	2014	搾油用	晩	多	強	無	やや強
9 ななはるか	-	東北 96 号	チサヤナタネ	盛脂 148	-	搾油用	中の早	中	やや強	無	中

な ば な

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	表皮のロウ質	根こぶ病抵抗性
			母	父							
1 はるの輝	農林 1 号	盛系 234 号	トワダナタネ	トワダナタネの突然変異	1994	野菜用	晩	中	極良	無	無

ト マ ト

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	熟期	草姿	果実の特性		
			母	父					形	大きさ	色
1 みのり	農林 3 号	東北 4 号	Pritchard	Victor	1957	加工用	早	心止り	扁球	大	赤
2 KGM 051	-	KC02-115	とまと中間母 本農 10 号	PK341	2008	生食用	やや晩	普通	腰高球	やや大	濃赤
3 すずこま	-	盛平 1 号	A-33-129-91	Piline	2013	加工用	極早	心止り	腰高球	やや中	赤

はくさい

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	品 種	熟 期	輸 送 貯蔵性	球の特性		
			母	父					形	大きさ	
1 あさひ	農林1号	東北4号	千葉1号	花心	1957	長	早	低	丸~砲弾型	中	やや浅
2 みちのく	農林2号	東北5号	白色包頭連	松島2号	1957	長	中の早	良	砲弾型	やや大	やや浅

ねぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	品 質 特 性		形 態 的 特 性		
			母	父			葉身部	辛味	草丈	葉身分枝の縮まり	分けつ発生頻度
1 TAM-1	-	TAM-1	元蔵×他4種		-	F1播種用	軟	少	やや短	優	低

いちご

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	収 穫 期	収 量 性	食 味	果 実 硬 度	病 害 抵 抗 性
			母	父							
1 なつあかり	農林21号	盛岡29号	サマーベリー	北の輝	2004	生食用	四季成り性	中	四季成り性 品種の中で良 ~極良	やや軟	うどんこ病 に中
2 デコルージュ	農林22号	盛岡31号	Pajaro	盛岡26号	2004	ケーキ用	四季成り性	中~多	四季成り性 品種の中で良	硬	うどんこ病 に強
3 豊雪姫	-	盛岡35号	盛岡32号	カレンベリー	2014	生食用・ ケーキ用	一季成り性	多	良	中	炭疽病に強

し ば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 チバラフワン	-	愛媛 41-5 号	しば在来 42 系統よりラージパッチ耐病性、初冬季緑色保特性選抜試験を経て 1 系統を選抜	2003	冬枯れの開始が遅く、初冬季の緑度保持力が高い	ラージパッチに対する抵抗性

注 1. 「チバラフワン」は、千葉県との共同育成品種である。

しろくローバ

品 種 名	登録番号	旧系統名	合 成 母 材 名	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 キタオオハ	農林 1 号	東北 1 号	Oregon Lasino, Italy Ladino, 東北農試在来より選抜した 6 栄養系により合成	1971	国産初の大葉型品種で採草用、瘦地での生産性良好	モザイク病、汚斑病に抵抗性
2 マキバシロ	農林 2 号	東北 9 号	Tregor (F), Pertina (NL), 5849 (Aus) より選抜した 8 栄養系により合成	1980	中葉型でやや大葡萄系の伸長が大放牧採草適性良好	褐斑病、そばかす病等に抵抗性
3 ミネオオハ	農林 4 号	東北 15 号	海外育成 50 品種より選抜した 32 栄養系により合成 外国産 6 品種を母体に合成	1989	大葉型で永続性、オーチャードグラスとの混播性、窒素耐性に優れる	菌核病抵抗性
4 ノースホワイト	農林 5 号	東北 21 号	USDA より導入した PI223824 (AFG)、228367 (IR)、234264 (IRQ)、245124 (USA)、250996 (YUG)、253322 (YUG)、287989 (SPN)、300157 (SAF) より選抜した 50 栄養系により合成	1994	国産初の小葉型で放牧専用、チモシーとの混播、適性、永続性に優れる	

桑

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	系統型	先枯れ	収葉量	密植適合性	病害抵抗性 (縮葉細菌病性)
			母	父						
1 みつしげり	桑農林10号	東61-03	N0.71	改良単返	1988	ヤマグワ系	少ない	良質多収	良好	やや強

フェストロリウム

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 東北1号	-	東北1号	フェストロリウム既存3品種1299個体から集団及び母系選抜法によって選抜した13系統の多交配による	2012	草丈が高く、採草に向く多収系統。耐湿性に優れ、寒冷地の転作田等での栽培にも適する。	冠さび病に抵抗性
2 イカロス	-	盛系1号	フェストロリウム既存品種1651個体から集団選抜法によって選抜した7系統の多交配による	2014	茎数が多く、寒冷地の草地や畑での採草または放牧利用に適する。	冠さび病、雪腐病(褐色小粒菌核)に抵抗性

3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数

作物名	平成 26 年度		平成 26 年度末 保存数	平成 26 年度		備考
	受け入れ	移管		再増殖	配布	
水 稲	0	0	889	50	0	受入：— 配布：—
小 麦	0	0	143	0	0	受入：— 配布：—
大 麦	0	0	59	0	0	受入：— 配布：—
大 豆	11	11	353	116	0	受入：— 配布：—
エ ゴ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ナ タ ネ	10	10	0	10	5	受入：— 配布：—
ハ ト ム ギ	0	0	0	3	0	受入：— 配布：—
ア ワ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ル タ バ ガ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ツケナ(ナタネ類)	22	4	0	10	0	受入：— 配布：—
カ ブ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ユ ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
シ コ ク ビ エ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ビ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ジ ユ ズ ダ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ピ ー マ ン	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ク イ モ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ ウ メ ン ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ バ	0	0	0	2	2	受入：— 配布：—
ナ ス	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
水 菜	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
サ サ ゲ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
カ ン シ ョ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
金 時 草	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ホ ウ レ ン ソ ウ	0	0	601	10	0	受入：— 配布：—

作物名	平成 26 年度		平成 26 年度末 保 存 数	平成 26 年度		備 考
	受け入れ	移 管		再増殖	配 布	
ト マ ト	0	0	1,847	0	0	受入：— 配布：—
イ チ ゴ	9	0	402	60	8	受入：9 配布：10
イタリアンライグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
ペレニアルライグラス	0	0	36	0	0	受入：— 配布：—
ハイブリッドライグラス	0	0	37	0	0	受入：— 配布：—
オーチャードグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
リードカナリーグラス(くさよし)	0	0	96	0	0	受入：— 配布：—
ウシノケグサ類	0	0	6	0	0	受入：— 配布：—
しば	0	0	67	0	0	受入：— 配布：—
ススキ属	24	0	73	0	0	受入：— 配布：—
合 計	76	25	4,637	261	15	受入：9 配布：10

4. 広 報 活 動

1) 所刊行物

平成 26 年度に出版した刊行物（会議資料は除く）は、次のとおりである。なお、研究報告等に収録された論文題名は「1. 研究成果の発表」に掲載してある。

(1) 研究報告、ニュース、年報等

誌 名 (巻 号)	印 刷 数
東北農業研究センターたよりNo. 43	2,700
東北農業研究センターたよりNo. 44	2,700
東北農業研究センターたよりNo. 45	2,700
東北農業研究センター研究報告No. 117	850
東北農研大規模圃場開田 50 周年記念セミナー記念誌	200
東北農業研究センター農業経営研究第 32 号	550

(2) 広報誌（要覧、パンフレット等）

誌 名	印 刷 数
東北農業研究センター要覧（改訂版）	6,000
東北農業研究センター大仙研究拠点要覧	1,000
平成 26 年度東北地域マッチングフォーラム講演要旨集	400
クッキングトマト・レシピ集	4,000
東北農業研究センターで育成した品種パンフレット	2,000
入手先リスト	2,000
GoogleMap 農作物警戒情報リーフレット	10,000
寒くても牛イキイキ 屋外飼養でラクラク増頭！	1,500
品種紹介リーフレット いもち病に強く、美味しい直播栽培向き水稻「えみのあき」	5,000
品種紹介リーフレット 多収で、美味しい直播栽培向き水稻「ちほみのり」	5,000
品種紹介リーフレット やわらかく、しっとり、もっちりとしたパンができます 米粉パン用水稻「ゆめふわり」	5,000
品種紹介リーフレット 倒れにくく、いもち病に強いモチ品種「ときめきもち」	5,000
品種紹介リーフレット 飼料用米「いわいだわら」	5,000
品種紹介リーフレット 東北地域で早生・多収 稲発酵粗飼料用稲「べこげんき」	5,000
品種紹介リーフレット ダイズモザイク病に強い大粒の豆腐用大豆「シュウリュウ」	5,000
品種紹介リーフレット 病虫害に強く、しわ粒が少ない中粒の豆腐用大豆「はたむすめ」	5,000

誌 名	印刷数
品種紹介リーフレット 食用油に適する暖地向きナタネ「ななはるか」	1,000
「萌えみのり」の鉄コーティング直播栽培マニュアル (ver1.3)	500
乾田直播栽培技術マニュアル (Ver. 2.3) ープラウ耕・グレーンドリル播種体系ー	1,000
ウリ科野菜ホモブシス根腐病被害回避マニュアル 追補版	1,500
転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核とした 土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術ー研究成果集ー	1,000
休閑期に大豆緑肥を用いる小麦栽培技術マニュアル	1,000

2) 視察者・見学者の受入（一般公開は除く）

区 分	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関 (大学等)	民間	海外	その他
件数	53	29	24	4	18	46	26	7	0
人数	777	285	1,176	15	73	450	71	71	0

3) 催事（一般公開、イベント、体験学習等）及び協力

(1) 研究所一般公開

公 開 名	開催日	開催場所	参加者数
一般公開 「東北の水稲・大豆研究の最前線」	H26. 8. 30	東北農研大仙研究拠点	322
公開デー 「来て！見て！体感！東北農研」	H26. 9. 6	東北農研本所	1,448

(2) イベント

イ ベ ン ト 名	開催日	開催場所	参加者数
菜の花公開	H26. 5. 17 ～ 5. 18	東北農研本所	3,984

(3) 科学技術離れ対策の協力状況

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
総合的な学習にかか る農作業体験学習	盛岡市立北厨川 小学校	3 学年児童に当所育成品種の 3 種類の作物について、播種、 苗付けから生育観察、収穫ま での体験を実施。	H26. 5 ～ H26. 10 の期間で 5 日間	東北農研本所	延べ 205
農業実習関係研 修	岩手県立花巻農 業高校	学校で実施しているイネ栽培 の実習に関連した、斑点米カ メムシ類の生態と防除対策に ついて、講義研修を実施。	H26. 6. 3	東北農研本所	8

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
職場体験学習	盛岡市立北陵中学校	総合的な学習の職場体験学習として、2年生を受け入れ、畜産研究補助業務について、作業体験を実施。	H26. 7. 3	東北農研本所	5
田んぼの科学教室	大仙研究拠点	大仙市内の小学校（5年生）を対象に、水田を中心とした作物（稲及び大豆）の育成について講義と実習を実施。	H26. 7. 4 ～ 7. 5	大仙研究拠点	192
職場体験学習	滝沢市立滝沢第二中学校	総合的な学習の職場体験学習として、1年生を受け入れ、畜産研究補助業務及び牧草育種関係業務について、作業体験を実施。	H26. 7. 10	東北農研本所	12
サマーサイエンスキャンプ 2014	（独）科学技術振興機構	2泊3日のカリキュラムで高校生を受け入れ、研究者が各テーマに沿った講義・指導、実習、実験の体験を実施。	H26. 8. 5 ～ 8. 7	東北農研本所	9
職場体験学習	盛岡市立黒石野中学校	総合的な学習の職場体験学習として、2年生を受け入れ、土壌肥料研究関係業務について、作業体験を実施。	H26. 8. 22	東北農研本所	1
職場体験学習	盛岡市立仙北中学校	総合的な学習の職場体験学習として、2年生を受け入れ、病害研究関係業務について、作業体験を実施。	H26. 9. 11	東北農研本所	3
ひらめき☆ときめきサイエンス「植物の光合成明反応（電子伝達）を測ってみよう」	（独）日本学術振興会	研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、高校生を対象に、研究体験を通じて、科学研究への興味を深めるプログラムを実施。	H26. 9. 20	東北農研本所	17
総合学習	盛岡市立生出小学校	総合的な学習の調査活動として、6年生を受け入れ、トマトを始めとする作物の栽培等について、説明や質疑等を実施。	H26. 10. 3	東北農研本所	5
職場体験学習	滝沢市立滝沢中学校	総合的な学習の職場体験学習として、2年生を受け入れ、牧草育種及び小麦育種研究関係業務について、作業体験を実施。	H26. 10. 21 ～ 10. 23	東北農研本所	2
施設見学	岩手県立花巻農業高校	生物科学科1学年生徒を対象に事業概要の説明並びに圃場見学を実施。	H26. 11. 27	東北農研本所	42

(4) 科学技術離れ対策以外のイベントへの協力及び参画

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
第3回ベーカリー素材 EXPO	パティスリー&ブーランジェリージャパン実行委員会、日本イージェイケー(株)	パンに関するあらゆる原材料・食材・製造技術が一堂に集まるベーカリーに特化した専門展示会。ベーカリー業界の更なる発展の一役を担う展示会として開催。	H26. 6. 18 ～ 6. 20	東京国際展示場 (東京都江東区)
秋田県立大学大潟キャンパスフィールド教育センター開放デー	秋田県立大学フィールド教育センター	大潟キャンパスフィールド教育センターの取り組み等を地域住民等に広く紹介するイベントとして開催。	H26. 6. 28	秋田県立大学大潟キャンパスフィールド教育センター (秋田県大潟村)
第69回岩手県全国農業機械実演展示会	(社)岩手県農業機械協会	全国農業機械メーカーの最新農業機械を一堂に展示実演し、安全安心な農畜産物の低コスト生産技術・知識を広く情報発信し、農業経営の向上安定を期するとともに、岩手県農業の持続的発展に寄与することを目的に開催。	H26. 8. 22 ～ 8. 24	岩手県産業文化センター・アビオ (岩手県滝沢市)
食のブランドニッポンフェア2014「食のセミナー in 丸の内タニタ食堂」	農研機構	農研機構の研究成果や開発食材の普及のため、百貨店等を利用し、開発食材の紹介や試食、食材を利用したメニューの提供を行い、農研機構の知名度アップを図るため開催。	H26. 9. 2	丸の内タニタ食堂 (東京都千代田区)
第9回福島県農業総合センターまつり	福島県農業総合センター	福島県農業総合センターにおける研究や、その成果を地域住民等に広く紹介するイベントとして開催。今年度は4年ぶりに本部、畜産研、果樹研の全機関で開催。	H26. 9. 12 ～ 9. 13	福島県農業総合センター (福島県郡山市)
第10回大仙市秋の稔りフェア	秋田県大仙市	秋田県大仙市地域における、秋の稔りへの感謝と市民の地域農業への理解を求めるところを趣旨に開催。	H26. 10. 25 ～ 10. 26	大仙市武道館ほか (秋田県大仙市)
第137回秋田県種苗交換会	秋田県農業協同組合中央会	1878年(明治11年)から続いている秋田県で最大の農業関係イベント。種子交換はもとより、農業に関連する様々な展示、販売等を秋田県内各市を毎年周り、1週間の会期で開催。	H26. 10. 30 ～ 11. 05	男鹿市総合体育館ほか 男鹿市内数箇所 (秋田県男鹿市)
第9回ビジネスマッチ東北2014	(社)東北ニュービジネス協議会／(社)東北地区信用金庫協会／(社)東北経済連合会／東経連ビジネスセンター	東北市場におけるビジネスマッチングの創出を目的として「情報・IT」「電気・機械」「環境・くらし」「ニュービジネス」「健康・福祉・スポーツ」「防災・減災」「観光」「学術機関」「企画出展」「食と農」の異ジャンルによる展示商談会として開催。	H26. 11. 6	夢メッセみやぎ (宮城県仙台市)

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
アグリビジネス創出フェア 2014	農林水産省	農林水産・食品産業分野における研究機関、大学等の高い技術シーズや研究開発及びその成果の実用化を支援する制度など、新たなアグリビジネスの創出として開催。	H26. 11. 12 ～ 11. 14	東京国際展示場（東京都江東区）
リエゾン－I マッチングフェア 2014	いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）	企業のニーズと大学等研究機関の研究シーズとのマッチングを行うため、研究者と企業担当者との個別相談会として開催。	H26. 11. 17	コラボ MIU・盛岡市産学官連携研究センター（岩手県盛岡市）

4) シンポジウム・セミナー（主催又は共催）

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
小麦の新品種候補「東北 228 号」の実需者評価に向けた現地実証試験現地検討会	H26. 6. 17 ～ 6. 18	青森県五所川原市及びつがる市、岩手県紫波町の現地圃場	21
東北ソバフォーラム	H26. 6. 25	羽後町多目的研修集会施設（秋田県羽後町）	138
東北地域における予防的イノシシ・ニホンジカ被害対策に向けた研究会	H26. 6. 30	東北農政局	14
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度現地検討会	H26. 7. 2 ～ 7. 3	名取市現地ほ場及び東京エレクトロンホール宮城（仙台市）	148
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度現地検討会	H26. 7. 15	陸前高田市現地ほ場及び岩手県農業研究センター	52
第 57 回東北農業試験研究発表会	H26. 7. 30	仙台市民会館（仙台市）	245
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度現地検討会	H26. 8. 4 ～ 8. 5	鶴岡市現地ほ場、山形農業総合研究センター及び東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市）	84
「大潟村重粘土排水不良田における地下水位制御システムを用いた水稲乾田直播・大豆輪作体系」検討会	H26. 8. 26 ～ 8. 29	ホテルサンルーラル大潟（秋田県大潟村）	65
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」土地利用型営農技術に係る先端技術普及促進現地検討会	H26. 9. 4	名取市現地ほ場及び宮城県農業・園芸総合研究所	148
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」キャベツの機械化一貫体系実証研究現地検討会	H26. 11. 21	岩沼市現地ほ場及び宮城県農業・園芸総合研究所	93

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
平成 26 年度東北地域マッチングフォーラム「飼料用米給与が畜産物に与えるメリット」	H26. 11. 26	ホテルメトロポリタン盛岡本館（盛岡市）	211
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」研究成果発表会	H26. 12. 16	盛岡市民文化ホール（盛岡市）	118
水田作の大規模化に対応した土壌肥沃土の診断システムおよび同管理技術の高効率化に関するテーブルリサーチ	H27. 1. 29	東北農業研究センター（盛岡市）	30
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度現地成果報告会（青森県）	H27. 2. 12 ～ 2. 13	水軍の宿（青森県鱒ヶ沢町）	23
小麦新品種「銀河のちから」の試食検討会	H27. 2. 19	岩手県工業技術センター（盛岡市）	85
麺用有望系統「東北 228 号」の試食検討会	H27. 2. 19	岩手県工業技術センター（盛岡市）	59
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度現地成果報告会（秋田県）	H27. 2. 23	秋田県山本地域振興局（能代市）	62
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」研究成果報告会	H27. 2. 23 ～ 2. 24	いわて県民情報交流センター（アイーナ）	183
東北ソバ研究会	H27. 2. 25	仙台合同庁舎（仙台市）	62
平成 26 年度 東北地域向け大豆品種「シュウリュウ」の広域的普及促進のための現地実証試験における技術情報交換会	H27. 2. 27	岩手県農業研究センター（北上市）	62
東北地域における鳥獣害問題対応課題立案に向けた研究会	H27. 2. 27	TKP 仙台カンファレンスセンター（仙台市）	24
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度現地成果報告会（山形県）	H27. 3. 3	山形県農業総合研究センター水田農業試験場（鶴岡市）	44
岩手県沿岸地域におけるショウガの産地化に向けた技術講習会・テーブルリサーチ	H27. 3. 6	陸前高田市総合営農支援センター（陸前高田市）	23
平成 26 年度ナタネセミナー（暖地における新品種、栽培技術によるナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会）	H27. 3. 10	かのや大黒グランドホテル（鹿屋市）	74

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
平成 26 年度第 1 回東北農研セミナー	H26. 8. 19	いわて県民情報交流センター（アイーナ）	10
平成 26 年度第 2 回東北農研セミナー	H26. 9. 9	東北農業研究センター（盛岡市）	26
平成 26 年度第 3 回東北農研セミナー	H26. 9. 18	東北農業研究センター（盛岡市）	63
平成 26 年度第 4 回東北農研セミナー	H26. 10. 7	東北農業研究センター（盛岡市）	30
平成 26 年度第 5 回東北農研セミナー（特別セミナー）	H26. 12. 2	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	35

5. 図書資料収集・文献提供等

◎収書数

平成26年度に収集した図書・資料は以下のとおりである。

	単行書(冊)							資料(冊)			
	和書			洋書			合計	和書			
	購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	
本所(厨川)	34	103	137	0	3	3	140	3	87	90	
(鍋屋敷)	0	1	1	2	0	2	3	0	0	0	
大仙研究拠点	0	3	3	0	0	0	3	0	2	2	
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福島研究拠点	32	1	33	0	0	0	33	3	74	77	
合計	66	108	174	2	3	5	179	6	163	169	
	資料(冊)				逐次刊行物(誌)						合計
	洋書			合計	和書			洋書			
	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計	
本所(厨川)	0	0	0	90	96	473	569	75	33	108	677
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	2	21	123	144	1	1	2	146
(刈和野)	0	0	0	0	9	10	19	0	1	1	20
福島研究拠点	0	6	6	83	33	20	53	0	2	2	55
合計	0	6	6	175	159	626	785	76	37	113	898

管理換え等による収集数・除籍数

	収書数					除籍数				
	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料
本所(厨川)	0	0	0	0	0	377	4	727	1,108	0
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	377	4	727	1,108	0

注：視聴覚資料はマイクロフィルム(ロール、フィッシュ)や映像テープをさす。

◎蔵書数

平成 26 年度末の蔵書数は以下のとおりである。

	単行書(冊)			資料(冊)			単行書・資料合計(冊)	
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書計	洋書計
本所(厨川)	21,817	3,386	25,203	27,061	1,199	28,260	48,878	4,585
(鍋屋敷)	1,380	422	1,802	7,465	1,657	9,122	8,845	2,079
大仙研究拠点	3,249	6,130	9,379	6,675	211	6,886	9,924	6,341
(刈和野)	1,050	170	1,220	1,014	14	1,028	2,064	184
福島研究拠点	4,157	737	4,894	11,234	225	11,459	15,391	962
合計	31,653	10,845	42,498	53,449	3,306	56,755	85,102	14,151
		逐次刊行物(誌)			視聴覚資料等			
	合計	和書	洋書	計	ロールフィルム	フィッシュ・フィルム	映像テープ	その他
本所(厨川)	53,463	5,224	1,342	6,566	104	9,243	60	225
(鍋屋敷)	10,924	340	18	358	0	0	0	0
大仙研究拠点	16,265	670	162	832	0	0	0	0
(刈和野)	2,248	20	2	22	0	0	0	0
福島研究拠点	16,353	3,944	1,414	5,358	0	0	0	0
合計	99,253	10,198	2,938	13,136	104	9,243	60	225

◎サービス

平成 26 年度に情報広報課(厨川)及び隔地図書室で行ったサービスは以下のとおりである。

	貸出 冊数	コンテンツ・サービス		文献複写サービス					
		誌数	延べサービス 研究室数	外部への複写依頼件数			外部からの複写依頼件数		
				農水関係 機関	外部機関	合計	農水関係 機関	外部機関	合計
本所(厨川)	224	8	60	142	56	198	93	27	120
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	76	0	0	23	0	23	2	0	2
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	300	8	60	165	56	221	95	27	122

Ⅲ 連携・研修・技術協力

Ⅲ 連携・研修・技術協力

1. 産学官の連携・協力

1) 産学官連携支援活動

平成19年4月1日に発足した「産学官連携支援センター」では、①新品種や新技術等の研究成果を農業者や農業団体、企業等の実需者にPRするとともに、その普及・定着を図ること、②東北農研の保有する研究能力や研究成果を活用した共同研究や共同開発を支援すること、の2つを主な業務として活動している。

(1) 出前技術指導

平成20年度に発足した出前技術指導制度は、東北農研が研究開発した栽培技術、品種、機械等の技術指導を、研究担当者が農業者、農業団体、企業等の要請に応じて現地に出向き行うものである。平成26年度に実施した技術指導の内容は、「小麦『ゆきちから』の高品質多収栽培栽培技術」、「飼料米専用品種の栽培技術」、「ウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除技術」、「直播栽培技術とマーケティング戦略」、「四季成り性品種『なつあかり』の当年苗栽培」など多様であり、実施回数は延べ19回を数えた。

(2) テーブルリサーチ、ミニテーブルリサーチ

農食事業などの競争的資金を活用した産学官連携によるプロジェクト研究、あるいは先端プロなどの大型の現地実証事業について、東北農研が中核機関として企画し提案することを目指し開催している。「テーブルリサーチ」では、構想されている技術開発の必要性や研究計画の妥当性について、関係する研究者、有識者を広く集めて素案段階で検討し、「ミニテーブルリサーチ」では、おおむね固まった素案について研究者グループが具体的な研究計画や申請書案を検討する。

平成26年度は、1月29日に「水田作の大規模

化に対応した土壌肥沃度の診断システムおよび同管理技術の高能率化に関するテーブルリサーチ」、3月6日に「岩手県沿岸地域におけるショウガの産地化に向けた技術講習会・テーブルリサーチ」を開催した。これらの課題化検討をふまえ、後者については事業者を主たる助成対象とする競争的外部資金（平成27年度公益財団法人さんりく基金助成事業）に応募した結果、採択された。

(3) いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）

本協議会の目的は、研究機関会員のシーズと岩手県内企業等のニーズとをマッチングさせることにより、新たなビジネスの創出を図り新産業育成や地域雇用の創出に努めるとともに、研究機関会員の各種研究成果のビジネス化に向けた支援及び外部資金調達の支援を行うことにある。11月17日に盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）で開催されたいわて産学官連携フォーラム（リエゾン-I マッチングフェア2014）には、近年の研究成果として「土壌伝染病の発生抑制効果を付与する育苗法」、「定植前リン酸苗施用によるネギのリン酸減肥栽培技術」、「牛の行動や姿勢を咀嚼計と加速度計で判別するプログラム」、新品種「銀河のちから」「シュウリュウ」を出展した。

2) 行政との連携・協力

(1) 東北地域研究・普及連絡会議

本会議は19年度に創設された。26年度は10月29日に福島県農業総合センターで開催され、①農林水産技術会議事務局及び生産局技術普及課関連の予算要求、②国の施策で対応すべき技術的課題候補の選定、③農業新技術2015候補の選定、④研究機関と普及組織の連携、⑤鳥獣害対策について意見交換が行われた。②では東北農業試験研究推進会議を通じて各機関より提出された91課

題、③では同じく 4 課題が了承され、研究推進課に提出されることとなった。④では、農業新技術 200X の普及展開方法について、それぞれ意見交換があった。翌日 30 日には、食料生産地域再生のための先端技術展開事業のエネルギー実証プラント（川俣町）の現地視察を行った。

(2) 東北農業新技術実用化促進プロジェクト

(1.5 年プロ) 対応

本プロジェクトは、東北地域内外の試験研究機関で開発された技術のうち、東北地域内の県域を越えた相当範囲への速やかな導入が期待できる技術を対象として、現地での実証試験等により短期間で検証・評価することを目的として平成 17 年当時の東北農政局生産経営流通部農産課と東北農研センターが共同で行研連事務局を立ち上げて運営してきた。しかし、24 年度以降は未実施となっている。本プロジェクトには予算の裏付けが無く、一部の技術シーズについては先端プロや革新プロの大型現地実証事業の中で課題化されているため、25 年度からは東北地域研究・普及連絡会議でも議題として取り上げられていない。

(3) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会対応

役員（所長）、企画委員（企画管理部長）、運営協力（研究調整役）として活動に参画した。6 月 17 日に仙台市内で開催された企画委員会では 25 年度活動報告と 26 年度活動計画が審議された。また、7 月 9 日に TKP ガーデンシティ勾当台で開催された役員会・総会において、26 年度事業計画と予算案が承認された。

東北地域において農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化を推進するため、産学官連携共同研究検討会議を開催した。11 月 21 日と 12 月 18 日にいわて県民情報交流センター（盛岡市）において、1 月 19 日に東北農業研究センターにおいて、都合 3 回開催し、研究開

発推進委員（競争的資金への応募・採択経験の豊富な各種分野の研究者）、地域アドバイザー（独立行政法人・公設試験研究機関の研究者）等が、競争的資金に応募する共同研究課題について、課題提案者に対する指導・助言を行った。

3) 大学との連携・協力

連携大学院

農研機構は、産学官連携、協力の促進強化の中で連携大学院制度等を活用し、大学との一層の連携強化を図ることとしている。

東北農研では、平成 18 年度より岩手大学院連合農学研究科と「連携大学院協定」を締結し、大学院生への研究指導を行っている。平成 26 年度は、15 名の研究者が客員教授の発令を受け、大学院教育に参加した。

4) 共同研究・協定研究等の実施状況

分類	共同研究	協定研究	備考
	件数	件数	
国	1	0	
大 学	11	11	
地方公共団体	13	12	
民 間	13	9	
他 独 法	2	4	
そ の 他	2	4	
合 計	42	40	

5) 依頼分析等の実施状況

依頼分析・同定の件名	分析点数	依頼を受けた日	延べ日数
土壌可給態カリの分析	6点	H26. 3. 24	3日
オタネニンジンの元素分析	6点	H26. 4. 7	1日
カキのイメージングプレート分析	90点	H26. 4. 18	10日
水稲・玄米のイメージングプレート分析	59点	H26. 6. 9	7日
土壌交換性カリの分析	20点	H26. 7. 22	1日
発酵 TMR 中イソフラボン含量の分析	8点	H26. 8. 11	2日
海藻の元素分析	3点	H26. 8. 12	1日
水稲異常穂の鑑定	1点	H26. 8. 18	1日
採水及びラウンドロビン試験	1ton	H26. 8. 18	3日
水中の放射性 Cs モニタリング標準化に関する分析	6点	H26. 8. 20	1日
牧草のイメージングプレート分析	46点	H26. 8. 25	6日
小麦及び大麦の新品種等の品質評価	23点	H26. 9. 3	13日
土壌交換性カリの分析	4点	H26. 9. 4	1日
土壌粒径組成・粘土鉱物組成の分析	4点	H26. 9. 4	2日
土壌粒径組成・粘土鉱物組成の分析	4点	H26. 9. 12	2日
土壌交換性塩基・CEC の分析	4点	H26. 9. 12	2日
採水及びラウンドロビン試験	1.5ton	H26. 10. 27	5日
水中の放射性 Cs モニタリング標準化に関する分析	8点	H26. 10. 31	1日
たばこのイメージングプレート分析	24点	H26. 11. 11	3日
大豆ホールクロップサイレージの発酵品質及び飼料成分の分析	28点	H26. 11. 13	8日
不明雑草の同定	1点	H26. 11. 26	1日
土壌改良資材の鉱物組成の分析	3点	H26. 12. 14	1日
大気ダストのイメージングプレート分析	13点	H27. 2. 4	0.5日

6) 開放型研究施設の利用状況

1. 共同利用した施設一覧

共同利用した施設・機械等
温度勾配実験施設
機能性評価実験棟

2. 機構外部からの利用状況

利用者の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
他独法職員			0
大学等	897	5	902
公立試験研究機関		15	15
民間			0
その他	194		194
合計	1,091	20	1,111

3. 機構外部からの利用目的

利用目的の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
共同研究			0
協定研究	336		336
依頼研究員			0
研修・講習等	26	20	46
その他	729		729
合計	1,091	20	1,111

2. 研究者の受入れ等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

3) 研修・講習等

依頼研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

技術講習生

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岩手大学大学院 農学研究科	1	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 7 ~ H26. 4. 24
岩手大学農学部	4	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 7 ~ H26. 4. 24
岩手大学農学部	1	牛における胚生存性に関する指標の検索に関する研究	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 14 ~ H27. 3. 20
自営農業	1	牛の人工授精技術習得に関する研修	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 15 ~ H27. 3. 30
岐阜大学大学院 連合獣医学研究科	1	妊娠初期のホルモン動態と胚発育との関係	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 17 ~ H27. 3. 27
弘前大学大学院 農学生命科学研究科（中国）	1	肥育牛と殺解体および枝肉分割方法の技術習得	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 22 ~ H26. 4. 23
弘前大学農学生命科学部	3	肥育牛と殺解体および枝肉分割方法の技術習得	畜産飼料作研究領域	H26. 4. 22 ~ H26. 4. 23
岩手大学農学部	1	温度・CO ₂ 濃度上昇が大豆等に及ぼす影響解明	生産環境研究領域	H26. 8. 4 ~ H26. 8. 29
宮城大学食産業学部	2	家畜の快適性の評価	畜産飼料作研究領域	H26. 8. 18 ~ H26. 8. 22

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
熊本県農業研究センター草地畜産研究所	1	牛肉の脂質酸化に関する分析	畜産飼料作研究領域	H26. 8. 18 ~ H26. 8. 29
東洋大学生命科学部	1	作物病害防除及び病原菌の特性解明に関する研究	生産環境研究領域	H26. 8. 18 ~ H26. 8. 27
岩手大学農学部	1	農産物のカドミウム濃度と吸収制御に関する研究等	生産環境研究領域	H26. 9. 1 ~ H26. 9. 5
岩手県農業研究センター畜産研究所	2	飼料中アミノ酸分析、ロース肉中アミノ酸分析、ロース肉せん断力価、ロース肉クッキングロス	畜産飼料作研究領域	H26. 9. 22 ~ H26. 10. 31
岩手大学大学院農学研究科	1	筋肉および浸漬液に含まれるコラーゲン含量の分析	畜産飼料作研究領域	H26. 10. 15 ~ H27. 3. 31
岩手大学農学部	1	筋肉および浸漬液に含まれるコラーゲン含量の分析	畜産飼料作研究領域	H26. 10. 30 ~ H27. 3. 31
山形県農業総合研究センター養豚試験場	1	食肉の剪断力価の測定法技術習得	畜産飼料作研究領域	H26. 11. 17 ~ H27. 3. 17
日本大学生物資源科学部	7	バイオ燃料を中心とした資源循環システムの評価方法等に関する研修	生産基盤研究領域	H27. 3. 13 ~ H27. 3. 16

国際協力事業団研修員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

国際農林水産業研究センター招へい

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

4) 外部研究者
招へい研究員

所 属	人 数	目 的	受入研究領域等	期 間
	なし			

日本学術振興会事業外国人特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

日本学術振興会事業特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
—	1	イネの窒素吸収を制御する根系機能の遺伝的特性と窒素環境応答に関する研究	生産基盤研究領域	H26. 4. 1～H29. 3. 31

5) その他

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
全ロシア畜産機械化研究所	1	平成26年度日ロ農業技術交流に係る「原発事故により被災した農地における長期的な営農対策技術」調査団	農業放射線研究センター	H26. 11. 18～H26. 11. 19
全ロシア農業放射線・農業生態学研究所	2	平成26年度日ロ農業技術交流に係る「原発事故により被災した農地における長期的な営農対策技術」調査団	農業放射線研究センター	H26. 11. 18～H26. 11. 19
ロシア科学アカデミー	1	平成26年度日ロ農業技術交流に係る「原発事故により被災した農地における長期的な営農対策技術」調査団	農業放射線研究センター	H26. 11. 18～H26. 11. 19

3. 研究者の派遣等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	留 学 先	期 間
	なし			

長期在外研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先 国	期 間
畜産飼料作研究領域	1	肉用家畜の取り扱いが生産性におよぼす影響の解明およびその改善手法の習得	オーストラリア	H27. 2. 14～H27. 8. 30

3) その他

海外派遣

所 属	人 数	目 的	派 遣 先 国	期 間
畜産飼料作研究領域	3	韓国国立畜産科学院海外科学者招聘セミナー及び現地牧場視察	韓国	H26. 11. 4～H26. 11. 7
畑作園芸研究領域	3	国際機関との連携強化のための調査研究	アメリカ	H26. 12. 10～H26. 12. 21

4. 技術協力・指導

1) 研修会等への講師派遣

平成 26 年度に技術指導等の講師派遣依頼を受けた内容は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
農業放射線研究センター	共同利用・共同研究「植物資源・ストレス科学研究拠点」シンポジウム「植物による東日本大震災被災農地の修復」	H26. 4. 10 ～4. 12	倉敷市	国立大学法人岡山大学資源植物科学研究所
農業放射線研究センター	共同利用・共同研究「植物資源・ストレス科学研究拠点」シンポジウム「植物による東日本大震災被災農地の修復」	H26. 4. 10 ～4. 12	倉敷市	国立大学法人岡山大学資源植物科学研究所
生産基盤研究領域	東北地域「食と健康」セミナー（第5回）	H26. 4. 22	仙台市	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
畑作園芸研究領域	春まきタマネギの育苗についての技術指導	H26. 4. 22	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
畑作園芸研究領域	（出前技術指導） 夏秋イチゴと加熱調理用トマトについて	H26. 4. 22	雫石町	雫石町
水田作研究領域	鉄コーティング種子（「えみのあき」「萌えみのり」）の散播指導、湛水散播における技術指導	H26. 5. 4 ～5. 5	佐渡市	㈱ネクストビジネスサービス
畑作園芸研究領域	春まきタマネギの定植についての技術指導	H26. 5. 12 ～5. 13	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 小麦「ゆきちから」の高品質多収栽培技術	H26. 5. 22	新潟市	マルエイファーム(株)
畑作園芸研究領域	人文理数学系出前講義(2学年対象)	H26. 6. 16	矢巾町	岩手県立不来方高等学校
畑作園芸研究領域	平成26年度第1回夏秋イチゴ勉強会	H26. 6. 19	八戸市	(地独)青森県産業技術センター野菜研究所長
畑作園芸研究領域	平成26年度第1回夏秋イチゴ勉強会	H26. 6. 19	八戸市	(地独)青森県産業技術センター野菜研究所長
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料用米栽培現地検討会	H26. 6. 20	加美町	加美よつば農業協同組合
畜産飼料作研究領域	赤肉生産におけるフレーバーを含めた最近のトピック	H26. 6. 20 ~6. 21	江別市	北海道日本短角種研究会
畑作園芸研究領域	平成26年度農研機構・JA全農「新技術普及検討会」	H26. 7. 2	千代田区	全国農業協同組合連合会
水田作研究領域	平成26年度新技術農業機械化推進研修「低コスト・省力化のための大規模水田営農コース」東北地域における直播適性品種を用いた鉄コーティング直播栽培	H26. 7. 10	水戸市	農林水産省農林水産研修所
水田作研究領域	(出前技術指導) 「萌えみのり」講習会	H26. 7. 16	大潟村	全農秋田県本部
水田作研究領域	パプアニューギニア国小規模稲作振興プロジェクト(フェーズ2)派遣専門家帰国報告会	H26. 7. 17	千代田区	(独)国際協力機構農村開発部
農業放射線研究センター	平成26年度県南地方鳥獣害被害防止対策研修会	H26. 7. 18	棚倉町	福島県県南農林事務所
畑作園芸研究領域	春まきたまねぎの収穫についての技術指導	H26. 8. 4 ~8. 5	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術	H26. 8. 18	高島町	置賜地区飼料米生産利用協議会
環境保全型農業研究領域	平成26年度都道府県農業関係研究員等専門研修「耕地雑草の防除対策立案のための調査・研究手法」雑草の埋土種子調査の意義と概要	H26. 8. 20	つくば市	(独)農研機構中央農業総合研究センター
水田作研究領域	鉄コーティング水稲直播導入応用講習会	H26. 8. 21 ~8. 23	大阪市	全国農業協同組合連合会
畑作園芸研究領域	食のセミナーin丸の内タニタ食堂『そのまま食べてはもったいないトマト「すずこま」』	H26. 9. 2	千代田区	(独)農研機構本部
農業放射線研究センター	根圏とは何か	H26. 9. 12 ~9. 13	宝塚市	住友化学株式会社健康・農業関連事業研究所

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畜産飼料作研究領域	平成26年度中央畜産技術研修会（放牧）	H26. 9. 25	西郷村	農林水産省生産局
水田作研究領域	鉄コーティング水稲直播導入応用講習会	H26. 9. 25 ～9. 27	広島市	全国農業協同組合連合会
水田作研究領域	鉄コーティング水稲直播導入応用講習会	H26. 10. 16 ～10. 17	千葉市	全国農業協同組合連合会
水田作研究領域	（出前技術指導） 飼料用米品種と育種の現状について	H26. 10. 18	北秋田市	J Aあきた北央営業部営農課
畑作園芸研究領域	三陸で夏イチゴを作ろう in 田野畑	H26. 10. 22	田野畑村	岩手大学三陸復興推進機構
生産基盤研究領域	（出前技術指導） 直播栽培技術とマーケティング戦略	H26. 10. 29	仙台市	J A仙台総務部震災復興推進課
生産基盤研究領域	（出前技術指導） 直播栽培技術とマーケティング戦略	H26. 10. 29	仙台市	J A仙台総務部震災復興推進課
農業放射線研究センター	農業施設学会放射能対策シンポジウム	H26. 10. 31	郡山市	農業施設学会
畑作園芸研究領域	（出前技術指導） 四季成り性品種「なつあかり」の採苗方法	H26. 10. 31	雫石町	合同会社しずくいしチャレンジフィールド
畑作園芸研究領域	平成26年度農研機構シンポジウム 「FOEAS・OPSISを活用した露地野菜安定生産技術」	H26. 11. 6	つくば市	（独）農研機構野菜茶業研究所
生産基盤研究領域	平成26年度営農指導員筆記試験講習会	H26. 11. 7	紫波町	J A岩手県中央会
畑作園芸研究領域	日本そばサミット in 上田	H26. 11. 7 ～11. 8	上田市	日本そばサミット in 上田実行委員会
生産基盤研究領域	大潟村創立50周年記念連続フォーラム	H26. 11. 8 ～11. 9	大潟村	大潟村
生産基盤研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業新品種・新技術コーディネーター研修会（米C01①）	H26. 11. 12 ～11. 13	港区	（一社）全国農業改良普及支援協会
水田作研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業新品種・新技術コーディネーター研修会（米C01①）	H26. 11. 12 ～11. 13	港区	（一社）全国農業改良普及支援協会
畑作園芸研究領域	平成26年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」研究成果発表会 in アグリビジネス創出フェア2014における研究成果の発表	H26. 11. 13	江東区	（公社）農林水産・食品産業技術振興協会
水田作研究領域	鉄コーティング水稲直播導入応用講習会	H26. 11. 14	仙台市	全国農業協同組合連合会
環境保全型農業研究領域	（出前技術指導） ウリ科野菜ホモブシス根腐病の総合防除技術	H26. 12. 3	富津市	千葉県印旛農業事務所

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
環境保全型農業研究領域	(出前技術指導) ホモブシス根腐病防除対策	H26. 12. 9	仙台市	宮城県仙台農業改良普及センター
水田作研究領域	平成26年度営農シンポジウム	H26. 12. 10	仙台市	全国農業協同組合連合会東北肥料農薬事業所
畑作園芸研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業新品種・新技術コーディネーター研修会(麦類C02)	H26. 12. 10	港区	(一社) 全国農業改良普及支援協会
環境保全型農業研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業新品種・新技術コーディネーター研修会(麦類C02)	H26. 12. 11	港区	(一社) 全国農業改良普及支援協会
水田作研究領域	2015米づくりフォーラムin庄内	H27. 1. 16	三川町	山形の米日本一推進運動庄内地域本部(山形県庄内総合支庁産業経済部)
水田作研究領域	(出前技術指導) 朝紫の安定生産技術と難雑草防除法	H27. 1. 17	大仙市	大仙市古代稲生産組合
水田作研究領域	東北大豆シンポジウムinみやぎ	H27. 1. 21	仙台市	東北地域大豆振興協議会(東北農政局生産部)
生産基盤研究領域	(出前技術指導) 水稻直播栽培技術	H27. 1. 21	名取市	宮城県亙理農業改良普及センター
生産基盤研究領域	後期教育課程「農地工学Ⅰ」における講演「スニーカーでできる米づくり」	H27. 1. 22	仙台市	宮城大学
生産環境研究領域	平成26年度北海道・東北地域病虫害防除所職員技術研修会	H27. 2. 2	盛岡市	農林水産省東北農政局
水田作研究領域	(出前技術指導) 多収穫品種の紹介と萌えみのりの直播栽培技術	H27. 2. 6	横手市	㈱ヤマタネ米穀部
水田作研究領域	(出前技術指導) 多収穫品種の紹介と萌えみのりの直播栽培技術	H27. 2. 6	横手市	㈱ヤマタネ米穀部
水田作研究領域	(出前技術指導) ときめきもち栽培講習	H27. 2. 10	大潟村	J A大潟村営農支援課
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術	H27. 2. 12	大仙市	合資会社秋山商店
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術	H27. 2. 26	川西町	置賜地区飼料米生産利用協議会
畑作園芸研究領域	第5回農研機構新技術説明会(野菜等の出芽を安定化させるために畝の上に溝を成形する装置)	H27. 3. 3	千代田区	(独) 農研機構本部

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
環境保全型農業研究領域	バイエル北海道麦作フォーラム	H27. 3. 4 ～3. 6	帯広市	バイエルクロップサイエンス(株)マーケティング本部
水田作研究領域	平成26年度東北地域施肥技術研究会	H27. 3. 5	仙台市	全国農業協同組合連合会東北肥料農薬事業所
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 四季成り性品種「なつあかり」の当年苗栽培	H27. 3. 10	盛岡市	岩手なつあかり研究会
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 四季成り性品種「なつあかり」の当年苗栽培	H27. 3. 11	盛岡市	岩手なつあかり研究会
環境保全型農業研究領域	(出前技術指導) ウリ科野菜ホモブシス根腐病の総合防除技術	H27. 3. 13	秋田市	秋田県立大学生物資源科学部

2) 海外出張

平成 26 年度に研究・調査・指導等の派遣依頼を受けた海外出張は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	出 張 先	依 頼 者
農業放射線研究センター	平成26年度日ロ農業技術交流に係る「原発事故により被災した農地における長期的な営農対策技術について」の調査	H26. 10. 5 ～H26. 10. 12	ロシア (ロシア科学アカデミー、トゥーラ農業化学研究所、全ロシア農業放射線・生態学研究所、全ロシアウィリアムズ飼料研究所)	農林水産省
生産環境研究領域	ベトナム、タイ、沖縄における伏流式人工湿地ろ過システムの確認及び可能性調査	H27. 1. 21 ～H27. 1. 30	ベトナム、タイ、沖縄	(株)トリム

3) 講習会等の開催

平成 26 年度に開催した行政・普及部局、農業者等を対象とした講習会、講演会は以下のとおりである。

講習会・講演会名	開催日	参加人数	講 師
(該当無し)			

5. 国際会議・研究集会（参加）

平成 26 年度に国際会議及び研究集会に参加した内容は次のとおりである。

なお、発表者として参加した場合、発表内容は「Ⅲ 研究情報活動」に記載してある。

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
畑作園芸研究領域	H26. 5. 20 ～H26. 5. 23	International Symposium on Machinery and echatronics for Agriculture and Biosystems Engineering 2014	台湾
水田作研究領域	H26. 6. 7 ～H26. 6. 14	第20回国際土壌科学会議	韓国
農業放射線研究セ ンター	H26. 6. 8 ～H26. 6. 14	第20回国際土壌科学会議	韓国
水田作研究領域	H26. 7. 5 ～H26. 7. 13	国際分子植物微生物相互作用学会2014	ギリシャ
水田作研究領域	H26. 8. 2 ～H26. 8. 9	ダイズ分子細胞生物学学会	アメリカ
生産基盤研究領域	H26. 8. 15 ～H26. 8. 24	第6回アジア環太平洋農環境教育者学会国際大 会	フィリピン
畑作園芸研究領域	H26. 8. 17 ～H26. 8. 22	第29回国際園芸学会	オーストラリア
畜産飼料作研究領 域	H26. 8. 19 ～H26. 8. 25	第5回日中韓草地学会	中国
生産環境研究領域	H26. 8. 26 ～H26. 9. 1	オランダ・日本共同セミナー「寄生バチの生物 学」：これからの基礎・応用研究	オランダ
畜産飼料作研究領 域	H26. 9. 6 ～H26. 9. 14	Joint ISNH/ISRP 国際会議 2014	オーストラリア
農業放射線研究セ ンター	H26. 9. 22 ～H26. 9. 26	重金属と放射性物質に汚染された農地土壌の管 理と修復に関する国際セミナー	台湾
生産環境研究領域	H26. 9. 22 ～H26. 9. 26	第8回アジア作物学会	ベトナム
生産環境研究領域	H26. 10. 12 ～H26. 10. 19	第14回水質汚濁制御のための湿地システムに関 する国際会議及び研究打合せ	中国
畜産飼料作研究領 域	H26. 11. 9 ～H26. 11. 15	16th AAAP	インドネシア

IV 諸会議一覽

IV 諸会議一覧

1. 東北農業研究センター研究課題検討会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
畑作園芸研究領域検討会	H26. 12. 24 ～12. 25	盛岡市	畑作園芸研究領域長
生産基盤研究領域検討会	H26. 12. 17 ～12. 18	盛岡市	生産基盤研究領域長
畜産飼料作研究領域検討会	H26. 12. 19	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
環境保全型農業研究領域・農業放射線研究センター検討会	H26. 12. 26	福島市	環境保全型農業研究領域長・農業放射線研究センター長
水田作研究領域検討会	H27. 1. 8 ～ 1. 9	大仙市	水田作研究領域長
生産環境研究領域検討会	H27. 1. 15	盛岡市	生産環境研究領域長

2. 東北農業研究センター試験研究推進会議

1) 研究戦略会議・推進部会等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
東北農業試験研究推進会議 研究戦略会議	H26. 10. 15	盛岡市	企画管理部長
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	H27. 1. 26 ～ 1. 27	盛岡市	果樹研究所リンゴ研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畜産飼料作推進部会	H27. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会	H27. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
東北農業試験研究推進会議 稲推進部会	H27. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会	H27. 1. 30	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会	H27. 2. 2 ～ 2. 3	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会	H27. 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北農業試験研究推進会議 本会議	H27. 2. 18	盛岡市	東北農業研究センター 所長

2) 検討会・研究会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
ソバ研究会（東北ソバフォーラム）（畑作物推進部会）	H26. 6. 25	羽後町	畑作園芸研究領域長
土壌肥料研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H26. 7. 8 ～ 7. 9	仙台市	生産環境研究領域長
野菜研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H26. 7. 15 ～ 7. 16	郡山市、川内村	畑作園芸研究領域長
農業経営研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H26. 7. 28	盛岡市	生産基盤研究領域長
畑作物栽培研究会（夏期）（畑作物推進部会）	H26. 8. 21 ～ 8. 22	会津若松市	畑作園芸研究領域長
作業技術研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H26. 8. 21 ～ 8. 22	山形市、川西町、米沢市	生産基盤研究領域長
果樹推進部会及び寒冷地果樹合同現地研究会	H26. 8. 21 ～ 8. 22	仙台市、山元町、亘理町	果樹推進部会長 （果樹研究所リンゴ研究領域長）
直播研究会並びに水稲直播等低コスト技術現地検討会（稲推進部会）	H26. 8. 28 ～ 8. 29	青森市、五所川原市	水田作研究領域長
病虫害研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H26. 9. 1 ～ 9. 2	郡山市、田村市	生産環境研究領域長
東北地域麦・なたね品種・系統検討会（畑作物推進部会）	H26. 9. 3	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北地域水稲品種系統立毛検討会（稲推進部会）	H26. 9. 4	秋田市、大仙市	水田作研究領域長
畜産研究会（夏期）（畜産飼料作推進部会）	H26. 9. 10 ～ 9. 11	福島市	畜産飼料作研究領域長
花き研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H26. 10. 8 ～ 10. 9	川西町、米沢市	畑作園芸研究領域長
稲品種検討会（稲推進部会）	H27. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
稲栽培研究会（稲推進部会）	H27. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
直播研究会（稲推進部会）	H27. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物品種検討会（畑作物推進部会）	H27. 1. 29	盛岡市	畑作園芸研究領域長
畑作物栽培研究会（畑作物推進部会）	H27. 1. 29	盛岡市	畑作園芸研究領域長
土壌肥料研究会（生産環境推進部会）	H27. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
病虫害研究会（生産環境推進部会）	H27. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
牧草・飼料作物優良品種選定ネットワーク推進会議（畜産飼料作推進部会）	H27. 1. 30	盛岡市	畜産飼料作研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
農業気象研究会（生産環境推進部会）	H27. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
流通加工研究会（農業生産基盤推進部会）	H27. 2. 4	盛岡市	生産環境研究領域長
農業経営研究会（農業生産基盤推進部会）	H27. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
作業技術研究会（農業生産基盤推進部会）	H27. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北ソバ研究会（畑作物推進部会）	H27. 2. 25	盛岡市	畑作園芸研究領域長

3. 共催・後援等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
第57回東北農業試験研究発表会（主催：東北農業試験研究協議会）	H26. 7. 30	仙台市	東北農業試験研究協議会
平成26年度東北地域マッチングフォーラム「飼料用米給与が畜産物生産に与えるメリット」（主催：農林水産技術会議事務局）	H26. 11. 26	盛岡市	産学官連携支援センター

4. その他

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成 26 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」キックオフミーティング	H26. 4. 25	盛岡市	水田作研究領域長
平成 26 年度農水省委託プロジェクト研究「農作物に対応した放射性物質移行低減対策技術の開発」推進会議設計検討会	H26. 6. 3	つくば市	環境保全型農業研究領域農業放射線研究センター
平成 26 年度作物試験研究推進会議東日本地域麦類育成系統立毛検討会	H26. 6. 9 ～ 6. 10	盛岡市、花巻市、一関市	畑作園芸研究領域長
小麦の新品種候補「東北 228 号」の実需者評価に向けた現地実証試験現地検討会	H26. 6. 17 ～ 6. 18	五所川原市、つがる市、紫波町	畑作園芸研究領域長
東北地域における予防的イノシシ・ニホンジカ被害対策に向けた研究会	H26. 6. 30	仙台市	業務推進室長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「東北・北陸地域における新作物型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」平成 26 年度現地検討会	H26. 7. 1 ～ 7. 3	芽室町ほか	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度現地検討会	H26. 7. 2 ～ 7. 3	仙台市、名取市	生産基盤研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度現地検討会	H26. 7. 15 ～ 7. 16	陸前高田市、 北上市	生産環境研究領域長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」第 1 回推進会議及び現地検討会	H26. 7. 30 ～ 8. 1	浜松市ほか	生産環境研究領域病害 虫グループ
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度現地検討会	H26. 8. 4 ～ 8. 5	鶴岡市、酒田 市	水田作研究領域長
「大潟村重粘土排水不良田における地下水位制御システムを活用した水田乾田直播・大豆輪作体系」検討会	H26. 8. 26	大潟村	生産基盤研究領域農業 機械グループ
「低コスト・省力化、軽労化技術等の開発」国産飼料分科会 1 系育種食用米との識別性を有する多収飼料用米、T D N 収量が高い飼料作物品種の開発平成 26 年度現地検討会	H26. 8. 27 ～ 8. 28	大仙市、北上 市、一関市	水田作研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」土地利用型営農技術に係る先端技術普及促進現地検討会	H26. 9. 4	名取市	生産基盤研究領域長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業『「ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル」に基づいた予防的な防除体系の実証』第 1 回推進会議	H26. 11. 18	盛岡市	環境保全型農業研究領 域
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」「キャベツの機械化一環体系実証研究」現地検討会	H26. 11. 21	岩沼市、名取 市	畑作園芸研究領域野菜 花きグループ
平成 26 年度「排水条件が劣悪な環境下における地下水位制御システムの有用性の実証」現地実証試験検討会	H26. 12. 12	大潟村	水田作研究領域水田作 グループ
平成 26 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」成績検討会	H26. 12. 15	盛岡市	水田作研究領域長
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 26 年度無コーティング代かき同時湛水直播成績検討会	H26. 12. 16	盛岡市	水田作研究領域長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」研究成果発表会	H26. 12. 16	盛岡市	生産環境研究領域病害 虫グループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」平成 26 年度研究推進会議	H27. 1. 22 ～ 1. 23	盛岡市	畑作園芸研究領域野菜 花きグループ

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
水田作の大規模化に対応した土壌肥沃度の診断システムおよび同管理技術の高能率化に関するテーブルリサーチ	H27. 1. 29	盛岡市	産学官連携支援センター長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」第 2 回推進会議	H27. 2. 2 ～ 2. 3	盛岡市	生産環境研究領域病害虫グループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業『「ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル」に基づいた予防的な防除体系の実証』第二回推進会議	H27. 2. 3	盛岡市	環境保全型農業研究領域
平成 26 年度農水省委託プロジェクト研究「農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発 農作物に対応した放射性物質移行低減対策技術の開発（水稻における放射性セシウム移行要因の解明および移行低減対策技術の開発）」推進会議成績検討会	H27. 2. 6	郡山市	農業放射線研究センター
平成 26 年度農水省委託プロジェクト研究「農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発 農作物に対応した放射性物質移行低減対策技術の開発（そば等における放射性セシウム移行要因の解明および移行低減対策技術の開発）」推進会議成績検討会	H27. 2. 6	郡山市	農業放射線研究センター
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度推進会議	H27. 2. 9	盛岡市	生産環境研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」平成 26 年度研究推進会議	H27. 2. 9	名取市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 26 年度推進会議	H27. 2. 12	盛岡市	生産基盤研究領域長
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」現地成果報告会	①H27. 2. 12 ～ 2. 13 ②H27. 2. 23 ③H27. 3. 3	①鱒ヶ沢町 ②能代市 ③鶴岡市	水田作研究領域長
小麦新品種「銀河のちから」の試食検討会	H27. 2. 19	盛岡市	畑作園芸研究領域長
麺用有望系統「東北 228 号」の試食検討会	H27. 2. 19	盛岡市	畑作園芸研究領域長
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」研究成果報告会	H27. 2. 23	盛岡市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
平成 26 年度『東北地域向け大豆品種「シュウリュウ」の広域的普及促進のための現地実証試験』における技術情報交換会	H27. 2. 27	北上市	水田作研究領域大豆育種グループ
東北地域における鳥獣害問題対応課題立案に向けた研究会	H27. 2. 27	仙台市	業務推進室長
岩手県沿岸地域におけるショウガの産地化に向けた技術講習会・テーブルリサーチ	H27. 3. 6	陸前高田市	産学官連携支援センター長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成 26 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」推進会議	H27. 3. 9	盛岡市	水田作研究領域長
平成 26 年度ナタネセミナー 暖地における新品種、栽培技術によるナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会	H27. 3. 10	鹿屋市、東串良町	畑作園芸研究領域畑作物育種グループ

V 表彰・学会賞等

V 表彰・学会賞等

学会賞等

氏名	所属	表彰名	受賞年月日	功績名
関矢 博幸	生産基盤 研究領域	日本土壌肥料学会 Soil Science and Plant Nutrition Award	H26. 4. 4	Status of paddy soils as affected by paddy rice and upland soybean rotation in northeast Japan, with special reference to nitrogen fertility
西田 瑞彦	水田作 研究領域	〃	〃	〃
内野 宙	畜産飼料作 研究領域	日本作物学会 第237回講演会優秀 発表賞		イタリアンライグラスをリビングマ ルチとして導入した飼料用大豆生産 体系ー大豆の播種時期が収量性に及 ぼす影響についてー
西田 瑞彦	水田作 研究領域	20th World Congress of Soil Science, Best Poster Award	H26. 6. 9	Estimation of microbial biomass potassium in paddy field soil
佐藤 百合香		平成26年度日本フー ドシステム学会研究 奨励賞	H26. 6. 14	産地と食卓をつなぐ農業技術普及
西田 瑞彦	水田作 研究領域	日本土壌肥料学会東 北支部大会平成26年 度宮城大会ポスター 賞	H26. 7. 7	寒冷地の田畑輪換体系における有機 質資材由来窒素の動態ー (第2報)作付体系別の2年間の窒 素動態ー
大谷 隆二	生産基盤 研究領域	農業食料工学会東北 支部 優秀発表賞	H26. 8. 21	仙台平野津波被災地におけるプラウ 耕乾田直播を核とした2年3作水田 輪作実証試験
齋藤 秀文	〃	〃	〃	〃
関矢 博幸	〃	〃	〃	〃
冠 秀昭	〃	〃	〃	〃
中山 壮一	〃	〃	〃	〃
松波 寿典	〃	〃	〃	〃
篠遠 善哉	〃	〃	〃	〃
池永 幸子	畑作園芸 研究領域	〃	〃	〃
谷口 義則	〃	〃	〃	〃
片山 勝之	水田作 研究領域	〃	〃	〃
冠 秀昭	生産基盤 研究領域	農業農村工学会 優 秀報文賞	H26. 8. 26	黒ボク土水田におけるプラウ耕鎮圧 体系乾田直播での縦浸透抑制手法

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
大谷 隆二	生産基盤 研究領域	農業農村工学会 優 秀報文賞	H26. 8. 26	黒ボク土水田におけるプラウ耕鎮圧 体系乾田直播での縦浸透抑制手法
金井 源太	〃	農業施設学会 貢献 賞	H26. 8. 28	
竹倉 憲弘	農業放射線 研究センター	〃	〃	
長谷川 啓哉	生産基盤 研究領域	平成 26 年度日本農業 経営学会賞学会誌賞	H26. 9. 19	生産・販売変革による大規模リンゴ 作経営の成立－青森県弘前市 S 経営 の事例分析－
門田 育生	生産環境 研究領域	日本植物病理学会東 北部会 地域貢献賞	H26. 9. 26	東北地域の園芸産地で問題となっ ている土壌病害の防除技術開発と普及
中山 壮一	生産基盤 研究領域	日本植物調節剤研究 協会功労者表彰	H26. 12. 12	
白土 宏之	水田作 研究領域	日本植物調節剤研究 協会功労者表彰	H26. 12. 12	
浅井 元朗	環境保全型 農業研究領域	日本植物調節剤研究 協会功労者表彰	H26. 12. 12	
門田 育生	生産環境 研究領域	第 7 回北日本病害虫 研究会賞防除技術開 発・技術普及部門賞	H27. 2. 19	東北地方で問題となる土壌病害の防 除技術確立
藤村 恵人	農業放射線 研究センター	第 12 回日本作物学会 論文賞	H27. 3. 27	Effects of applying potassium, zeolite and vermiculite on the radiocesium uptake by rice plants grown in paddy field soils collected from Fukushima Prefecture
今崎 伊織	生産環境 研究領域	平成 27 年度日本植物 病理学会学術奨励賞	H27. 3. 29	土壌伝染性病原菌の病原性機構に関 する研究

VI 各種委員会

VI 各種委員会

1. 法令等に基づく委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員会	委員の互選による	所内の関係者から若干名、所外の学識経験者から若干名、安全主任者及び副主任者若干名	実験計画の法令及び要領に対する適合性に関すること	業務推進室
職務発明審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務発明の認定、特許出願等に関すること	業務推進室
職務作成プログラム審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務作成プログラムの審査等に関すること	業務推進室
職務育成品種審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務育成品種、品種登録出願等に関すること	業務推進室
毒物劇物等管理委員会	企画管理部長	研究領域長、審議役、センター長、毒物劇物等管理責任者（数名）	毒物劇物等管理責任者が行う必要な指示等に関すること	業務推進室
特定調達契約審査委員会	審議役	業務推進室長、管理課長及び所長が指名する者	調達物品等の契約方式、数量、納期、応札期間、仕様、技術審査等に関すること	管理課
契約審査委員会	審議役	管理課長及び会計チーム長	最低価格入札者を落札者としめないことの審査に関すること	管理課
競争参加資格審査会		所長、審議役、管理課長、庶務チーム長及び会計チーム長	競争参加資格等の審査に関すること	管理課
指名競争参加者選定・随意契約審査委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、管理課長及び委員長が指名する者	指名競争参加者の選定、随意契約の審査に関すること	管理課
安全衛生委員会	審議役	産業医、衛生管理者及び安全・衛生に関し経験を有する者並びに管理課長、調査役、業務第1科長、業務第2科長及び労働組合の推薦に基づき所長が指名した6名	安全衛生管理に関する重要事項の調査審議等に関すること	管理課
さわやか行政サービス推進委員会	審議役	管理課長、業務推進室長、調査役、情報広報課長及び主査（予算担当）	窓口サービス、公共施設利用サービスに関すること	管理課
防火対策委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、審議役、管理課長、管理チーム長及び研究支援センター長	防火・防災にかかる規定の制定改廃に関すること	管理課

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
省エネ推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役、及び委員長が指名する者	省エネ法に基づく中長期的な計画の作成に関する事	業務推進室、管理課、エネルギー管理及び担当者
牛海綿状脳症(BSE)対策委員会	所長	企画管理部長、審議役、研究支援センター長、業務第2科長、研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、情報広報課長及び資産管理主査	BSE発生時に当所BSE防疫マニュアル等に基づき対応を行うこと	業務推進室

2. 諮問委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
業績評価委員会	企画管理部長	審議役及び研究領域長	研究職員の業績評価に関する事	研究調整役
昇格候補者選考委員会	企画管理部長	審議役及び委員長が指名する者	研究職員に係る昇格候補者の選考等に関する事	研究調整役管理課
研究職員選考採用等選考委員会	所長	企画管理部長及び委員長が指名する者	採用候補者の書類審査、面接試験等に関する事	研究調整役
施設・機械整備委員会	企画管理部長	審議役、研究領域長及び農業放射線研究センター長	中期計画における施設の整備・改修、研究用機械の整備方針等に関する事	業務推進室管理課
農研機構特別研究員選考委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、担当研究領域長やセンター長及び研究担当責任者	農研機構特別研究員の雇用に関する事	業務推進室
意見処理委員会	審議役	企画管理部長、業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	人事評価実施権者からの意見の申立てに関する事	委員会
圃場委員会	研究支援センター長	業務科各科長及び所長が指名した者	圃場・家畜利用運営等に関する事	業務第1科
動物実験委員会	研究領域長の中から所長が指名した者	動物実験等に関して優れた見識を有する者、その他学識を有する者の中から所長が指名した者	動物実験計画の審査等に関する事	業務推進室

3. 運営委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
運営委員会		有識者の中から所長が委嘱した者（10名以内）	試験及び研究並びに調査の推進方策、計画及び進捗状況の点検、センターの運営に関すること	業務推進室
運営費交付金による研究委託課題の委託先選定委員会	研究領域長	審議役、企画管理部長、研究調整役、業務推進室長、管理課長、委員長が指名する者	募集要領及び応募要領に関する事項、研究委託課題の委託先の選定	業務推進室
セミナー委員会	研究領域長から所長が指名	研究領域長及び研究拠点から各1名	セミナーの企画・開催するための組織及び運営に関すること	業務推進室
コンプライアンス推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長及びセンター長	コンプライアンスの推進に関すること	委員会
雇用検討委員会	審議役	業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	契約職員等の計画的な雇用管理に関すること	管理課
異常気象対策検討委員会	企画管理部長	生産環境研究領域長及び所長が指名する者	東北地域の農作物の作柄、異常気象襲来時の農作物への影響等に関すること	生産環境研究領域農業気象グループ
冷涼気候利用型複合農業技術開発実験施設運営委員会	生産基盤研究領域長	当該施設の利用に関連する者及び会計チーム主査（資産管理）	施設の利用、運転・保守管理等に関すること	生産基盤研究領域生理機能グループ
機能性評価実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
温度勾配実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
肉質検査室運営委員会	畜産飼料作研究領域長	研究支援センター長、業務第2科長、会計チーム長及び所長が指名した者	肉質検査室、と畜場の運営に関すること	畜産飼料作研究領域
編集委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長及び委員長が必要と認める者	研究報告等の企画・編集、編集内規、執筆内規、原稿の校閲・審査等に関すること	情報広報課
図書委員会	企画管理部長	業務推進室、管理課から各1名及び各研究領域長、農業放射線研究センター長が選出した者	共通図書の整備・利用、図書館の管理運営に関すること	情報広報課
広報委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長、研究調整役及び研究支援センター長	広報媒体の作成・運用、広報に関する戦略策定・推進に関すること	情報広報課
一般公開（盛岡）小委員会	研究調整役	業務推進室、管理課、盛岡地区の研究領域、業務各科から各1～2名	一般公開の計画・運営等に関すること	情報広報課
ホームページ小委員会	研究調整役	研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、管理課長、情報広報課長及び研究支援センター長	当所ホームページの作成・運用・管理等に関すること	情報広報課

Ⅶ 平成 26 年半旬別気象表（平成 26 年 1 月～ 12 月）

Ⅶ 平成 26 年半旬別気象表

(平成 26 年 1 月～12 月)

1. 本所 (厨川)

月 半旬	気 温 (°C)										降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)		積雪深 (cm)	日射量 (MJ)	地 温 (°C)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年			10 cm	20 cm
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年												
1	1	0.2	1.5	-6.5	-2.0	29.5	8.9	12.8	13.1	21	6.0	1.6	2.2					
	2	0.5	1.2	-7.1	-2.4	1.0	9.7	15.1	16.0	18	6.4	1.3	1.9					
	3	-1.8	0.9	-7.5	-2.8	4.5	4.7	19.4	15.8	31	7.8	0.8	1.5					
	4	-0.5	0.8	-8.2	-3.1	1.5	9.8	11.1	19.5	28	7.1	0.9	1.5					
	5	2.3	0.6	-8.1	-3.1	3.5	6.5	16.0	16.2	27	8.1	1.0	1.5					
	6	2.0	0.7	-8.5	-3.3	15.5	8.5	25.3	21.7	23	8.6	0.6	1.2					
月平均	0.5	1.0	-7.7	-2.8	55.5	48.1	99.8	101.1	31	7.4	1.0	1.6						
2	1	2.2	0.4	-8.9	-3.6	27.5	7.9	12.8	21.7	28	7.1	0.6	0.9					
	2	-1.5	1.7	-7.8	-2.5	3.0	10.3	16.3	20.3	24	8.9	0.3	0.8					
	3	0.8	1.6	-7.5	-2.4	70.0	11.0	15.3	21.9	44	9.0	0.2	0.6					
	4	1.3	1.8	-7.2	-2.2	62.5	8.5	19.1	20.4	52	10.7	0.2	0.6					
	5	2.0	2.7	-6.5	-1.3	0.0	7.5	25.9	24.2	37	12.3	0.1	0.5					
	6	7.4	3.0	-6.1	-1.1	2.5	6.6	21.4	16.1	33	14.5	0.1	0.5					
月平均	1.6	1.8	-7.4	-2.2	165.5	51.8	110.7	124.7	52	10.1	0.3	0.7						
3	1	3.6	3.7	-5.1	-0.4	4.0	14.0	28.7	25.2	22	12.7	0.1	0.5					
	2	0.8	3.5	-5.4	-0.6	3.0	14.7	31.3	21.6	28	15.2	0.1	0.4					
	3	2.5	5.4	-3.5	1.0	94.0	12.9	9.7	24.6	51	11.1	0.1	0.3					
	4	4.7	6.8	-2.5	2.1	43.5	12.3	16.5	25.4	48	10.2	0.1	0.3					
	5	8.0	7.5	-2.0	2.8	8.5	11.7	24.7	29.7	39	15.5	0.3	0.2					
	6	13.4	8.2	-1.7	3.4	24.5	13.4	41.0	28.2	15	16.3	6.3	4.2					
月平均	5.8	5.9	-3.3	1.4	177.5	79.0	151.9	86.1	51	13.6	1.3	1.1						
4	1	12.7	10.4	-0.3	5.1	43.5	9.6	32.2	29.3	2	16.5	7.5	6.0					
	2	11.9	12.5	1.2	7.0	7.0	10.1	35.6	27.5	6	18.4	6.6	5.9					
	3	14.0	12.8	1.9	7.4	0.5	16.2	51.5	23.0	0	23.0	6.9	6.0					
	4	14.2	14.1	2.5	8.5	0.0	14.5	49.0	31.2	0	23.5	8.1	6.9					
	5	17.7	15.0	4.1	9.6	0.0	20.0	35.6	25.8	0	18.8	10.1	8.3					
	6	19.3	16.7	4.1	10.6	6.5	15.2	32.0	33.3	0	15.9	11.6	9.9					
月平均	15.0	13.6	2.3	8.1	57.5	85.7	235.9	170.4	6	19.4	8.5	7.2						
5	1	19.9	17.6	5.8	11.9	18.0	17.8	27.9	32.8	0	17.8	13.0	11.1					
	2	17.6	18.3	6.3	12.5	4.5	15.4	45.6	24.7	0	23.6	13.1	11.5					
	3	25.0	17.7	7.2	12.6	15.0	19.0	36.8	27.2	0	21.6	14.9	12.7					
	4	19.2	19.0	8.0	13.7	8.0	15.8	31.6	27.1	0	19.9	14.5	13.0					
	5	18.1	19.7	8.7	14.2	13.5	19.3	17.1	31.4	0	15.1	15.2	13.5					
	6	27.6	20.6	9.7	15.2	10.0	14.1	56.9	32.3	0	24.0	19.1	16.1					
月平均	21.4	18.9	7.7	13.4	69.0	101.4	215.8	95.9	0	20.4	15.1	13.1						
6	1	29.1	21.8	11.0	16.4	0.0	10.8	57.9	34.8	0	26.6	21.2	18.2					
	2	25.4	22.3	12.1	17.1	8.5	12.5	9.2	25.5	0	14.4	21.5	18.8					
	3	21.6	22.7	12.8	17.6	26.5	16.4	4.9	24.2	0	9.9	20.3	18.7					
	4	24.2	23.2	14.0	18.4	14.0	20.0	17.6	25.2	0	17.0	20.9	18.8					
	5	26.4	23.0	14.2	18.5	0.0	15.8	40.9	23.8	0	24.4	22.0	19.7					
	6	26.8	23.4	15.2	19.0	22.5	32.6	25.6	22.2	0	19.0	22.8	20.6					
月平均	25.6	22.7	13.2	17.8	71.5	108.1	156.0	68.1	0	18.6	21.5	19.1						

7	1	27.2	23.9	17.4	15.8	21.7	19.6	121.5	33.9	32.9	17.0	0	22.3	24.0	21.7
	2	27.2	24.5	18.6	16.5	22.7	20.3	71.0	35.0	19.7	20.6	0	16.1	24.7	22.6
	3	27.2	24.6	17.6	17.0	22.3	20.6	39.5	35.7	25.9	16.2	0	16.4	23.7	22.1
	4	25.7	25.2	18.4	17.9	21.4	21.3	3.0	37.1	8.2	16.2	0	13.5	24.4	22.7
	5	28.3	26.8	19.3	18.8	23.6	22.4	23.0	22.1	36.1	20.5	0	19.8	24.8	23.0
	6	30.1	27.8	17.8	19.4	24.2	23.2	3.5	32.6	45.4	29.5	0	21.7	25.4	23.5
	月平均	27.7	25.6	18.2	17.6	22.7	21.3	261.5	196.4	168.2	79.4	0	18.4	24.5	22.6
8	1	31.1	28.1	22.1	19.8	26.1	23.5	12.0	26.5	27.6	23.8	0	16.5	27.0	24.7
	2	26.2	28.4	20.8	19.8	22.9	23.8	68.5	24.7	2.5	25.9	0	7.6	25.5	24.3
	3	25.3	27.9	18.8	19.7	21.9	23.4	94.0	31.7	9.1	21.5	0	9.4	23.7	22.8
	4	25.8	27.4	20.6	19.1	22.8	22.9	15.5	23.4	4.7	20.0	0	9.3	24.0	22.5
	5	28.5	27.0	19.9	18.3	23.6	22.3	45.5	31.8	28.0	25.3	0	17.0	26.0	24.3
	6	23.7	26.2	16.3	18.2	19.6	21.7	0.5	43.9	16.6	21.6	0	13.1	23.8	23.2
	月平均	26.7	27.4	19.6	19.1	22.7	22.9	236.0	181.9	88.4	68.6	0	12.2	25.0	23.6
9	1	25.1	25.9	15.9	17.1	20.1	21.2	17.5	18.7	19.0	22.4	0	13.0	22.9	22.4
	2	25.7	24.3	15.1	16.0	19.8	19.9	9.0	33.8	28.2	20.2	0	16.5	23.0	22.2
	3	23.5	23.0	12.1	14.5	17.1	18.6	6.0	32.4	31.9	18.6	0	16.5	22.1	21.8
	4	21.2	22.5	9.2	13.9	15.1	18.0	6.0	31.3	29.5	16.9	0	15.2	20.2	20.2
	5	21.5	21.2	8.5	11.8	14.9	16.4	56.5	23.0	28.3	18.0	0	13.3	18.7	19.0
	6	22.5	20.1	8.4	10.0	15.4	14.9	0.0	16.8	43.9	20.7	0	17.3	18.2	18.3
	月平均	23.2	22.8	11.5	13.9	17.1	18.2	95.0	155.9	180.8	115.7	0	15.3	20.8	20.6
10	1	20.4	19.7	7.6	9.3	14.3	14.5	13.0	18.2	25.8	22.5	0	12.8	17.6	17.9
	2	18.6	18.1	5.6	8.1	12.0	13.0	37.5	19.3	32.7	20.1	0	13.1	15.3	16.0
	3	16.5	18.0	5.2	7.4	11.0	12.7	52.5	16.3	32.7	25.2	0	12.8	14.1	14.9
	4	16.2	16.4	5.8	5.6	10.8	11.0	4.5	9.8	18.7	26.1	0	9.8	13.5	14.1
	5	15.6	15.1	4.9	4.4	9.9	9.7	22.0	12.6	24.6	23.4	0	10.2	13.1	13.7
	6	16.5	14.2	2.3	3.5	9.2	8.9	0.5	16.3	39.2	23.4	0	11.2	11.6	12.6
	月平均	17.3	16.8	5.1	6.3	11.1	11.5	130.0	92.5	173.7	140.5	0	11.6	14.1	14.8
11	1	14.1	12.9	3.1	2.5	8.6	7.8	23.0	19.0	17.4	20.2	0	6.8	10.9	11.8
	2	13.6	12.3	1.8	2.0	8.4	7.4	2.5	13.2	24.7	22.1	0	8.8	9.7	10.7
	3	9.2	10.5	1.0	1.3	4.7	6.1	21.5	15.3	15.2	14.8	0	6.1	8.4	9.7
	4	7.5	8.7	-2.8	-0.5	2.6	4.2	3.0	13.5	18.6	14.5	0	6.3	6.3	7.9
	5	11.0	8.3	-1.9	-1.1	4.8	3.6	3.0	13.2	28.6	19.9	0	8.9	6.3	7.3
	6	10.7	6.9	1.8	-1.1	6.1	2.8	17.5	16.7	13.0	16.1	0	5.5	7.0	7.5
	月平均	11.0	9.9	0.5	0.5	5.9	5.3	70.5	90.4	117.6	102.2	0	7.1	8.1	9.1
12	1	4.3	6.2	0.0	-1.7	1.8	2.3	50.5	13.4	3.8	17.5	27	3.6	6.3	7.6
	2	1.2	5.1	-5.9	-2.3	-2.1	1.5	3.5	10.9	16.1	13.2	20	7.2	3.6	5.2
	3	0.1	3.8	-7.2	-3.5	-2.8	0.3	9.5	12.8	18.2	15.9	16	6.2	2.5	4.0
	4	2.1	2.9	-5.5	-4.8	-1.9	-0.6	27.5	7.0	2.2	15.1	33	4.3	3.5	3.5
	5	0.8	3.2	-6.2	-4.5	-2.3	-0.3	9.5	10.5	13.0	15.8	33	6.0	2.1	3.3
	6	1.3	2.4	-9.4	-5.1	-3.4	-1.0	0.0	12.7	25.8	17.2	30	7.1	2.0	3.1
	月平均	1.6	3.9	-5.8	-3.7	-1.8	0.3	100.5	67.3	79.2	93.2	33	5.8	3.1	4.4
年平均	14.8	4.5	9.7	4.5	1778.1	1490.0	52	13.3	11.9	11.5					

注 1) ①から③については、大仙研究拠点、福島研究拠点ともに共通。
 ①各月の半旬期間は、1:1~5日、2:6~10日、3:11~15日、4:16~20日、5:21~25日、6:26日~終まで、を各々さす。
 ②1~6の各「半旬」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は半旬期間の合計値を、積雪深は半旬期間の最大値を、各々示す。
 ③「月平均」及び「年平均」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は1~6の各半旬の合計値（年平均欄では、月平均の合計値）を、積雪深は1~6の各半旬の最大値（年平均欄は月平均の最大値）を、各々示す。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981~2010年の30年間を、日照時間は1997年~2010年の14年間を各々統計期間とした。
 3) 2009年1月より気象観測システムが更新され、測器の種類並びにデータの測定法の一部に変更が生じた。
 4) 日照時間は回転式日照計（新型）による。

2. 大仙研究拠点 (四ツ屋)

月 半旬	気 温 (°C)										降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)	
	最 高		最 低		平 均		本 年		平 年		本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
1	1	1.6	1.9	-3.2	-4.3	-0.9	-1.1	58.0	25.1	3.3	6.5			
	2	0.2	1.5	-4.6	-4.8	-2.1	-1.5	56.5	23.7	4.1	6.5			
	3	-1.8	1.2	-5.6	-5.5	-3.7	-1.9	75.5	21.9	2.8	6.9			
	4	0.3	1.0	-4.8	-5.9	-2.3	-2.2	29.0	21.4	4.6	7.2			
	5	1.0	0.9	-6.2	-6.0	-1.7	-2.3	24.0	21.9	9.9	7.5			
	6	2.6	0.8	-7.0	-6.1	-1.7	-2.3	32.0	26.4	5.8	9.9			
月平均	0.7	1.2	-5.3	-5.5	-2.0	-1.9	275.0	138.9	30.5	43.7				
2	1	0.6	1.1	-3.8	-6.0	-1.5	-2.2	40.0	20.9	4.8	9.2			
	2	-1.2	1.5	-8.8	-5.5	-4.4	-1.8	26.0	19.7	1.2	9.9			
	3	1.4	2.0	-5.5	-5.1	-1.8	-1.5	14.0	18.5	9.3	10.7			
	4	1.0	2.4	-4.3	-4.9	-1.6	-1.2	7.0	17.0	10.6	12.5			
	5	1.2	3.0	-4.3	-4.6	-1.6	-0.7	21.0	16.1	5.0	14.9			
	6	5.9	3.6	-4.5	-4.3	0.8	-0.3	8.0	12.8	16.0	12.8			
月平均	1.2	2.1	-5.3	-5.1	-1.9	-1.4	116.0	102.5	46.9	68.0				
3	1	3.5	3.9	-4.2	-4.1	-0.2	0.0	8.5	16.2	20.3	16.0			
	2	0.6	4.5	-4.8	-3.7	-2.3	0.4	34.0	16.5	9.7	16.2			
	3	3.1	5.4	-1.6	-3.1	0.8	1.2	62.0	16.5	7.5	17.7			
	4	6.0	6.6	-1.3	-2.2	2.2	2.1	33.0	15.6	15.9	19.8			
	5	7.3	7.7	-1.6	-1.5	3.1	2.9	4.5	14.3	19.2	21.3			
	6	11.2	9.1	1.1	-0.7	5.6	4.0	17.5	17.0	23.2	26.8			
月平均	5.5	6.2	-2.0	-2.5	1.7	1.8	159.5	98.3	95.8	116.0				
4	1	11.2	11.1	-0.1	0.6	5.3	5.6	18.5	14.1	34.3	23.8			
	2	11.0	12.9	1.6	1.8	6.1	7.2	4.0	15.1	34.0	24.9			
	3	13.9	14.2	-1.5	2.9	6.0	8.3	3.0	17.3	52.9	25.4			
	4	14.7	15.2	1.5	3.8	7.8	9.3	0.0	18.7	48.0	26.1			
	5	17.0	16.4	4.6	4.7	10.1	10.4	0.0	18.9	36.5	26.9			
	6	21.2	17.7	6.6	5.5	13.7	11.4	2.0	18.5	34.4	28.5			
月平均	14.8	14.6	2.1	3.2	8.2	8.7	27.5	102.6	240.1	155.7				
5	1	19.8	18.7	9.6	6.5	13.6	12.5	25.0	19.2	18.2	29.5			
	2	17.5	19.2	6.2	7.6	11.8	13.2	22.0	20.3	32.0	28.5			
	3	24.5	19.5	9.2	8.6	16.0	13.8	12.0	20.2	27.7	27.7			
	4	18.6	20.1	8.7	9.7	13.2	14.6	26.5	19.2	22.5	28.4			
	5	18.6	20.9	12.9	10.7	15.4	15.5	23.0	17.5	12.6	30.2			
	6	27.3	22.0	14.6	11.7	20.3	16.4	12.0	17.7	60.9	38.6			
月平均	21.3	20.2	10.3	9.2	15.2	14.4	120.5	113.4	173.9	183.8				
6	1	30.6	23.1	16.2	12.8	22.7	17.5	0.0	13.2	60.0	32.2			
	2	27.1	23.8	19.8	13.8	22.8	18.4	34.0	14.4	21.0	31.1			
	3	22.4	24.3	16.8	14.7	19.3	19.0	108.0	18.0	3.0	29.4			
	4	24.3	24.6	16.8	15.4	19.7	19.6	6.5	23.4	22.1	27.0			
	5	25.5	24.9	16.6	16.2	20.1	20.1	0.0	27.2	41.4	24.7			
	6	28.4	25.3	18.2	16.7	23.0	20.5	17.5	29.2	36.1	23.7			
月平均	26.4	24.3	17.4	15.0	21.3	19.2	166.0	124.5	183.6	165.4				

7	1	29.1	25.6	18.1	17.3	23.3	21.0	0.5	32.3	46.2	22.7
	2	28.1)	26.0	20.0)	18.0	23.5)	21.5	61.0	36.7	21.9)	21.6
	3	27.2	26.5	19.7	18.6	23.0	22.1	25.0	38.0	19.0	21.9
	4	28.0	27.3	19.6	19.2	23.1	22.8	3.5	32.9	18.2	24.8
	5	29.5	28.4	20.2	19.7	24.6	23.6	39.0	26.3	39.4	28.0
	6	30.6	29.3	19.7	20.3	24.6	24.3	7.0	29.1	43.8	35.9
	月平均	28.8	27.3	19.6	18.9	23.7	22.6	136.0	192.5	188.5	155.8
8	1	31.4	29.7	23.1	20.6	26.8	24.6	8.5	26.1	29.0	30.8
	2	27.4	29.9	22.1	20.6	24.4	24.7	77.0	26.1	3.4	31.5
	3	26.2	29.8	20.4	20.4	22.7	24.6	71.0	26.9	8.5	31.1
	4	27.6	29.6	21.9	20.0	24.1	24.2	57.5	30.3	5.4	30.5
	5	28.9	29.0	21.3	19.4	24.4	23.6	110.5	34.5	30.9	29.3
	6	26.5	28.3	18.0	18.8	21.6	23.0	0.5	44.6	22.6	33.0
	月平均	28.0	29.4	21.0	20.0	23.9	24.1	325.0	192.9	99.8	184.5
9	1	27.7	27.3	18.3	18.0	22.2	22.1	23.5	36.0	24.8	25.9
	2	27.2	26.3	16.6	17.0	21.2	21.1	19.0	33.5	43.5	23.6
	3	24.0	25.3	13.4	15.7	18.1	20.0	11.0	30.7	39.8	22.1
	4	22.6	24.4	11.5	14.4	16.1	18.9	27.4	27.4	33.6	22.0
	5	23.0	23.3	10.9	13.1	16.5	17.7	33.5	23.7	28.9	22.0
	6	24.0	22.2	11.7	11.7	17.2	16.5	0.0	22.0	40.7	22.0
	月平均	24.8	24.8	13.8	15.0	18.6	19.4	114.5	169.7	211.3	138.4
10	1	21.3	21.2	9.1	10.6	15.2	15.4	12.0	22.4	21.4	21.5
	2	19.4	20.2	7.9	9.5	13.0	14.4	39.5	23.0	32.9	21.6
	3	18.6	19.3	7.1	8.4	12.6	13.4	56.5	23.0	31.6	22.0
	4	17.3	18.1	6.9	7.0	11.8	12.1	37.0	23.0	17.7	22.0
	5	16.8	16.7	6.4	5.9	11.0	10.8	27.0	24.5	23.6	20.8
	6	16.6	15.4	4.5	5.0	9.7	9.8	37.5	32.5	29.9	22.1
	月平均	18.3	18.4	6.9	7.6	12.1	12.6	209.5	147.4	157.1	131.1
11	1	16.3	14.4	5.4	4.2	10.3	9.0	32.5	28.2	11.8	16.9
	2	13.8	13.2	3.1	3.4	8.6	8.0	2.5	29.4	17.8	15.9
	3	10.6)	11.6	1.3)	2.4	5.4)	6.7	63.5	30.9	8.8]	14.2
	4	8.1	10.2	1.1	1.3	4.0	5.4	8.0	30.6	9.7	12.7
	5	12.1	9.0	0.2	0.6	5.8	4.5	3.5	29.9	24.6	11.9
	6	12.9	7.9	5.2	0.0	8.4	3.7	38.0	30.3	15.0	11.1
	月平均	12.3	11.0	2.7	2.0	7.1	6.2	148.0	183.6	87.7	81.2
12	1	5.3	6.7	0.8	-0.5	2.8	2.8	93.0	30.4	0.0	9.3
	2	1.2	5.5	-3.1	-1.2	-0.8	2.0	29.0	29.3	1.7	7.4
	3	0.7	4.2	-3.6	-2.1	-1.3	1.0	54.0	27.3	1.4	6.7
	4	2.8	3.4	-2.9	-2.9	0.1	0.3	37.0	26.0	0.0	7.0
	5	1.4	3.1	-3.6	-3.3	-1.1	-0.1	52.5	26.2	3.1	7.0
	6	0.7	2.6	-5.1	-3.8	-2.0	-0.6	14.5	31.5	6.1	8.0
	月平均	2.0	4.2	-3.0	-2.3	-0.4	0.9	280.0	170.3	12.3	45.3
	年平均	15.4	15.3	6.6	6.3	10.7	10.6	2077.5	1735.7	1527.5	1468.1

注. 1) 半月期間等の内容については、本所(厨川)の注記1)を参照。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010の30年間を、日照時間は1987～2010の24年間を各々統計期間とした。
 3))と]は統計値を求める対象となる資料が、それぞれ許容範囲内と許容範囲を超えて一部欠けていることを示す。
 4) 日照時間は2006年11月13日までは太陽電池式日照計、それ以降は回転式日照計による。

3. 福島研究拠点

月 半旬	気 温 (°C)						積算雨量 (mm)		積算日照時間 (hour)		日 射 量 (MJ/m ²)		最大積雪深 (cm)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
1	1	4.1	5.5	-3.1	-3.2	1.0	6.5	8.7	23.2	18.9	6.70	6.50	4.9	8.2
	2	3.2	5.0	-4.4	-3.3	0.5	6.0	11.6	18.8	16.0	7.22	6.23	3.3	13.2
	3	2.8	4.6	-5.8	-3.6	0.0	1.0	10.8	22.0	16.9	6.42	6.87	2.0	9.7
	4	3.5	4.6	-4.6	-4.0	-0.2	0.0	14.4	24.8	19.6	8.17	6.62	1.5	7.1
	5	5.8	3.6	-4.0	-4.3	-0.5	0.0	0.0	9.2	21.5	7.31	7.09	2.3	9.7
	6	6.8	4.2	-4.6	-4.2	-0.3	1.5	10.7	10.7	26.1	27.7	8.43	8.62	2.5
月平均	4.4	4.5	-4.4	-3.9	0.0	63.9	136.3	7.41	122.3	7.02	7.02	4.9	19.3	
2	1	6.6	4.1	-2.4	-3.8	-0.1	0.5	7.0	22.0	21.7	8.00	8.05	2.3	12.9
	2	0.6	6.0	-5.5	-3.6	1.0	27.5	13.1	20.0	21.1	7.16	8.27	38.6	7.3
	3	2.4	5.5	-5.3	-3.6	0.9	54.0	6.7	21.0	23.8	7.73	8.76	69.7	4.8
	4	2.7	5.9	-4.0	-2.7	1.2	17.0	13.3	35.1	22.7	12.83	9.56	55.6	5.3
	5	3.0	6.3	-6.5	-2.6	1.6	0.0	11.7	37.1	22.5	13.05	10.02	24.8	7.1
	6	9.0	7.4	-1.2	-2.5	2.5	0.0	6.4	21.6	14.0	12.54	11.54	16.4	2.4
月平均	3.7	5.8	-4.4	-3.1	1.2	99.0	57.4	156.7	129.1	10.05	9.10	69.7	15.9	
3	1	4.8	7.4	-0.9	-2.3	2.6	16.0	12.4	18.3	22.3	9.03	10.74	5.8	3.2
	2	2.8	7.4	-5.0	-2.6	1.7	1.0	17.0	36.5	24.6	14.47	12.11	0.0	5.4
	3	6.2	9.3	-0.9	-1.6	3.6	27.0	11.6	22.8	24.1	10.80	12.56	0.0	1.4
	4	9.5	10.2	-0.1	-1.0	4.5	53.0	11.1	24.2	27.9	10.96	13.61	0.0	0.9
	5	11.2	10.6	0.8	-0.4	4.8	0.0	18.7	39.4	23.9	15.70	13.05	0.0	1.1
	6	15.5	11.4	4.9	0.7	5.9	75.5	22.3	36.1	31.3	12.66	12.53	0.0	3.5
月平均	8.5	9.3	0.0	-1.2	4.0	172.5	93.1	177.3	159.3	12.28	12.44	5.8	9.0	
4	1	13.6	13.3	2.4	1.1	7.3	53.0	12.1	36.1	32.8	15.78	17.22	0.0	0.5
	2	14.3	14.7	1.7	2.9	8.2	0.0	13.8	45.8	31.1	19.95	14.37	0.0	0.0
	3	16.0	15.6	0.9	3.9	8.7	0.0	14.0	54.0	27.3	23.59	14.38	0.0	0.0
	4	16.0	17.4	3.6	4.3	9.4	0.0	19.4	44.3	27.0	19.89	14.86	0.0	0.0
	5	17.9	17.7	3.9	5.9	11.2	5.0	26.8	41.9	31.6	19.44	16.24	0.0	0.0
	6	20.4	19.5	7.4	6.2	14.2	23.5	19.3	38.0	29.6	17.54	17.54	0.0	0.0
月平均	16.3	16.4	3.3	4.1	10.2	81.5	102.5	260.3	188.4	19.37	15.75	0.0	0.5	
5	1	21.1	19.6	10.0	6.9	13.1	5.5	18.9	36.9	27.5	18.41	17.06	0.0	0.0
	2	19.5	20.7	6.2	7.8	14.2	1.5	16.2	46.5	30.4	21.35	16.86	0.0	0.0
	3	24.4	20.5	9.6	8.9	14.6	2.5	23.0	39.9	28.5	18.35	15.34	0.0	0.0
	4	20.8	20.3	8.2	9.6	14.7	8.0	11.8	46.0	28.8	20.76	15.68	0.0	0.0
	5	20.0	22.1	10.7	10.0	15.7	41.0	11.9	29.6	39.3	13.85	17.45	0.0	0.0
	6	26.8	23.5	14.2	11.0	16.3	3.5	20.5	47.8	36.6	19.98	17.78	0.0	0.0
月平均	22.2	21.1	10.0	9.0	15.1	62.0	103.6	246.7	199.7	18.82	16.74	0.0	0.0	
6	1	27.5	25.0	15.0	12.1	18.8	0.5	11.9	43.3	36.9	20.10	19.89	0.0	0.0
	2	20.9	22.8	16.6	13.0	17.8	103.5	11.3	9.1	23.8	6.38	15.08	0.0	0.0
	3	23.8	24.0	16.2	14.2	19.2	58.0	22.6	27.9	26.6	13.70	15.67	0.0	0.0
	4	26.2	23.6	16.0	15.1	20.4	39.0	23.5	34.9	20.2	18.03	12.95	0.0	0.0
	5	24.6	23.1	15.3	15.5	19.7	7.0	35.0	40.5	16.5	17.22	12.46	0.0	0.0
	6	24.3	24.4	17.0	16.2	20.0	188.0	37.3	27.3	27.6	14.25	13.19	0.0	0.0
月平均	24.6	23.9	16.0	14.5	19.8	396.0	146.8	183.0	175.2	14.95	14.58	0.0	0.0	

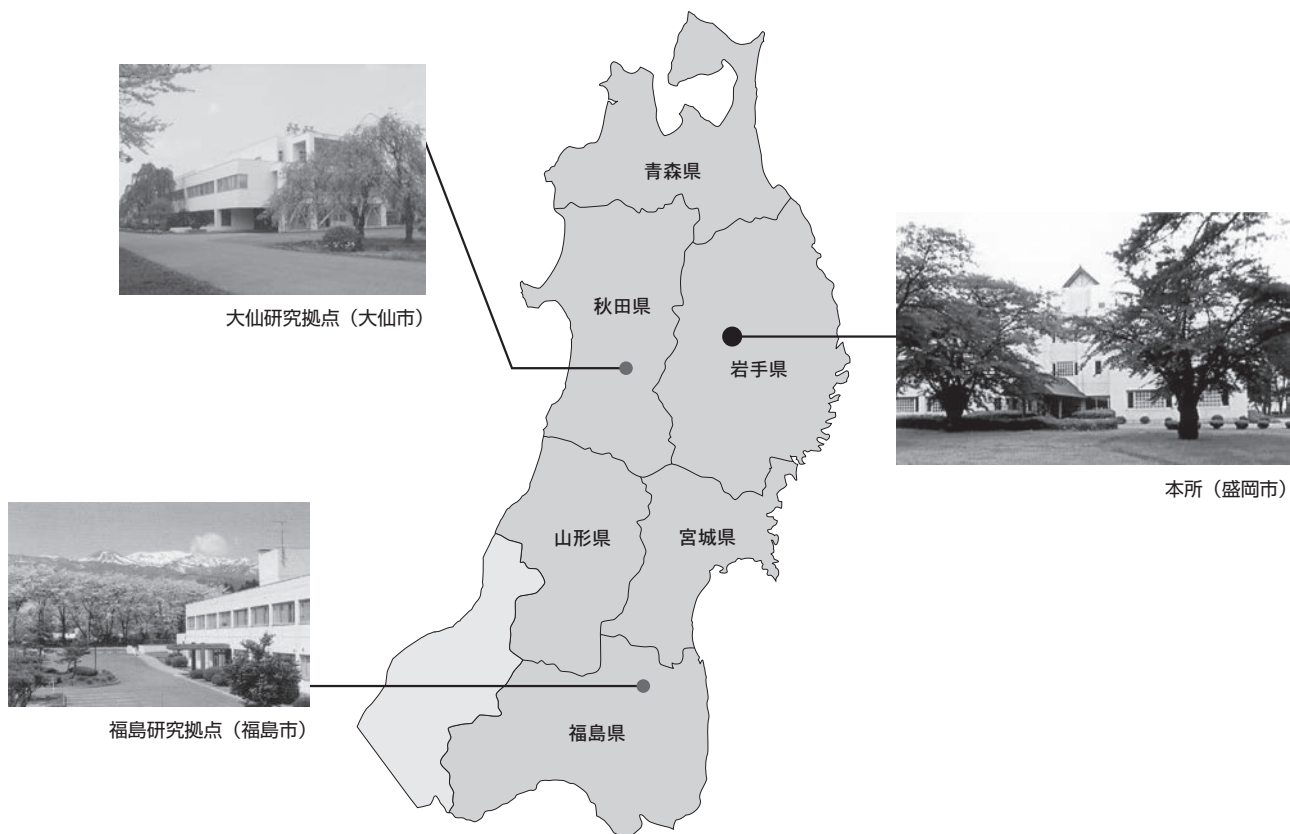
7	1	24.4	26.0	17.3	17.1	20.4	21.0	33.0	23.8	24.3	19.8	13.27	13.87	0.0	0.0
	2	26.6	26.0	18.7	17.5	22.1	21.2	139.5	33.3	22.2	21.0	13.12	12.44	0.0	0.0
	3	28.5	25.9	19.5	18.0	23.8	21.5	1.5	49.4	35.3	14.1	16.35	11.57	0.0	0.0
	4	23.0	27.4	19.0	18.8	20.5	22.5	122.0	24.5	5.4	18.1	5.92	12.96	0.0	0.0
	5	28.8	29.0	20.2	19.5	24.3	23.7	8.0	22.6	32.7	22.5	16.39	14.57	0.0	0.0
	6	30.4	30.3	18.1	20.3	24.5	24.5	7.0	16.8	30.4	31.3	21.60	16.06	0.0	0.0
	月平均	27.0	27.4	18.8	18.5	22.6	22.4	311.0	168.7	172.7	135.5	14.67	13.53	0.0	0.0
8	1	33.0	29.9	21.4	20.5	26.0	24.6	33.5	16.9	40.9	23.5	20.80	14.41	0.0	0.0
	2	28.6	29.4	20.7	20.0	23.7	24.1	57.0	45.3	20.2	25.0	10.81	12.96	0.0	0.0
	3	26.7	28.9	19.9	19.9	23.0	23.8	5.5	28.3	21.0	22.8	12.01	12.67	0.0	0.0
	4	27.8	28.3	20.8	19.4	23.6	23.0	14.5	32.9	24.6	27.5	13.35	12.90	0.0	0.0
	5	29.5	29.2	20.5	19.6	23.9	23.8	21.4	21.4	30.4	23.6	14.66	14.00	0.0	0.0
	6	22.8	27.8	17.0	18.8	19.4	22.6	44.5	53.2	23.0	26.9	10.25	11.16	0.0	0.0
	月平均	27.9	28.9	20.0	19.7	23.1	23.6	199.5	198.0	160.1	164.4	13.54	12.37	0.0	0.0
9	1	24.0	28.1	18.2	18.6	20.3	22.9	14.5	20.3	16.9	25.7	9.46	12.40	0.0	0.0
	2	25.4	26.0	15.9	17.8	20.1	21.3	3.5	24.2	40.2	21.4	15.90	9.44	0.0	0.0
	3	23.7	25.2	11.8	17.1	17.3	20.7	6.5	33.9	35.0	22.0	15.29	10.08	0.0	0.0
	4	21.6	25.5	11.4	15.6	16.3	19.9	1.0	34.1	34.9	25.0	14.30	10.24	0.0	0.0
	5	22.7	22.6	11.5	14.0	16.8	18.0	14.0	35.8	35.1	18.3	13.08	8.65	0.0	0.0
	6	23.9	21.7	11.6	12.8	17.2	17.2	0.0	30.7	40.4	22.2	17.43	9.82	0.0	0.0
	月平均	23.5	24.9	13.4	16.1	18.0	20.0	39.5	182.5	202.5	140.1	14.24	10.10	0.0	0.0
10	1	19.9	21.3	8.6	12.1	16.3	16.2	26.5	32.5	12.6	15.3	7.02	8.52	0.0	0.0
	2	20.8	19.2	8.8	10.1	14.0	14.3	118.0	36.4	33.8	15.5	13.81	8.65	0.0	0.0
	3	17.8	19.3	8.4	10.2	12.8	14.8	133.5	32.1	29.7	15.8	11.97	8.55	0.0	0.0
	4	17.8	18.9	6.1	8.2	11.6	13.2	6.0	28.4	30.3	19.0	11.69	8.90	0.0	0.0
	5	16.7	17.2	7.5	7.0	11.3	12.0	20.5	18.2	20.1	20.3	8.52	8.43	0.0	0.0
	6	17.8	16.7	5.7	5.9	11.3	11.1	0.0	19.3	39.9	26.8	11.64	8.64	0.0	0.0
	月平均	18.5	18.7	8.3	8.8	12.8	13.6	304.5	164.5	166.5	115.5	10.81	8.53	0.0	0.0
11	1	15.7	14.6	6.9	4.5	10.7	9.3	1.0	22.3	20.6	17.9	7.63	9.08	0.0	0.1
	2	15.4	15.5	3.5	4.5	9.8	9.6	0.5	13.5	29.0	19.7	10.14	7.26	0.0	0.0
	3	10.7	13.3	2.6	3.0	6.4	8.0	1.0	6.5	14.5	19.0	5.72	6.53	0.0	0.0
	4	9.6	12.4	0.0	2.0	4.4	6.9	0.0	8.3	23.1	18.8	7.91	6.34	0.0	0.0
	5	12.0	11.8	1.1	0.6	5.9	5.7	19.5	9.9	24.1	23.0	7.51	6.52	0.0	0.0
	6	11.1	10.7	4.3	1.5	7.2	5.7	42.0	13.0	13.4	22.4	4.43	6.15	0.0	0.0
	月平均	12.4	12.9	3.1	2.6	7.4	7.4	64.0	72.7	124.5	122.9	7.22	6.87	0.0	0.1
12	1	8.1	9.7	1.4	-0.1	4.6	4.6	25.0	6.3	7.7	19.7	4.45	6.34	10.3	0.8
	2	4.0	8.6	-3.5	-0.4	0.0	3.8	2.0	6.2	20.7	17.1	6.96	5.00	7.5	0.0
	3	3.1	6.8	-3.1	-1.7	0.1	2.2	0.0	10.9	11.4	14.9	5.04	5.88	9.4	1.1
	4	3.3	6.8	-3.7	-2.2	-0.7	2.0	22.0	5.5	17.8	17.8	4.41	6.14	14.5	8.7
	5	4.7	6.8	-2.9	-2.2	0.6	1.8	6.5	4.8	16.4	18.3	6.81	5.92	12.0	4.9
	6	3.7	5.0	-3.2	-3.4	-0.4	0.7	5.5	8.4	24.1	17.8	6.50	5.88	2.4	4.9
	月平均	4.5	7.3	-2.5	-1.7	0.7	2.5	61.0	42.2	91.7	108.0	5.72	6.46	14.5	12.5
年平均	16.1	17.0	6.8	6.9	11.10	11.6	1805.5	1370.5	2078.3	1934.2	12.42	11.12	69.7	23.6	

注 ① 半旬および月平均の値は、気温はそれぞれ日最高・最低・平均の平均値、積算雨量および積算日照時間は積算値、日射量は日積算日射量の平均値、最大積雪深は最大値を示しています。
 ② 値は積算値(統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容できる範囲内)を、値は資料不足値(許容する範囲を超えて資料が欠けている)を示します。資料不足値は十分な信頼性を保障できないため注意が必要です。×はデータ欠損を示します。
 ③ 平年値は1989年～2005年度の17年間の平均値(積算値、資料不足値の別は示してありません)。
 ④ 日照時間の測定は1988年から1993年9月まではバイメタル式ガラス筒全天候型日照計、1993年10月以降は、太陽電池式日照計によるものです。
 ⑤ 積雪深の測定は、2007年11月28日までは目視、11月29日からは積雪深計によるものです。

Ⅷ 東北農業研究センターの所在地等

VIII 東北農業研究センターの所在地等

- * 東北農業研究センター（本所）** 〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 ☎019-643-3433(代表)
(IGR厨川駅より徒歩8分) (盛岡駅より菓子車庫行バスで約20分、農業研究センター下車)
- 野菜花き担当 〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92 ☎019-643-3433(代表)
(盛岡駅より菓子車庫行バスで約25分、果樹研究所前下車、徒歩3分)
- * 大仙研究拠点** 〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字下古道3 ☎0187-66-1221(代表)
(JR田沢湖線北大曲駅より徒歩3分)
- 大豆育種担当 〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字上ノ台297 ☎0187-75-1084
(JR奥羽本線刈和野駅より徒歩5分)
- * 福島研究拠点** 〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50 ☎024-593-5151(代表)
(福島駅東口より荒井行バス約30分自衛隊前(終点)下車、徒歩3分)



◆お問い合わせ先

- * 代表…………… ☎ 019-643-3433 (企画管理部庶務チーム)
- * 共同研究など…………… ☎ 019-643-3402 (産学官連携支援センター)
- * 研究成果・広報など…………… ☎ 019-643-3414, 3417 (企画管理部情報広報課)
- * e-mail…………… www-tohoku@naro.affrc.go.jp
- * ホームページ…………… <http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/>

平成26年度 東北農業研究センター年報

平成 27 年 10 月発行

編集・発行 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

所長 石 黒 潔

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平 4

電話 019(643)3414、3417

(企画管理部 情報広報課)
